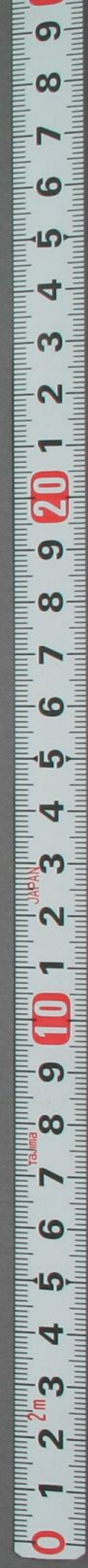




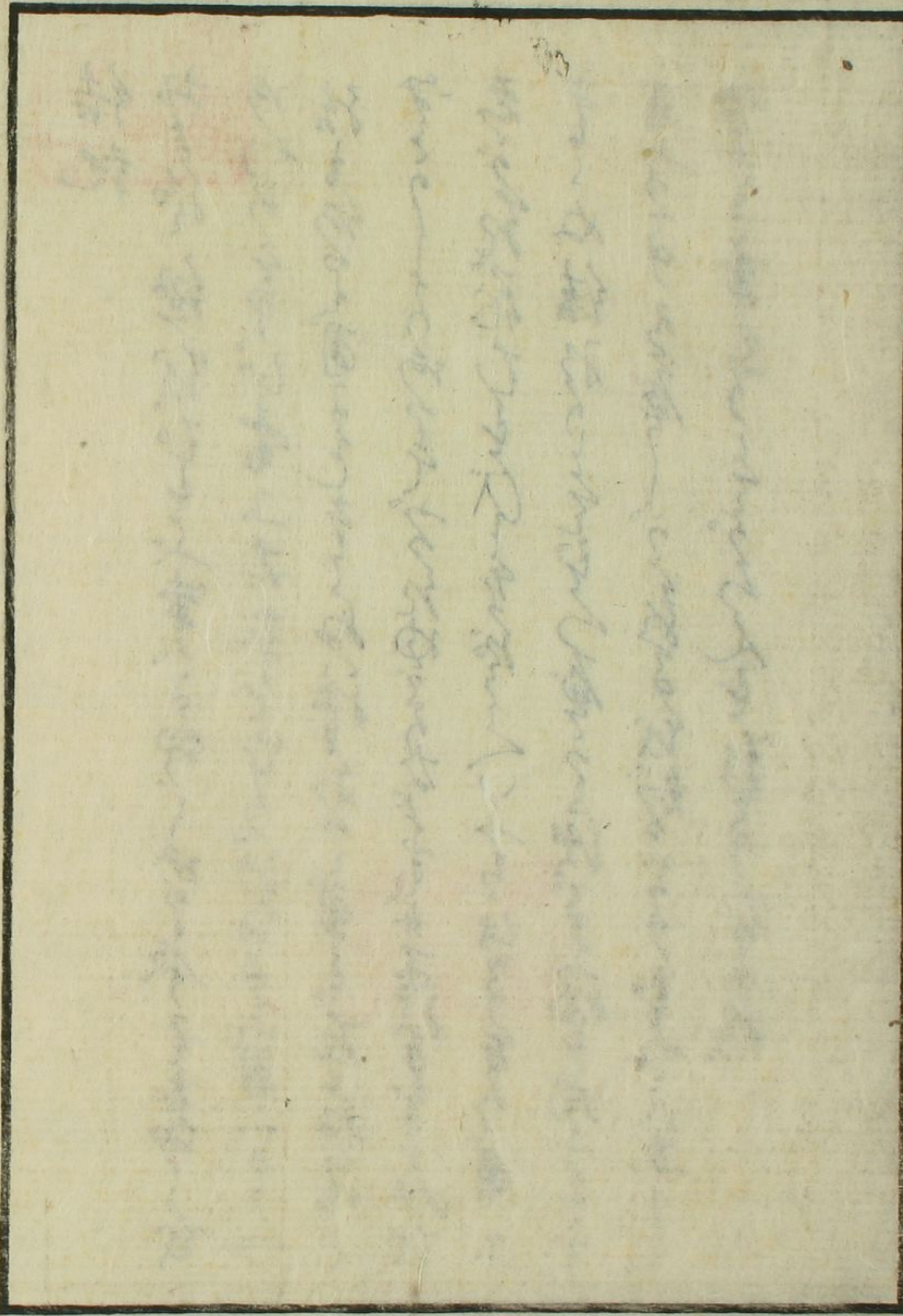
むすひ乃記

下の巻

73  
6651  
2止

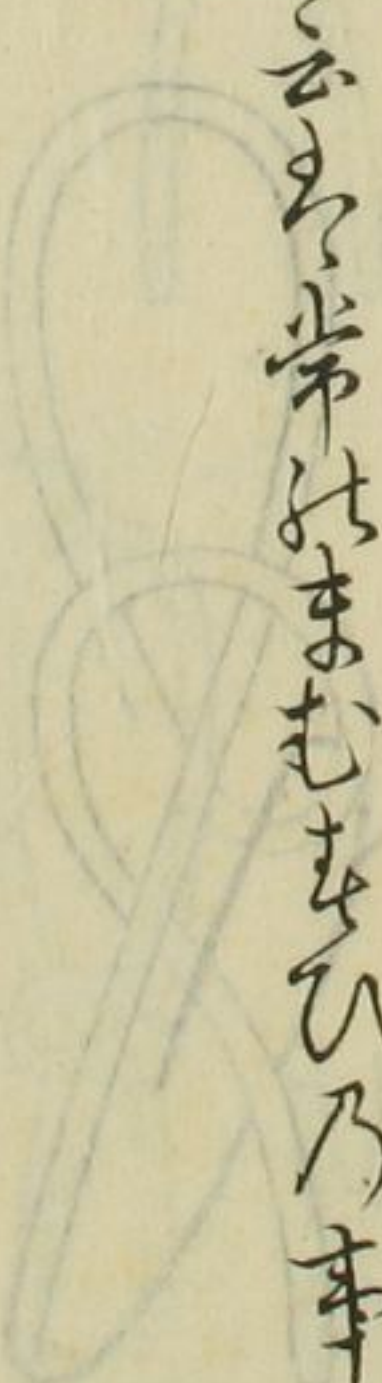


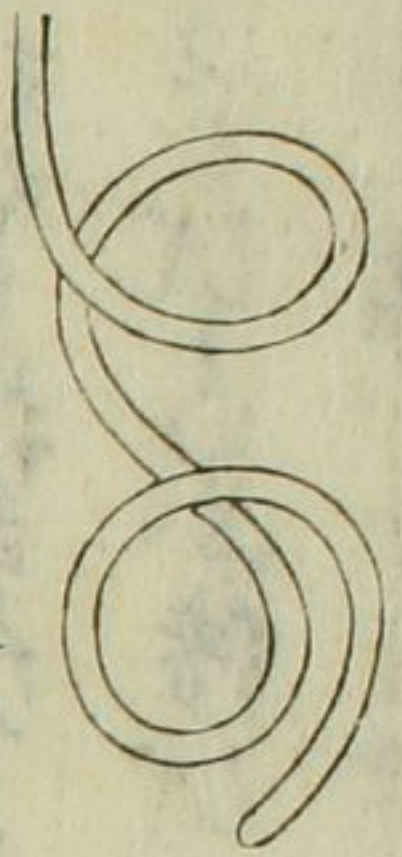




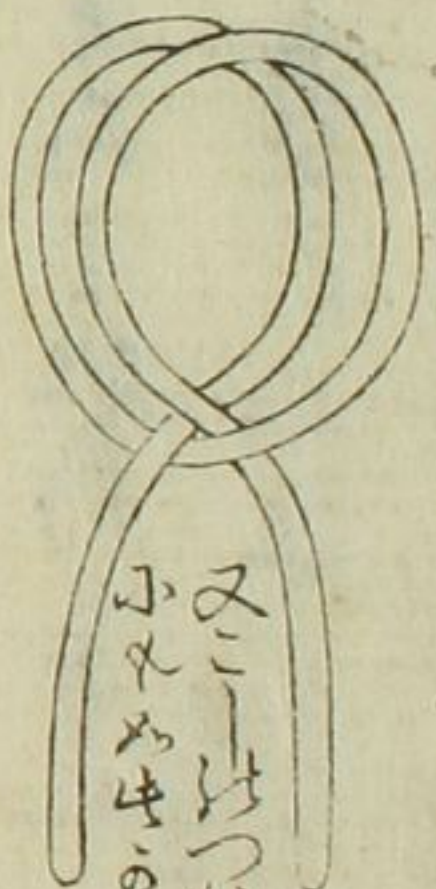
結の結び振忌

一 十の結び又十の結びと云ふ常結まむまひ乃事之又  
 一 玉む結びとも云  
 一 かのさかといふまのたぐふわあとおるを云日なをたふた  
 一 瑞者若小れゆへ一をつとねがも云 又かこのねとも云  
 一 まろ日れといふあ方小日れをゆるを云之右の之点ハ常  
 一 人の志あたるむまむびかこあう 又あつがねとも云  
 一 せむがうむまむびとも右のまろ日れ乃事  
 一 うはまむびといふ結び一名この規どじ一名ハかもゆが一名ハ和  
 一 由一各ハのくはくとも云むまむび振左のまむ  
 一 又一名がむむびとも云常の若小山結のけ不附のむむび





此二つを引を引てこのまな  
を重ぬき下の圈はゆるみ解る



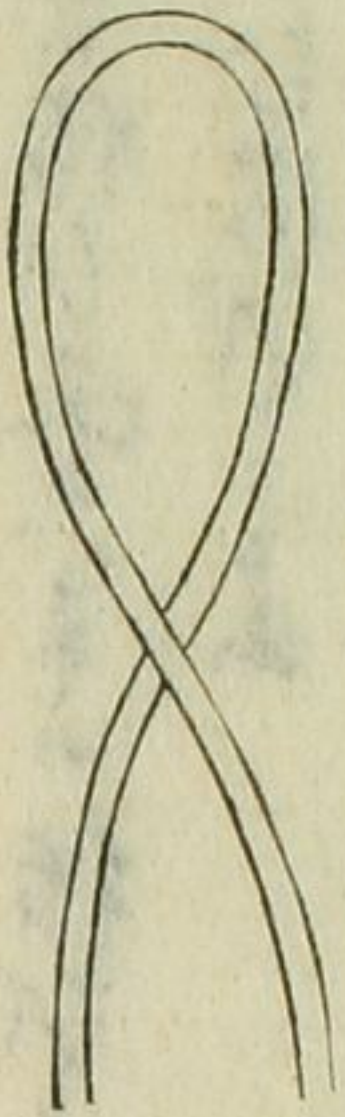
又この引を引ておのえ不付る  
小糸のまはし

上の圈のゆる二つのまなを重ぬきおのえ不  
ちるこのまはしのお山供からゆるみ此か

一をゆるみむゆびと云ハ極やらひなを結ぶ時ふも用ふるむゆび  
根之下部の若も知りたる結びやう左のまな

一ゆはあちのまな

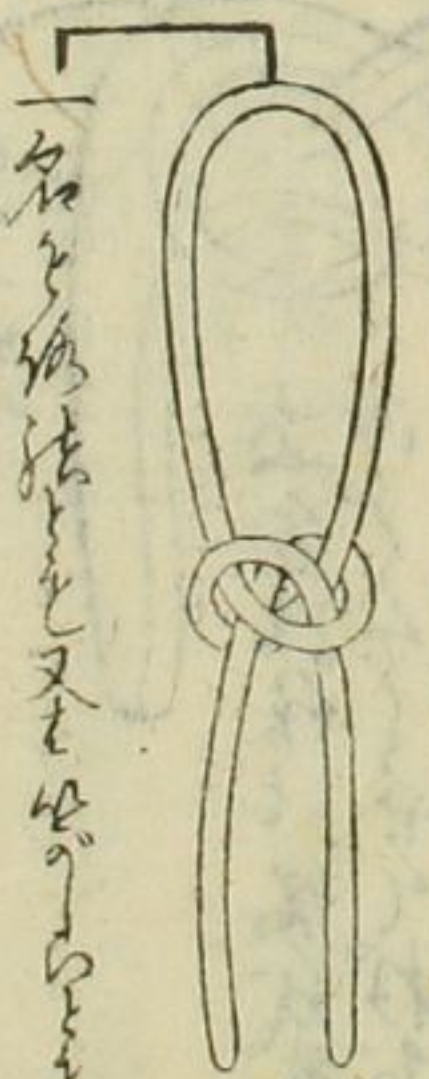
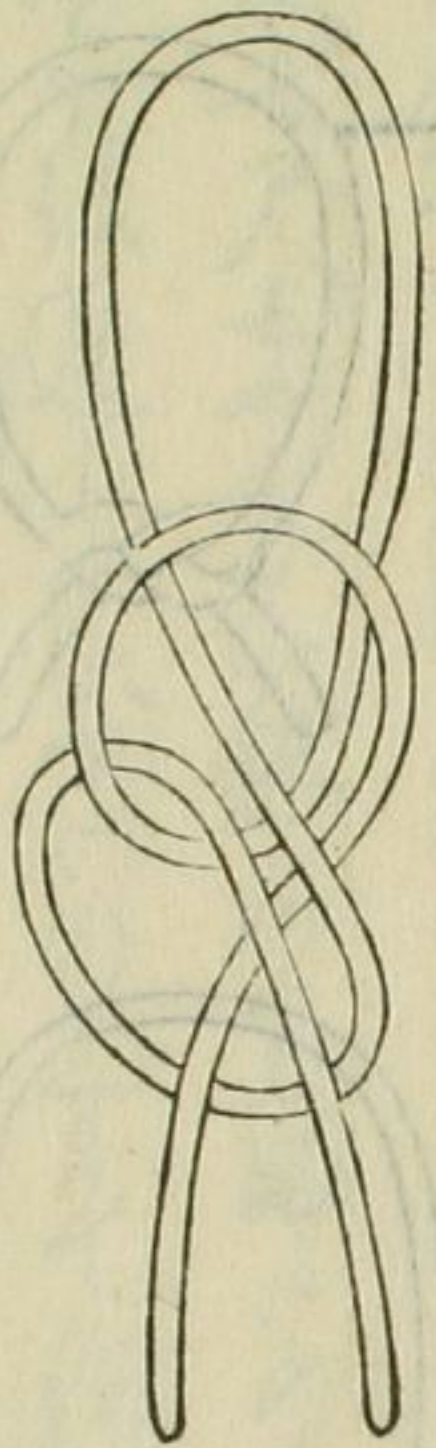
二ゆはあちのまな



糸引のゆる引通れ

三 糸は糸引のゆる引をせむは糸引

四 引をゆるむは糸引

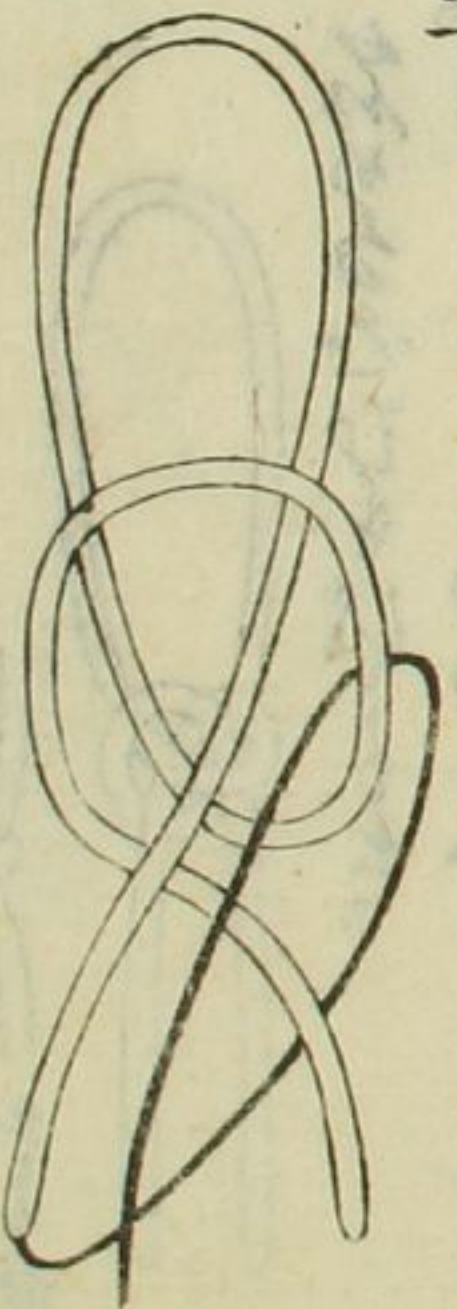


うすま  
糸引

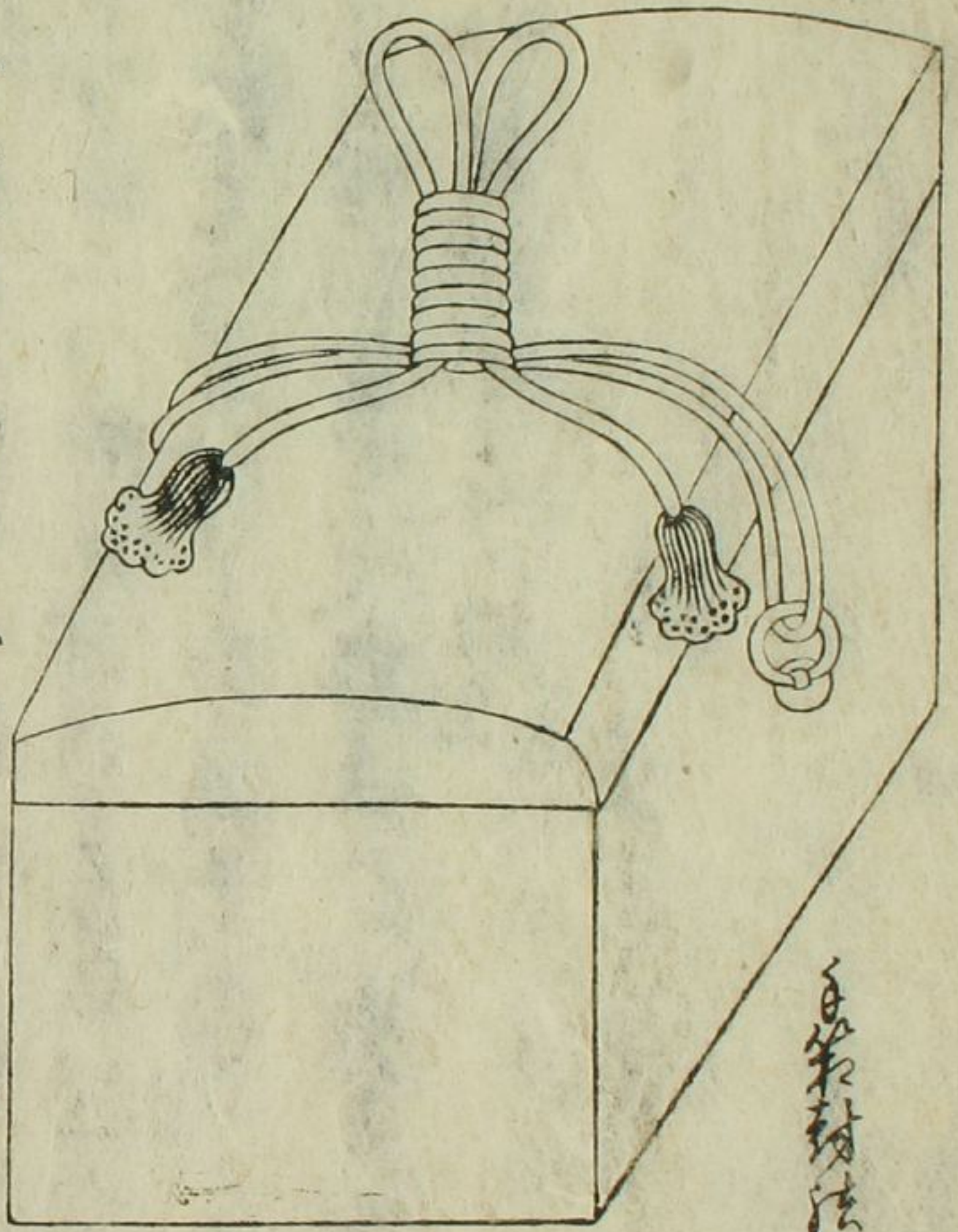
糸引のゆる引をせむは糸引

一 糸引のゆる引をせむは糸引  
糸引のゆる引をせむは糸引

二 糸引のゆる引をせむは糸引



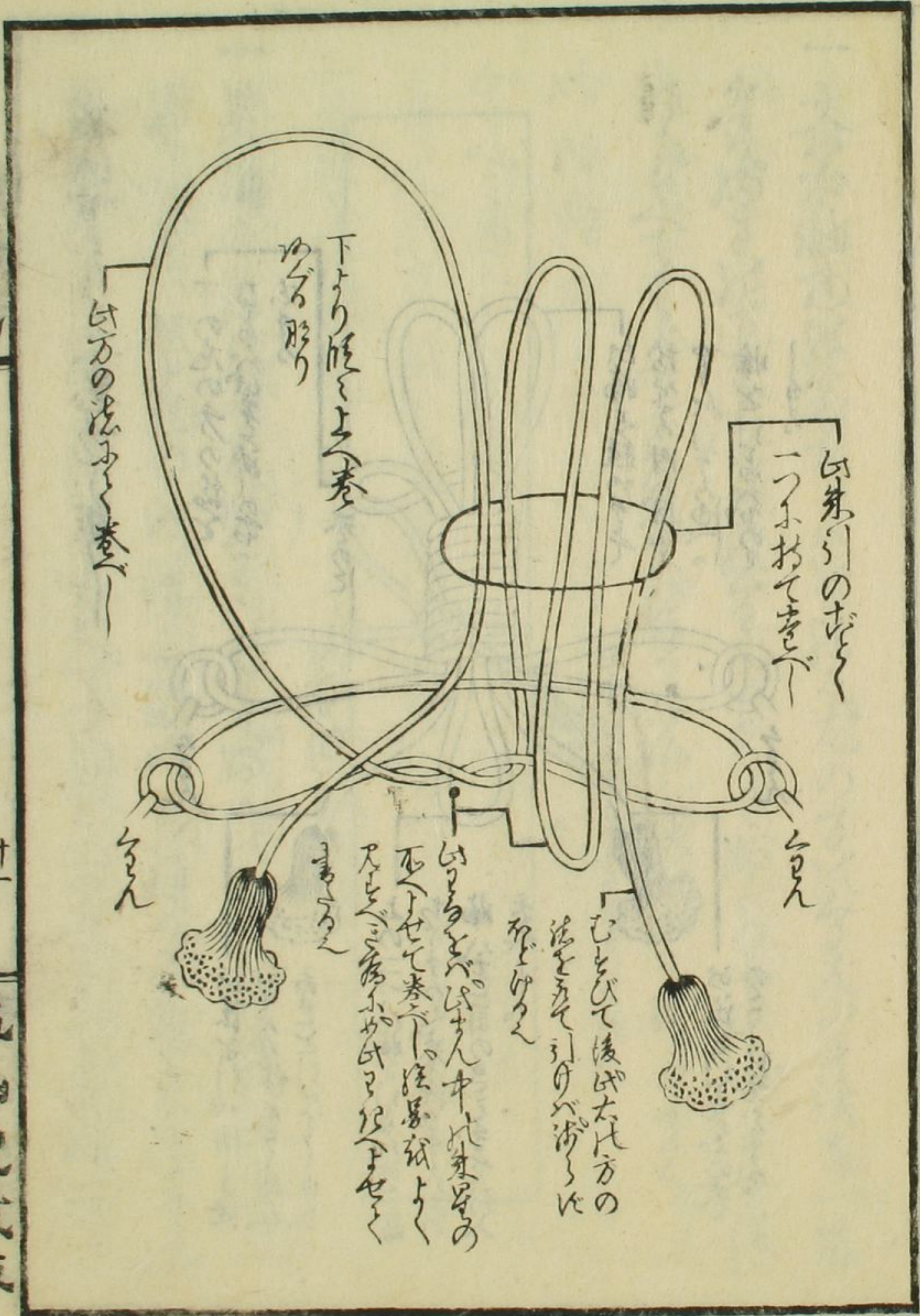




箱飾法

ひまひ  
尾の糸  
お

結び申す。先一むとびして。板たの方れ結ふ。上よりなる二つや一  
なる二つなり。板たの方の法より。なる二つなり。一方らたの  
方れり。なるおた。一方ハ巻。一。



白糸引の結び  
一つおおてき

下より紐くよ巻  
ゆる形

一方の法より巻

おん

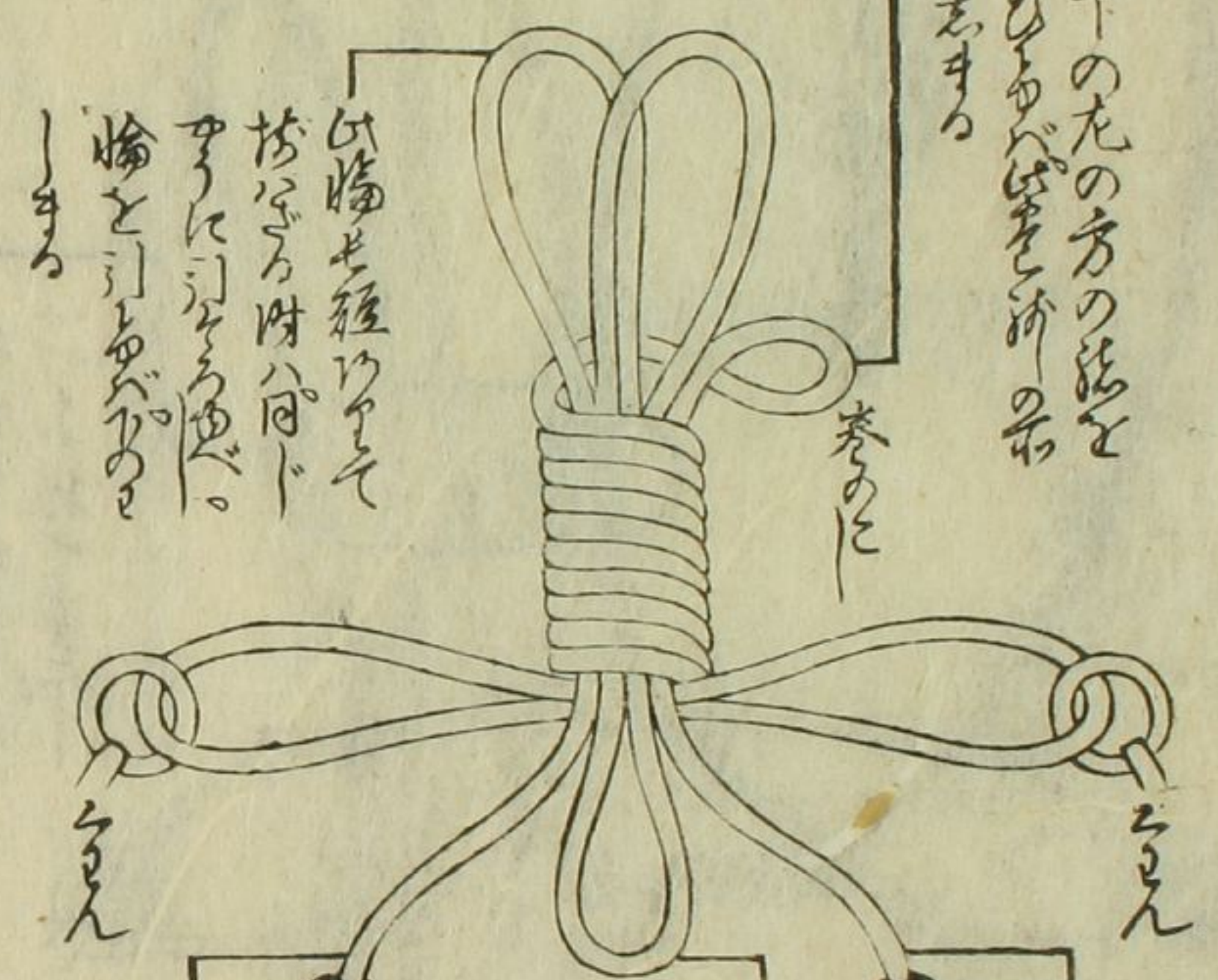
おん

むとびて後板たは方の  
法を引ひはゆは  
おん

ひまひとびはん中れ糸の  
おんせて巻。法より  
おんせて巻。法より

如左下より上へ巻めて行く

下の丸の方の法を  
ひよはばきと併せ  
志す



此法よりバチりたる  
形を添えてすめたる  
おきと引くより

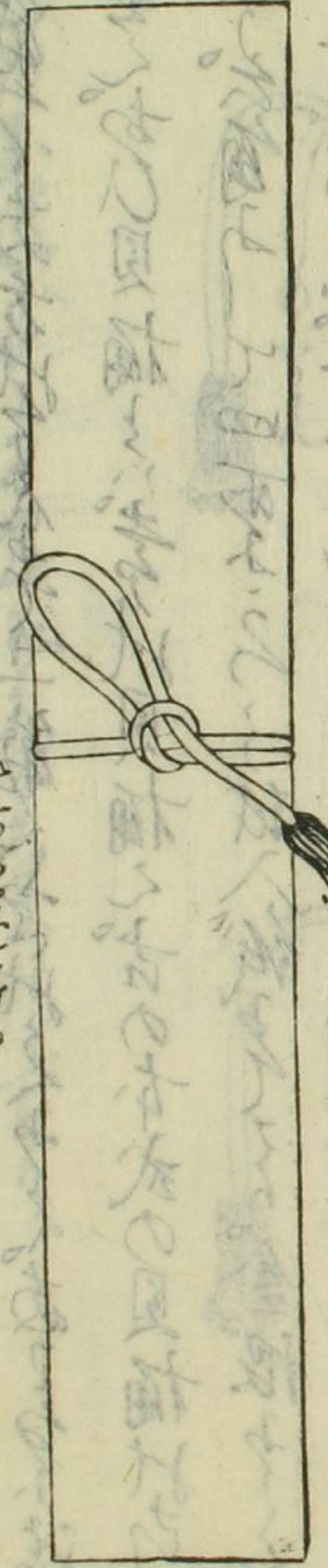
上の二つは幅を引かばり幅  
ちとすたるを添たりとすたる  
幅を添目のさすを引入  
すべし。

此法より上へ巻  
めたる

此端を極めて  
括弧より付し向に  
中に引をりたる  
端と引あはりの  
しずく

一文筆油封はねわたりは行法をたのきしすんお申儀を一筋  
おろしは方とちの方れすんお申すは始りの上中かごを添  
りおとせもせしは始りたる法を法び申すは同じくも

此方のくまふともを添して法



は方申法より

一貝桶の法はあ方れすんお申すは始りの上中かごを添  
りおとせもせしは始りたる法を法び申すは同じくも  
金浪あもたき法を書き一つ貝と二つおりて貝桶二つお

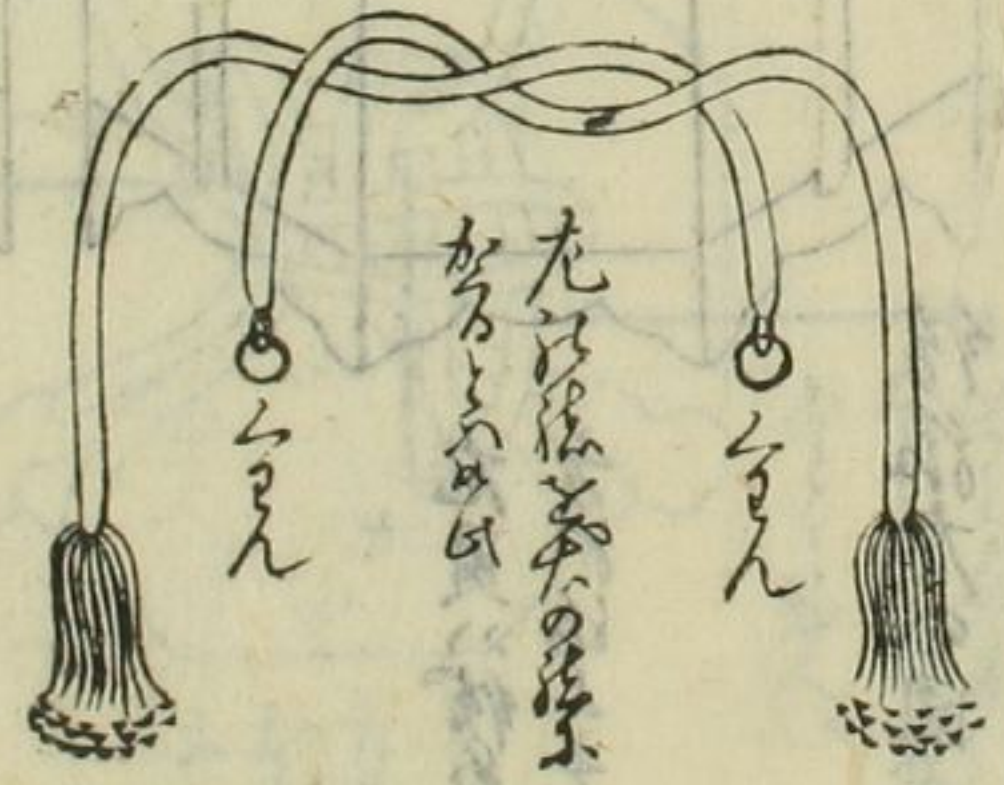
包吉巳  
冊二  
巻紙の巻法

加藤... 桶... 中... 甲の板... 二... 三...

貝... 紙... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...



太の法紙... 丸の法紙...



丸の法紙... 太の法紙...

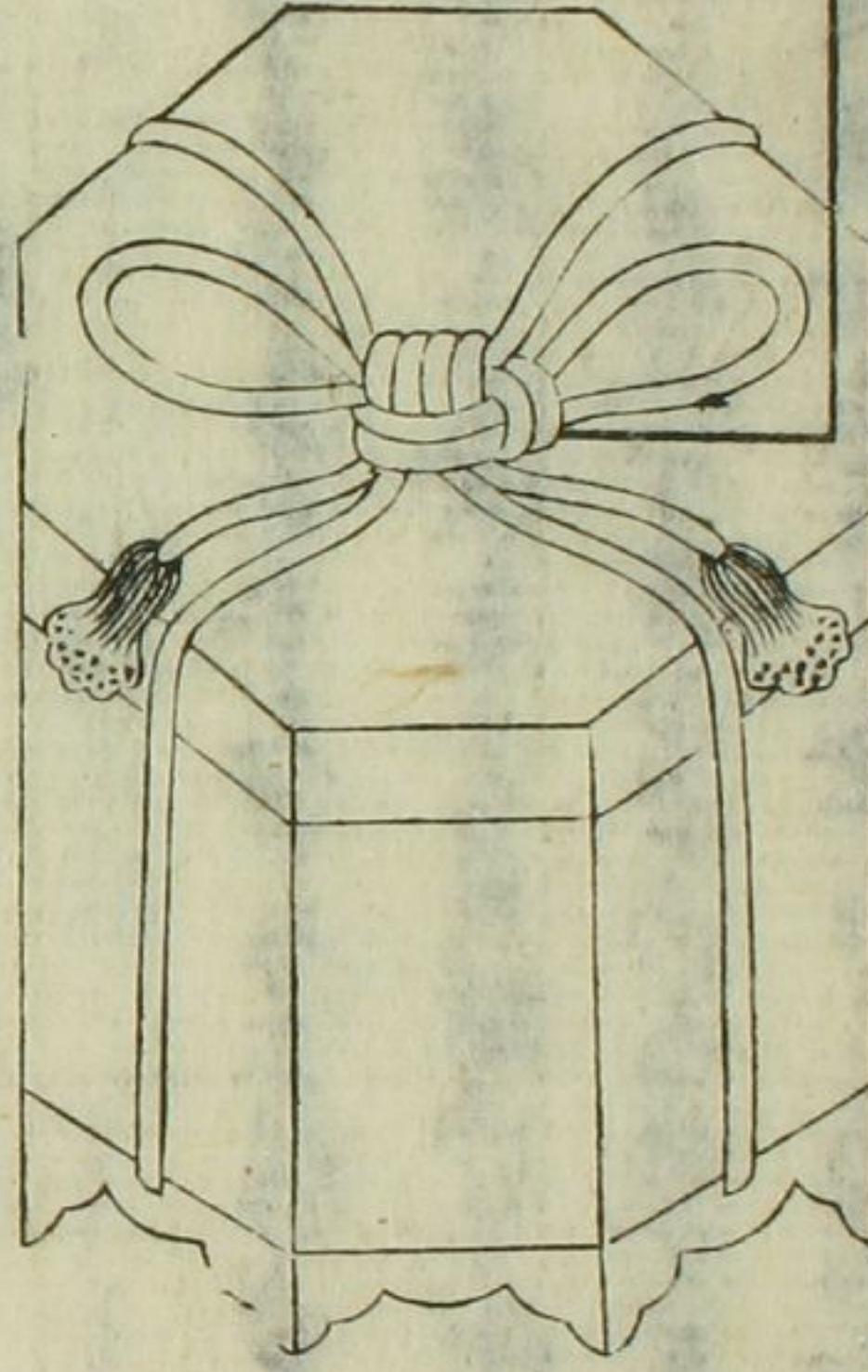
一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...



右の方より左へ

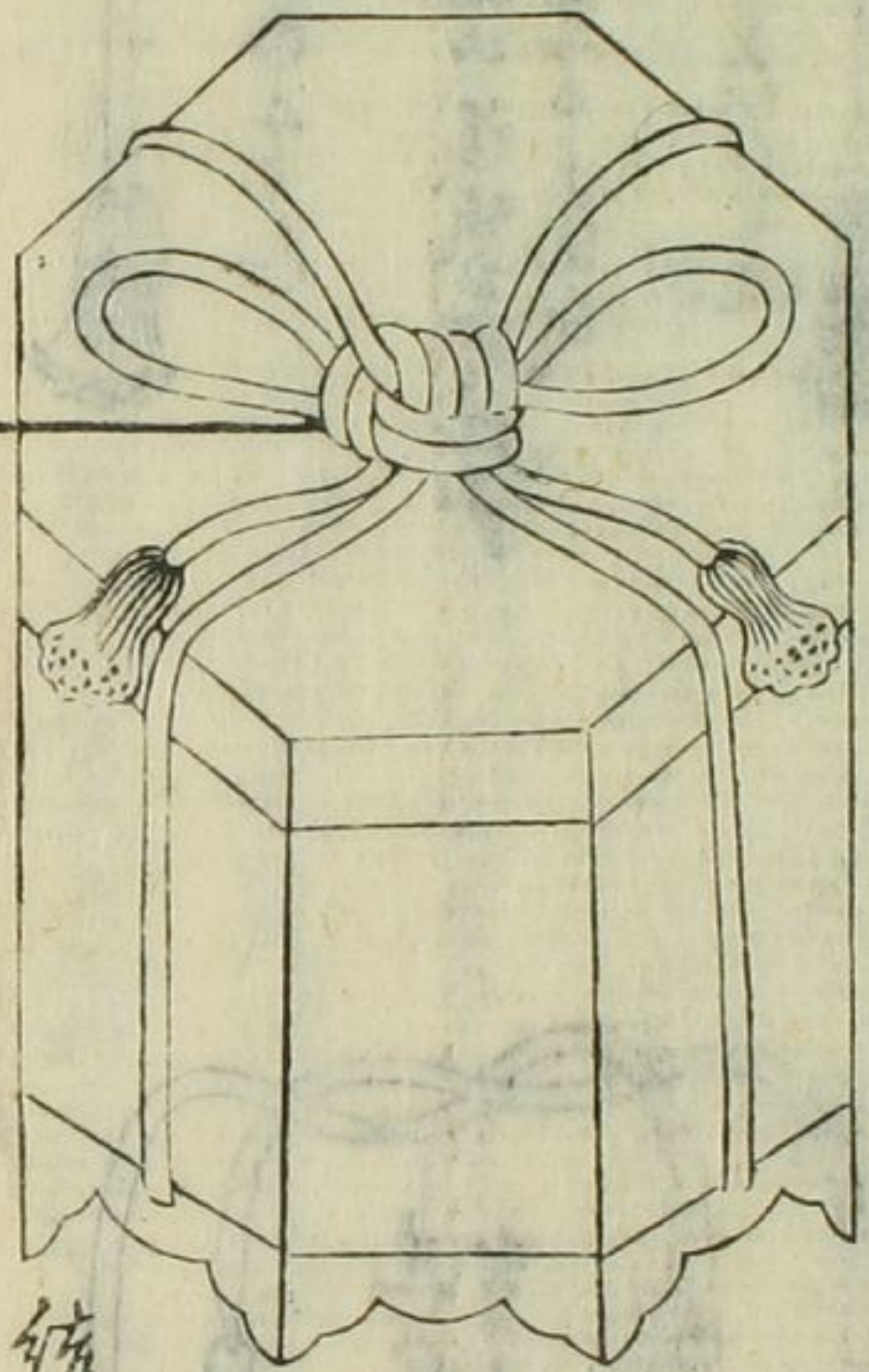
左の方より右へ

右貝



右貝の結び方の  
法よきもの

左貝



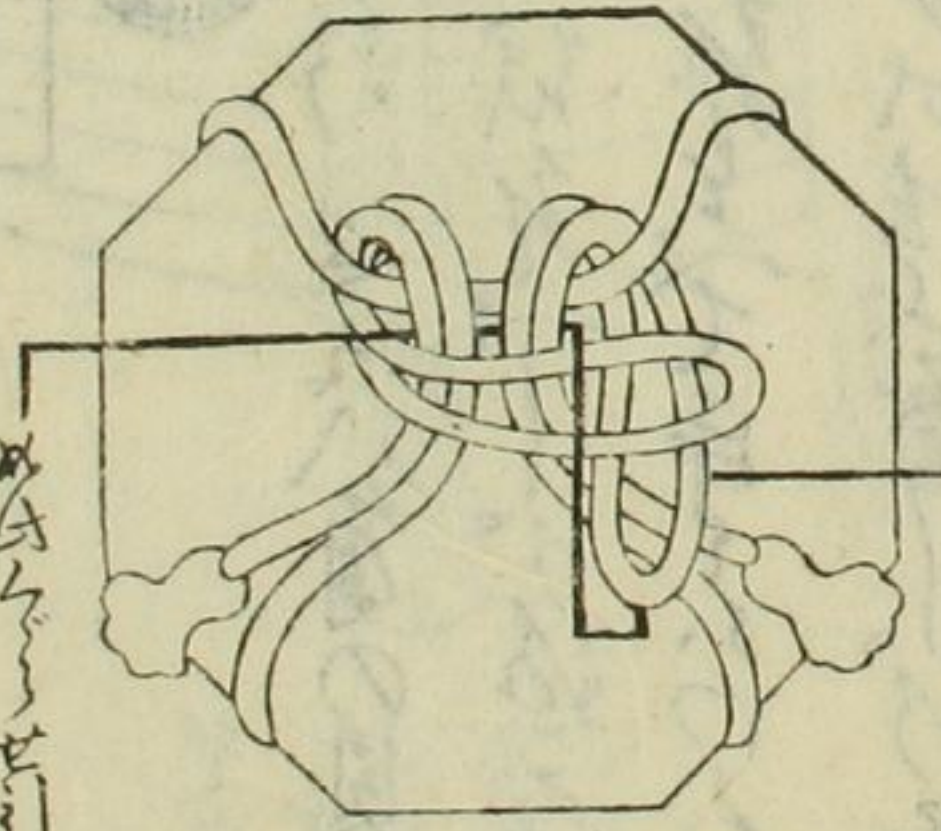
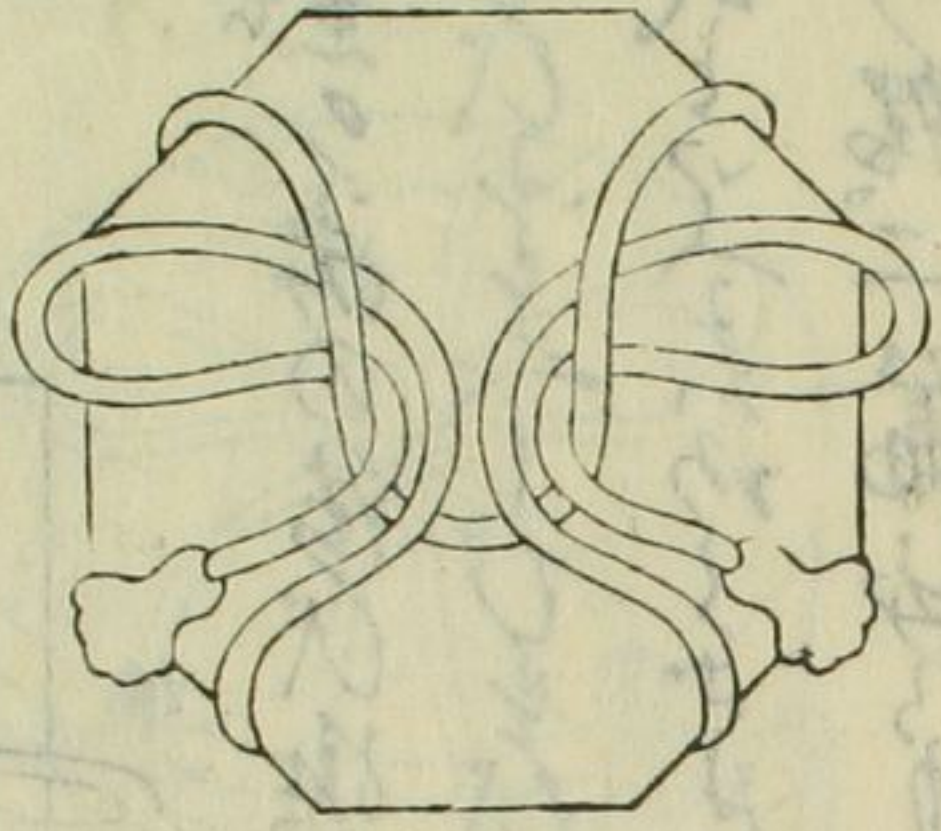
左貝の結び方の  
法よきもの

右の方より左へ

結び方の図の通り

先づ

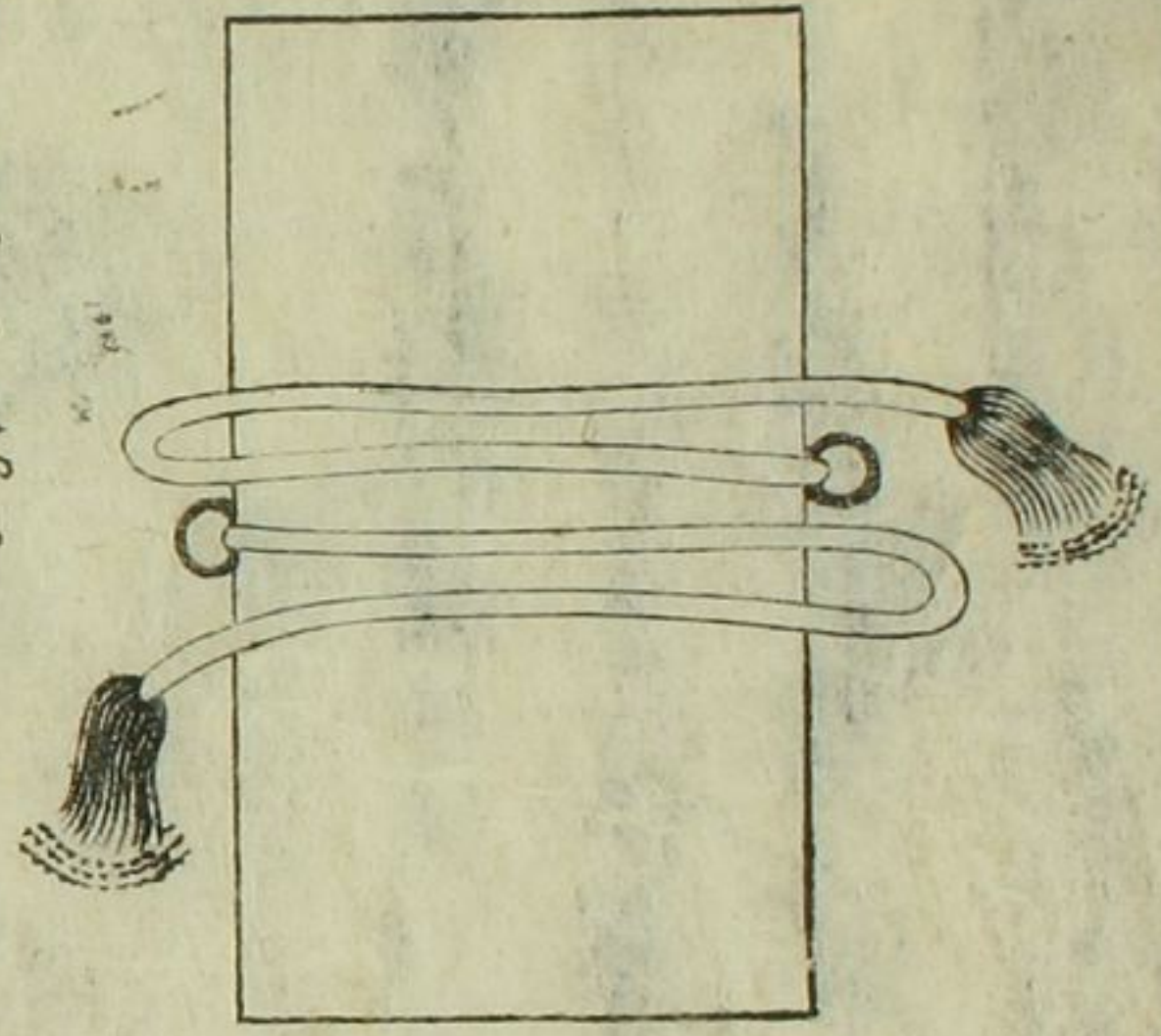
後



結び方の図の通り  
おぼしめす

是右貝の結び方  
左も是を逆して  
結び方たる法  
なり

一 右の方より左へ  
おぼしめす  
二 左の方より右へ

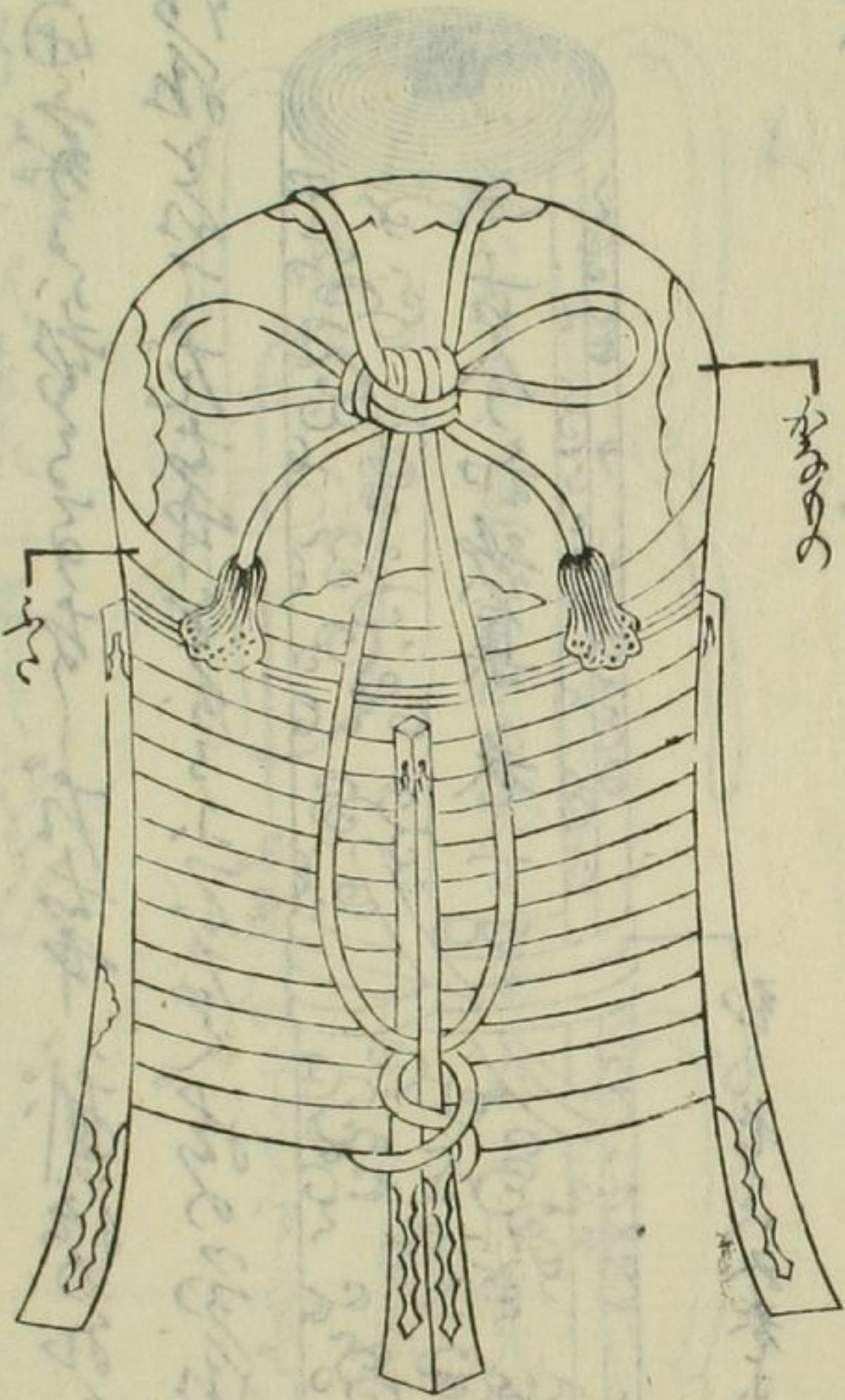


此の二つは、おちりたる  
むしとく、九の御まを  
六角の角のをひきま  
せむは、このやうにて

一 行憲の法、結びぬ。おちりたる、八角の貝楯のぬく、この  
むしとく、九の御まを、一、この法、結ぶ、おちりたる、ハ  
法式と、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ  
結ぶ、二、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ  
八角の貝楯のぬく、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ

行憲の緒結法の圖

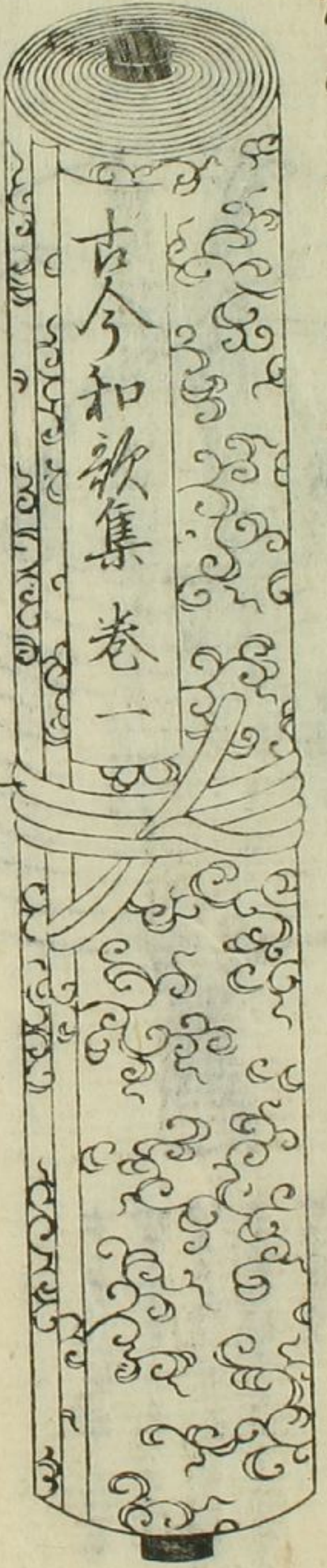
は、おちりたる、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ



古の法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ  
おちりたる、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ  
おちりたる、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ

一 油物、懸強などの緒、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ  
結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ  
結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ、この法、結ぶ、おちりたる、ハ

結繩二つを折て、その折方を、卷き結のつれ方に、  
 下をまみ、直さう、つらふ、たの方、む、法、の、結、が、な、り、す、と、  
 掛、法、ハ、二、幅、等、な、る、を、た、古、中、の、結、法、と、い、ふ、結、法、也、  
 又、田、家、の、結、法、も、な、り、た、古、中、の、結、法、の、結、法、と、い、ふ、結、法、也、  
 結、法、と、い、つ、た、古、中、と、い、ふ、不、成、法、の、結、法、と、い、ふ、結、法、也、

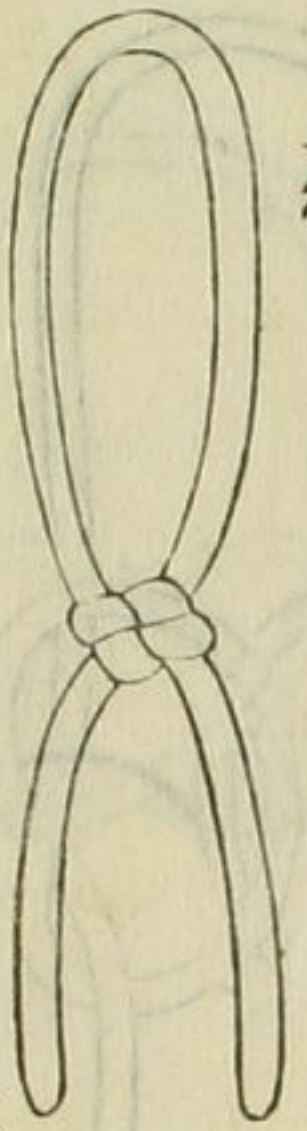


此の巻は、古の巻の如し。

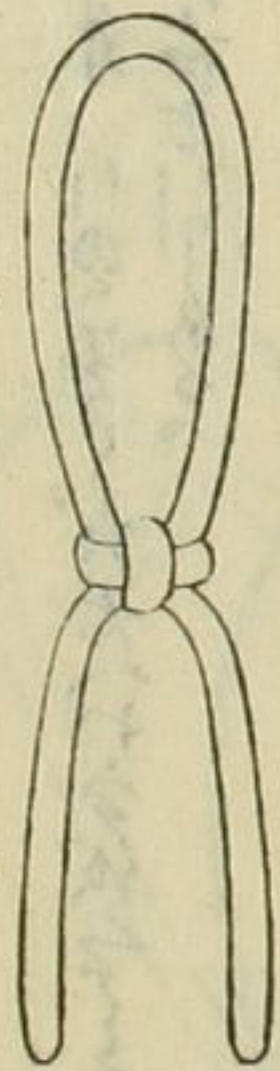
懸、法、の、結、法、と、い、つ、た、古、中、と、い、ふ、不、成、法、の、結、法、と、い、ふ、結、法、也、

一、つらふ結むしび結

表



表ハ、つらふ結むしび結の、結法九の、結法。

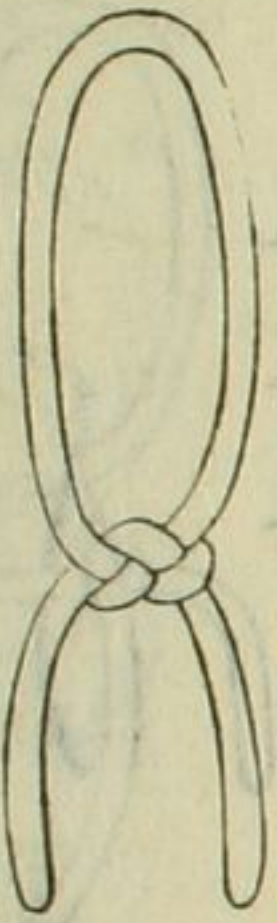


此の結は、つらふ結むしび結の、結法九の、結法。

一、むしび結むしび結

一、むしび結むしび結

表ハ、結むしび結の、結法二の、結法。



表結め二つ

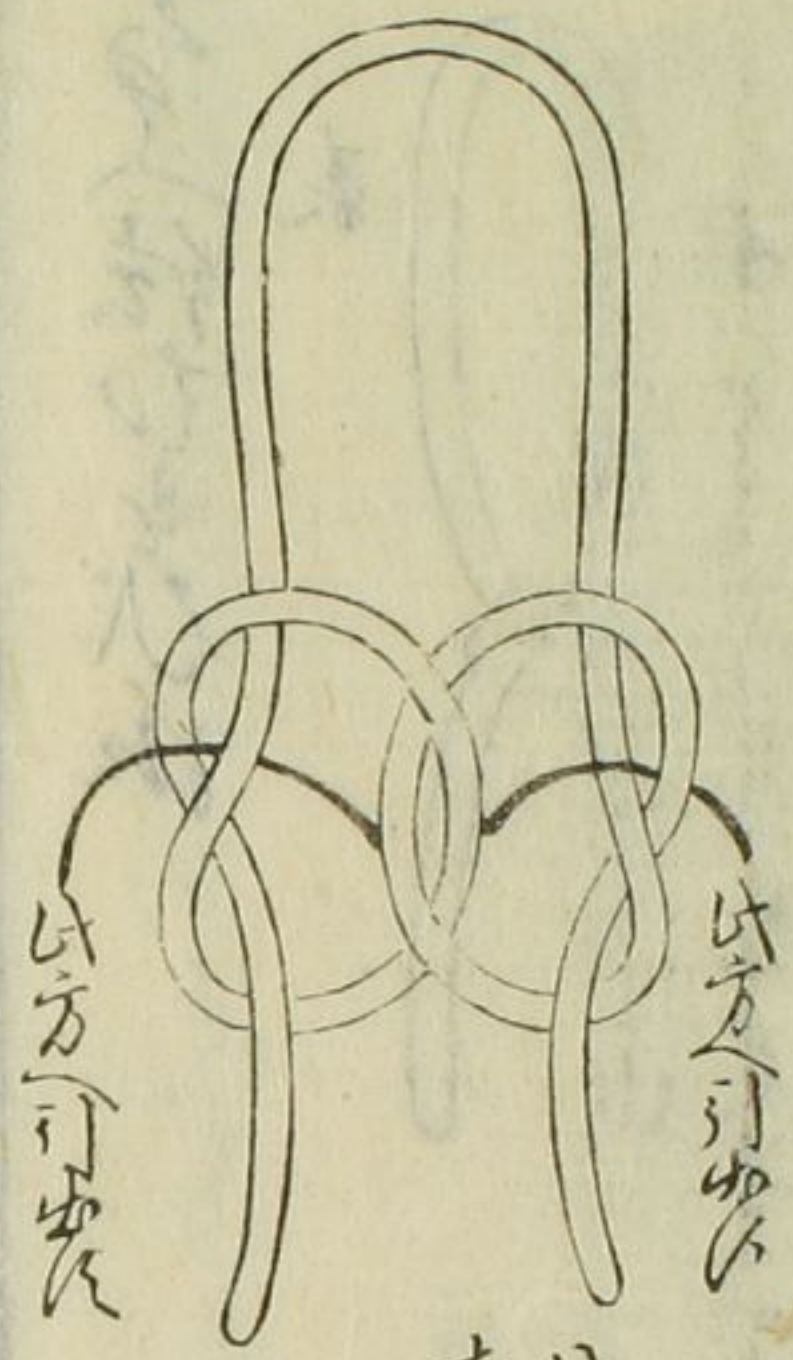
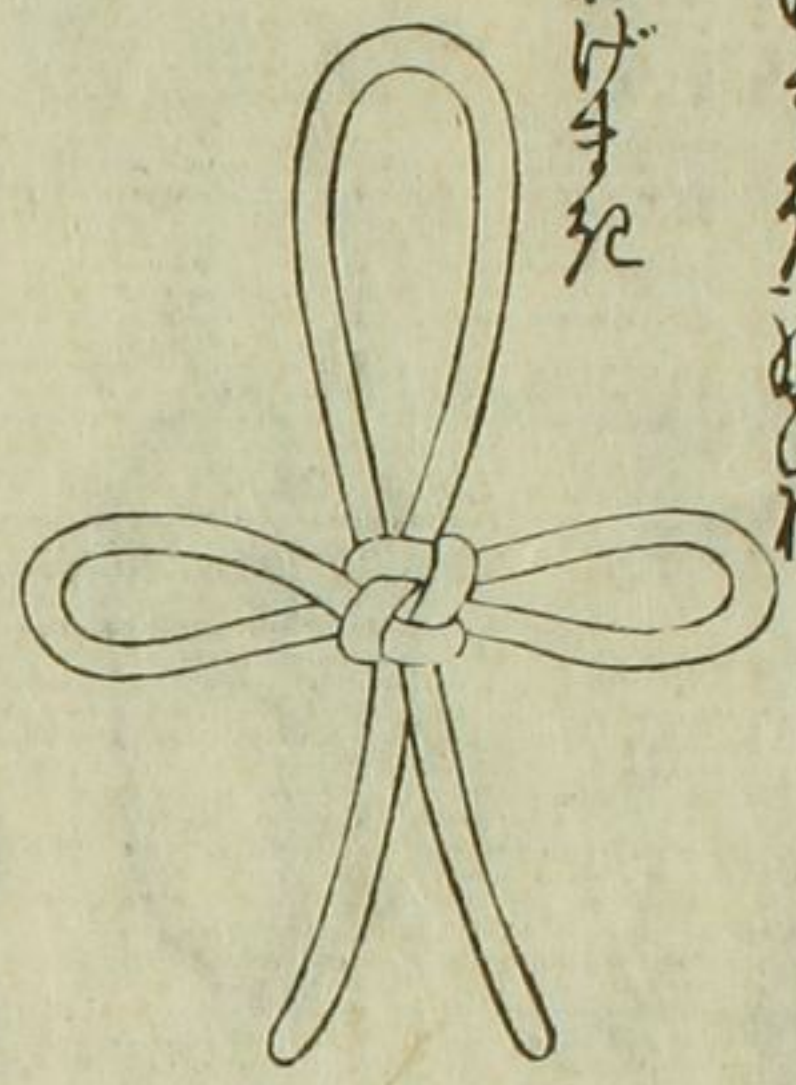


裏結め二つ



一 阿比手記結むる

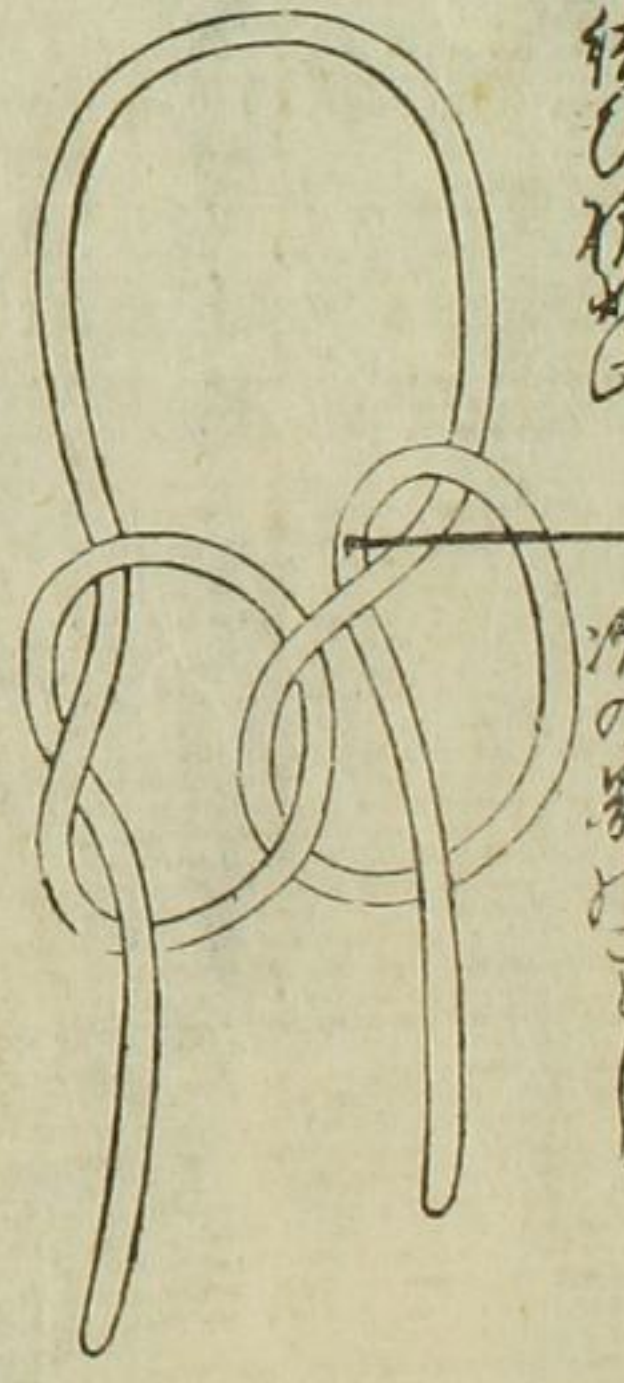
わけ手記



は方引ゆる

は方引ゆる

結びぬ世無りのごとくして引ゆる  
たてある糸の切きごとくして引ゆる  
ゆきよむらびもさる



結びぬ世

は結びぬをちのりて  
次の糸は

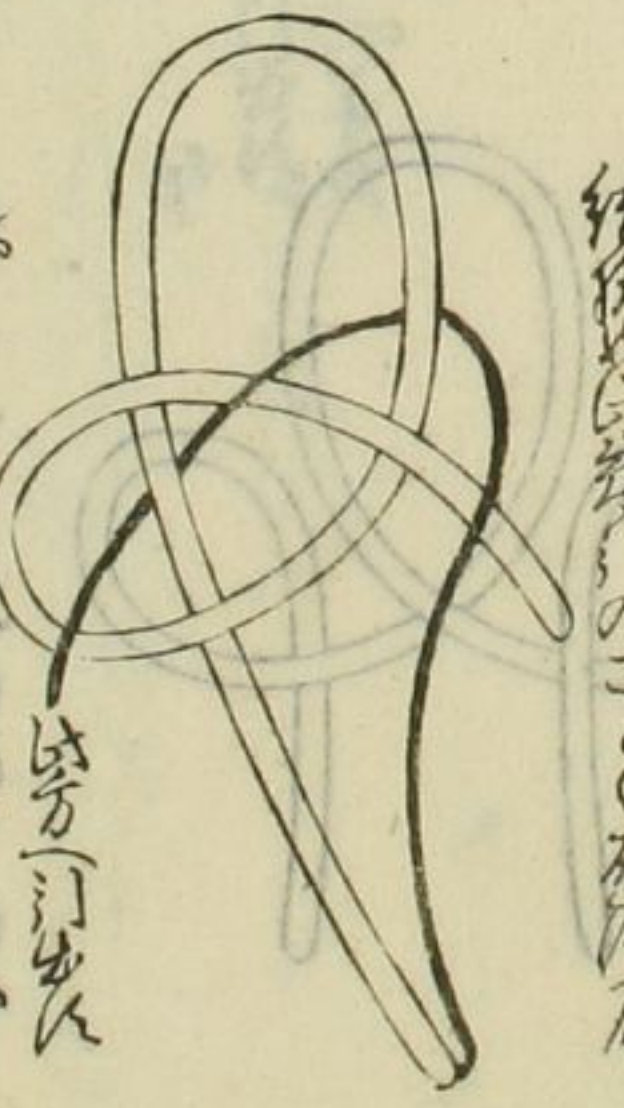
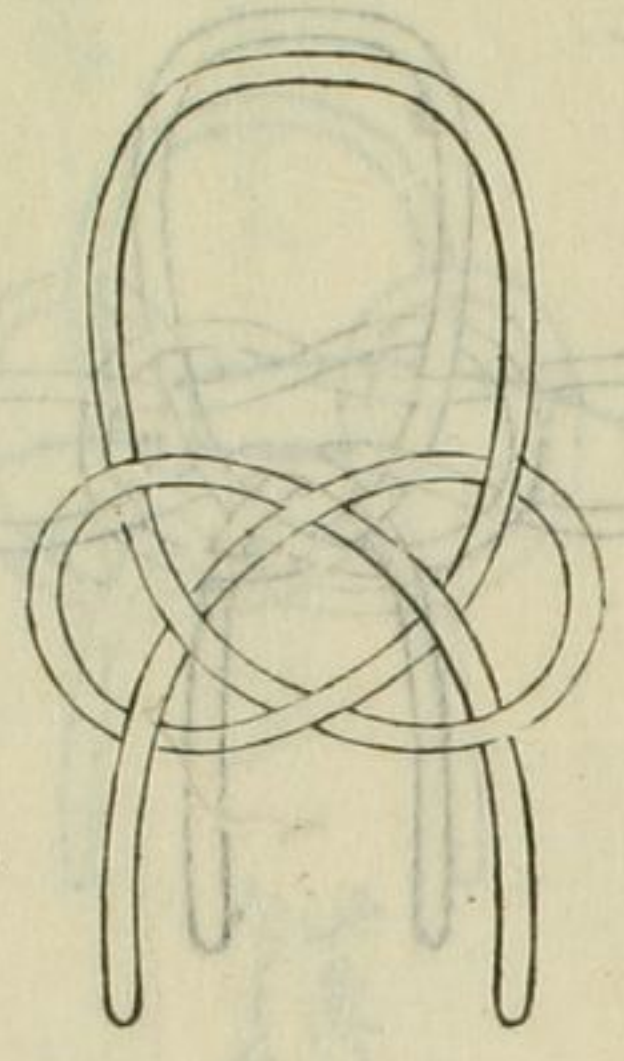
は糸引のどく。たてわらぬをせと  
たてを引ゆる。

阿比手記を世のうへへ引ゆる  
かたふりて。

一 阿比手記結むる

二 糸の表裏を引ゆる

結びぬ世のうへへ引ゆる



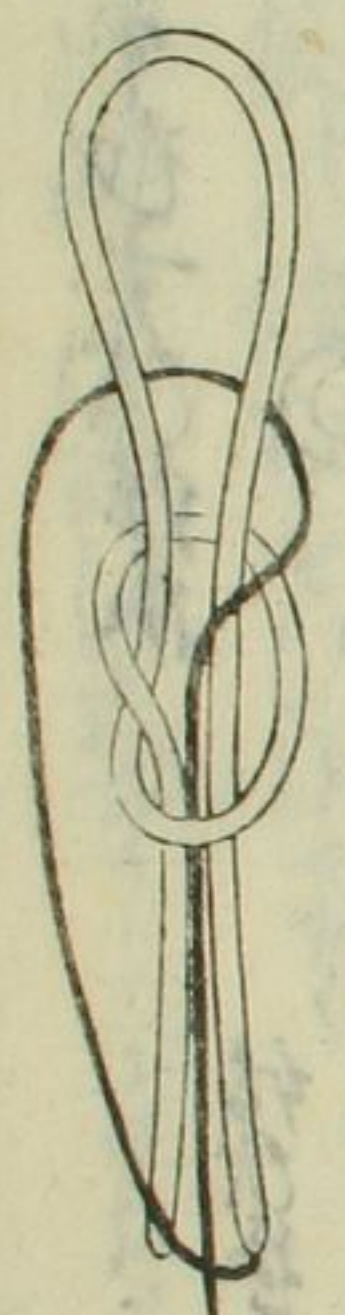
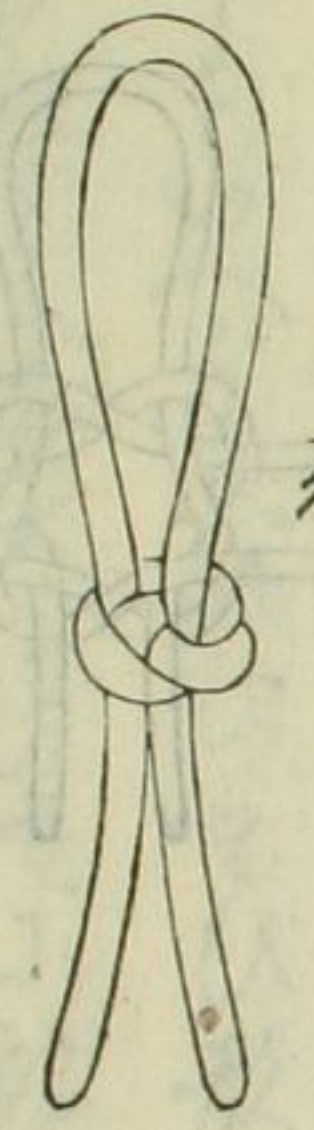
は方引ゆる

一 阿比手記結むる

是とゆらぢむらびのうへへ引ゆる  
たてある糸の切きごとくして引ゆる  
ゆきよむらびもさる

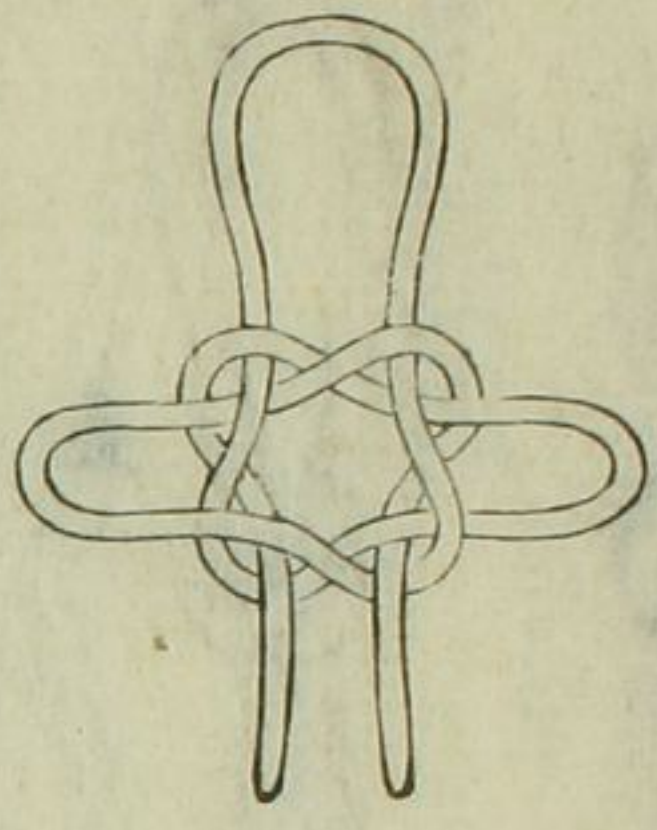
表

裏



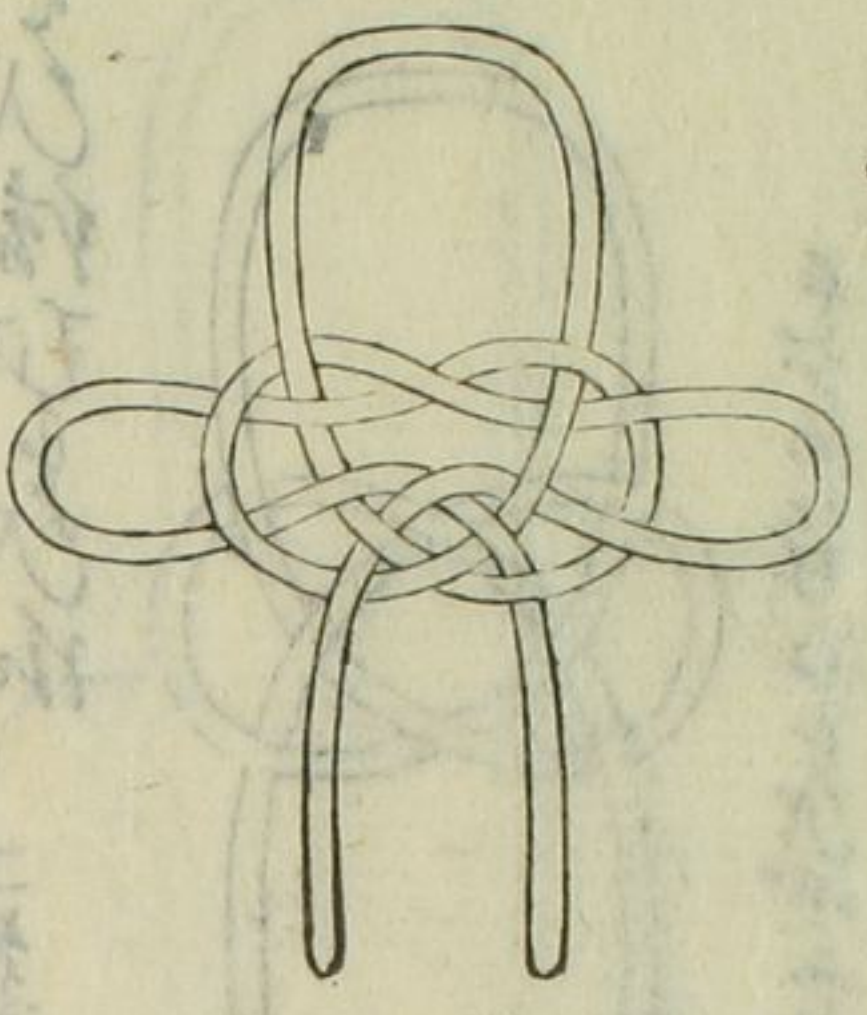
は糸引のどくをすべ

一 かけ糸むすび結法

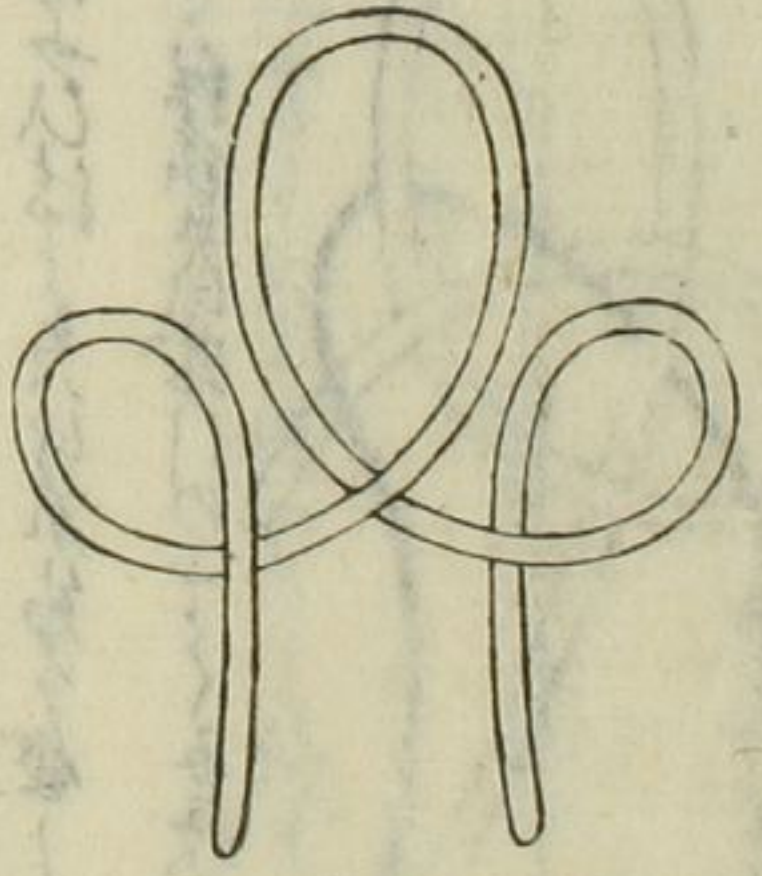


結法は

一 けしんむすび結法



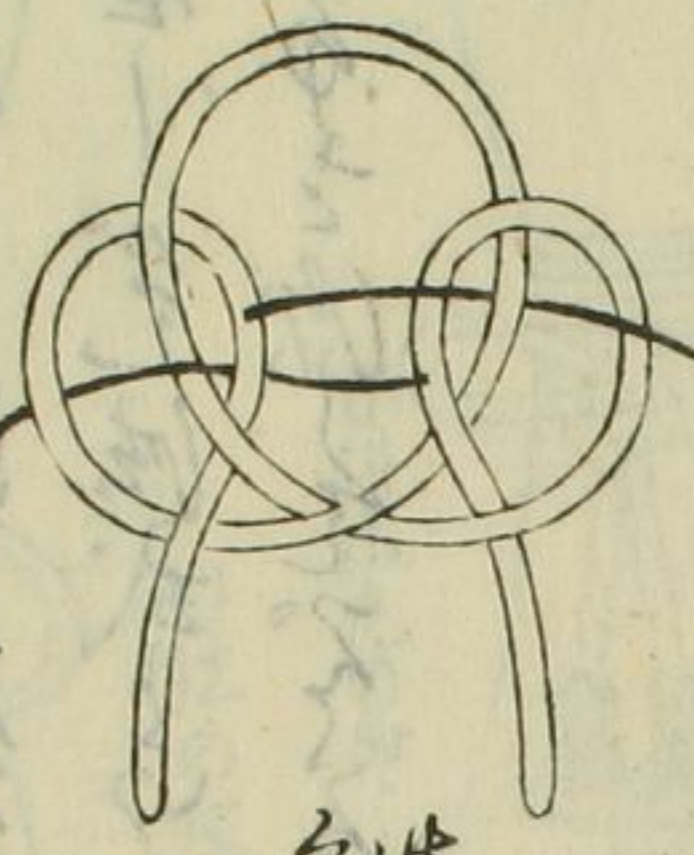
結法は下の方の糸を



は方より引出す

は方より引出す

は糸の束を四方より引出す



は方より引出す

は方より引出す

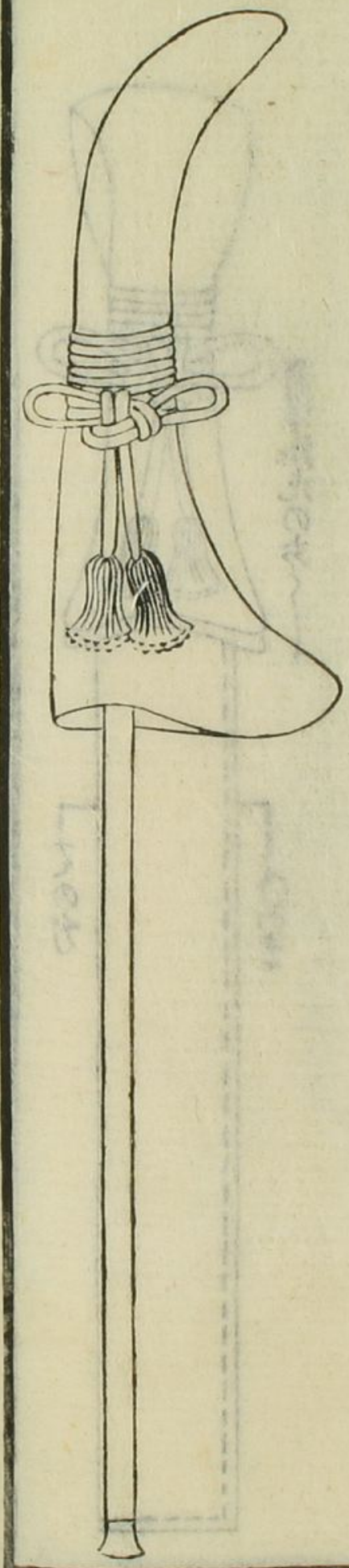
は糸の束を四方より引出す

右の糸を結び目下のむすび糸の束を引出すは方より引出す  
なるものどもむすびむすび形むすびより引出すは方より引出す  
る糸の束を束の束より引出すは方より引出すは方より引出す  
は方より引出すは方より引出すは方より引出すは方より引出す  
は方より引出すは方より引出すは方より引出すは方より引出す

一 刀袋結法は式なり古太刀刀今造とも又かゆ



一長刀れとや袋の法法種。法武なり。急がし上りの時。其具を  
 持てて。法と四祀あるをさう。長具足と云。法長刀は類と云。  
 法長刀は。う。金。陣。から。旗。印。を。の。時。を。困。の。あ。ふ。持。と。る。  
 る。あ。て。鳥。帽。子。を。後。を。と。着。る。時。を。持。せ。ば。や。し。い。び。ま。を。  
 せ。刀。の。さ。や。袋。の。法。法。種。と。云。法。武。ハ。な。り。の。う。い。む。と。び。  
 重。べ。さ。る。う。ば。あ。の。刀。袋。の。お。と。う。ら。と。結。び。お。と。と。い。や。あ。  
 せ。法。と。結。ぶ。た。か。ら。ん。



又婚礼は法法種。あふ法武。何と云。況は。さ。大。古。よ。如。古。ハ  
 男。の。急。が。し。上。の。時。を。せ。刀。持。と。る。時。は。況。や。女。の。急。が。し。  
 い。ま。し。女。中。婚。礼。と。武。具。持。と。る。時。に。あ。る。婚。礼。の。時。を。  
 結。法。の。法。法。種。と。云。遠。近。の。婚。礼。は。借。の。武。士。と。ら。る。が。あ。る。法。  
 長。刀。持。と。る。時。は。古。よ。い。ま。し。の。時。の。法。法。種。と。云。せ。刀。持。  
 と。ら。る。あ。る。ば。あ。の。法。法。種。と。云。結。法。法。武。と。云。う。ら。  
 一傘袋の法法種。せ刀れ。う。ら。と。法。法。種。と。云。て。あ。る。の。法。法。種。



結。法。法。種。と。云。う。ら。と。法。法。種。と。云。て。あ。る。の。法。法。種。  
 う。ら。と。法。法。種。と。云。て。あ。る。の。法。法。種。

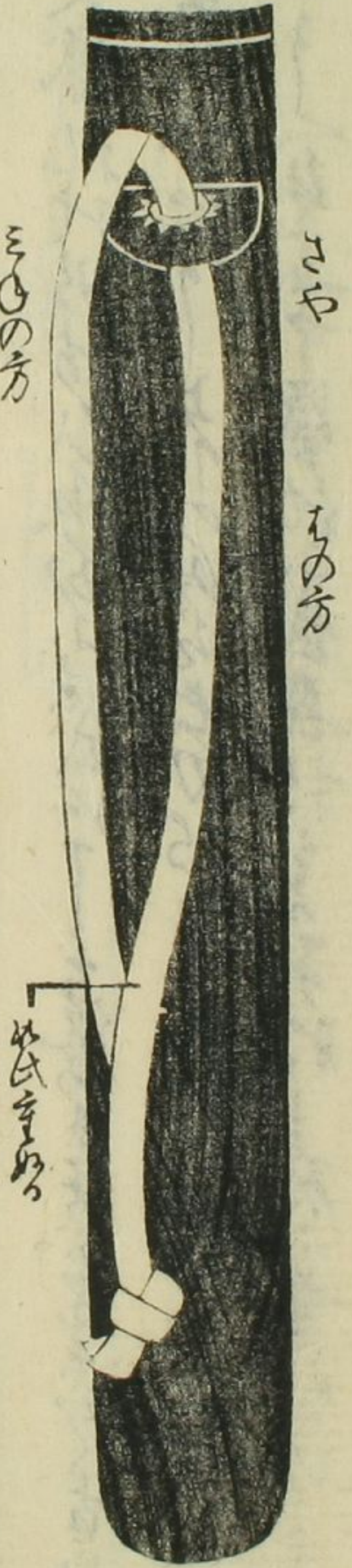
古口ハハハ懐劍  
 マコロニカクニテサス  
 上ハ隠劍トモモシ也  
 懐中ニサスユエ小尻ノ  
 小袖ニサウラマヤウ  
 ノ為也小尻ヲ九ク  
 シタル也カモモ巻メ  
 ツバモノナ後世ニ至  
 テ尺七長クナリ柄ヲ  
 マキツバノモ入テ打  
 ノノキサハ七八寸  
 バカリナリ今ノアイ  
 クトスト云ハ昔ノワ  
 如シ

古口ハハハ懐劍  
 マコロニカクニテサス  
 上ハ隠劍トモモシ也  
 懐中ニサスユエ小尻ノ  
 小袖ニサウラマヤウ  
 ノ為也小尻ヲ九ク  
 シタル也カモモ巻メ  
 ツバモノナ後世ニ至  
 テ尺七長クナリ柄ヲ  
 マキツバノモ入テ打  
 ノノキサハ七八寸  
 バカリナリ今ノアイ  
 クトスト云ハ昔ノワ  
 如シ

一 刀の下緒結法小袖は茶とるおとくざとて法あり。あ刀はが  
 緒もあなり。



一 服差れ下緒結法刀ふおとくざとて法あり



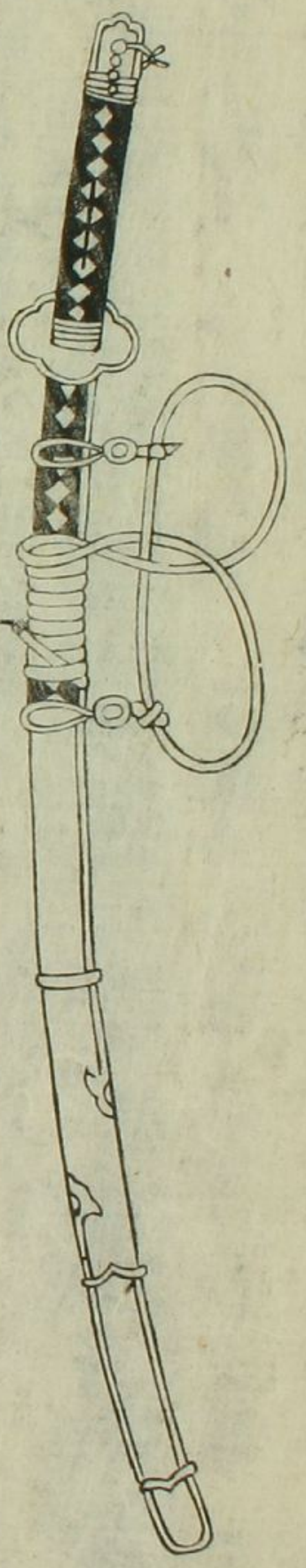
手拵ニナリ。今ノカキ  
 云モ、昔ノカキナリ柄  
 サヤ匠ニ錦ニテ包ミ  
 ヲヒタニニスルナリ  
 昔ヲサスナリ  
 今ノ世ノワキサハハ  
 古ノワキサシラヌヲ  
 長クテ、打ノ作  
 業ニタノモク也

刀ハ公の大方  
 刀ハ公の大方  
 刀ハ公の大方  
 刀ハ公の大方

一 太刀の帯は此結法ぎくぼくの帯元ハ始先ニ通一と  
 結らざ能く帯の帯より切んだるの帯有る下の帯原をハ  
 始先は紙引紙をさすして柄紙おろすの事ハ紙をさすみ重一  
 たりが帯をとりおとす事ハ始先ハ紙引紙をさすして柄紙おろす  
 向葉前葉帯の帯紙をさす事ハ紙をさすして柄紙おろす  
 結らざ能く帯の帯より切んだるの帯有る下の帯原をハ  
 始先は紙引紙をさすして柄紙おろすの事ハ紙をさすみ重一  
 たりが帯をとりおとす事ハ始先ハ紙引紙をさすして柄紙おろす  
 向葉前葉帯の帯紙をさす事ハ紙をさすして柄紙おろす

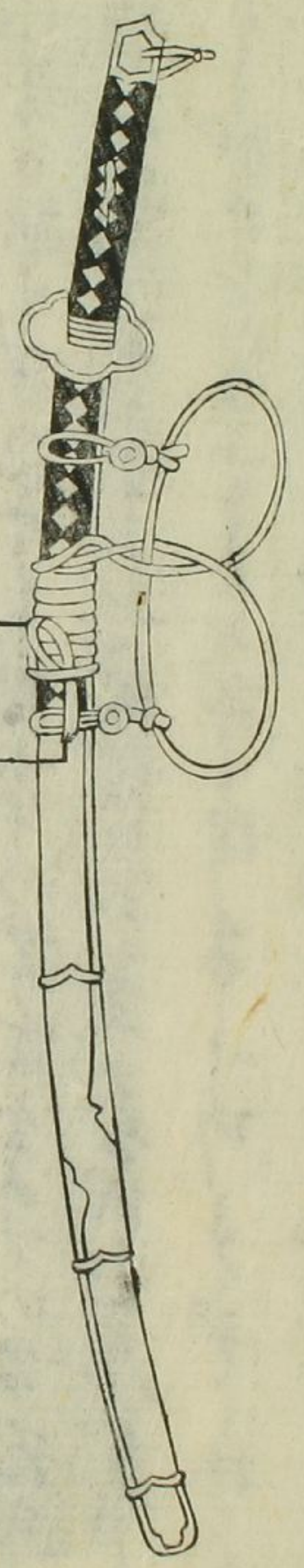


さくばくぬき先と門子すてら



先と門子のすてら

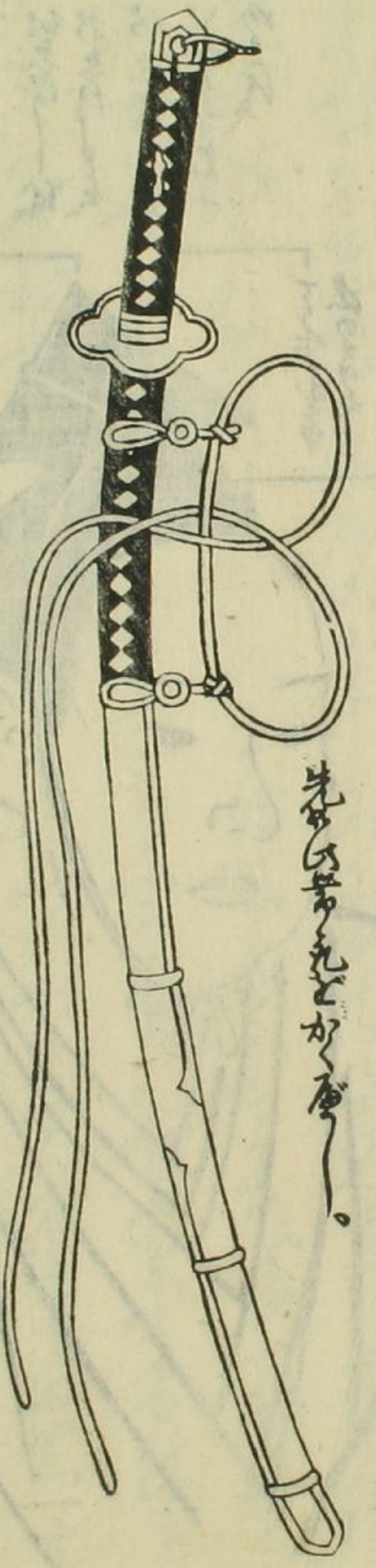
布のゆきかんとう。雲のうがきと志と云。結の柄紙おてをいぶ。



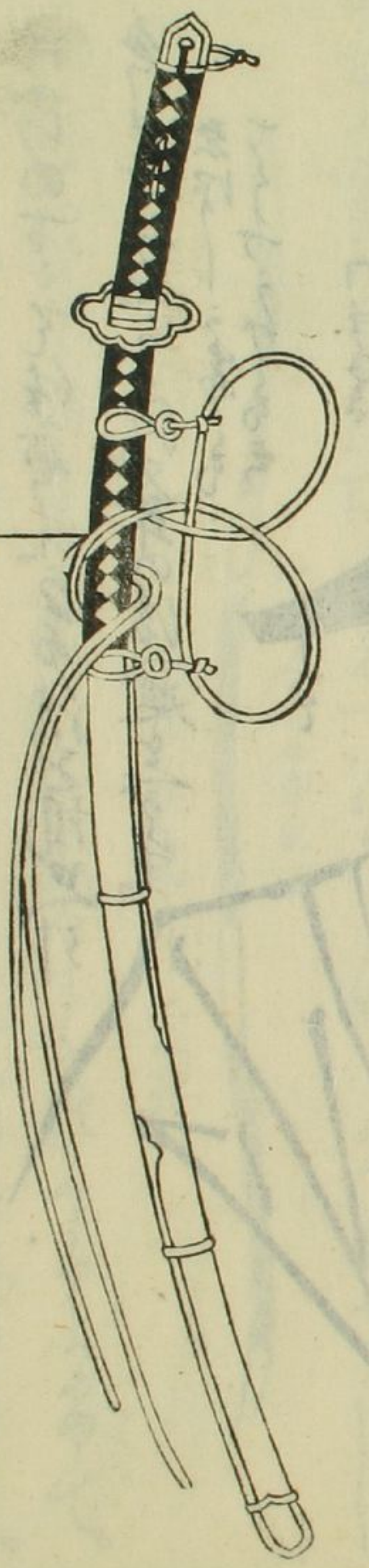
うさ先

ぬきおてをいぶ

たふふとも夢取巻取のぶ。



先は昔とてかき。



たふふの巻とる上ふ。又をぢうひさつけ末。

一 冠のついでにけしきをかきしめて結を九丈に引けり。  
 けしきの下に結を引く。その法と風引

冠のついでにけしきを  
 けしきの下に結を引く

けしきのついでにけしきを  
 けしきの下に結を引く



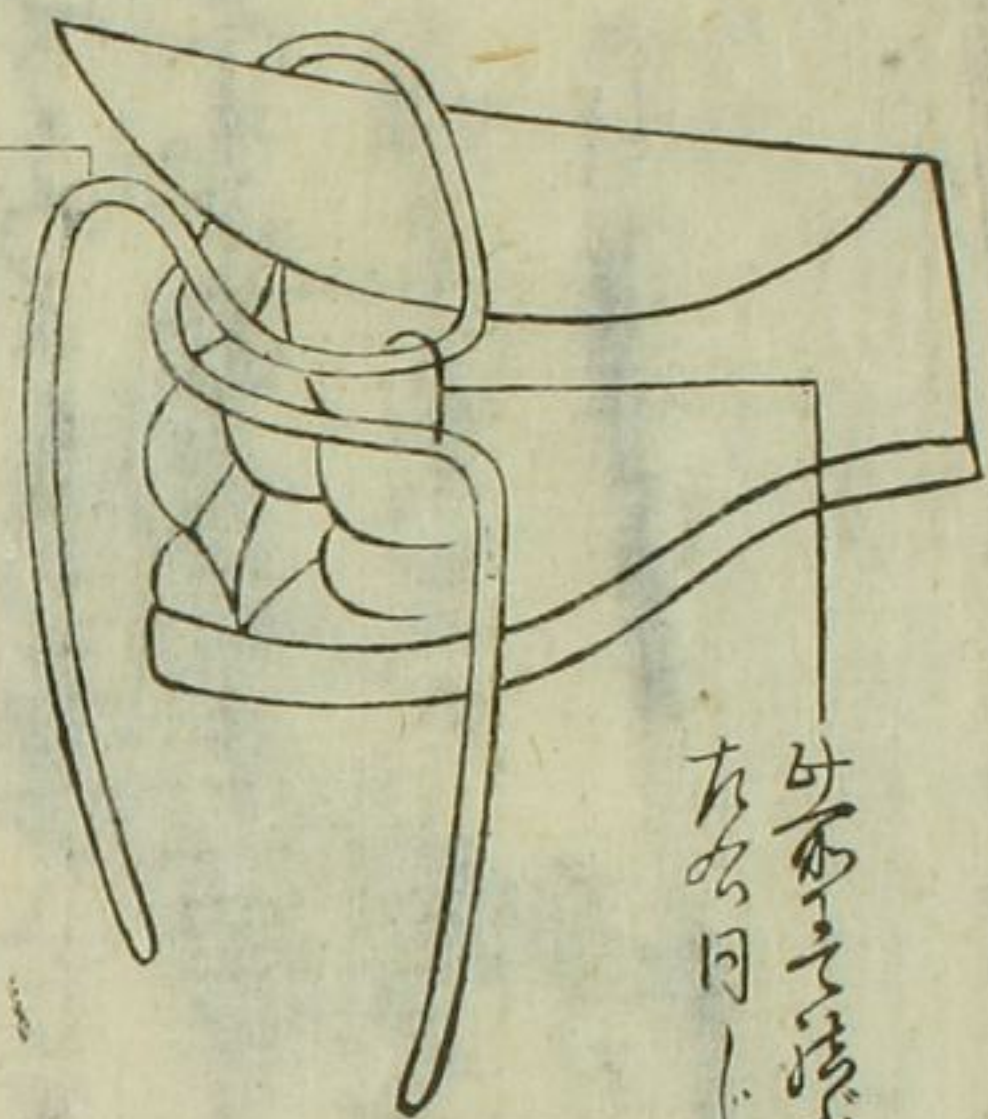
冠のついでにけしきを

古の冠のついでにけしきを  
 けしきの下に結を引く。その法と風引  
 けしきのついでにけしきを  
 けしきの下に結を引く

冠のついでにけしきを

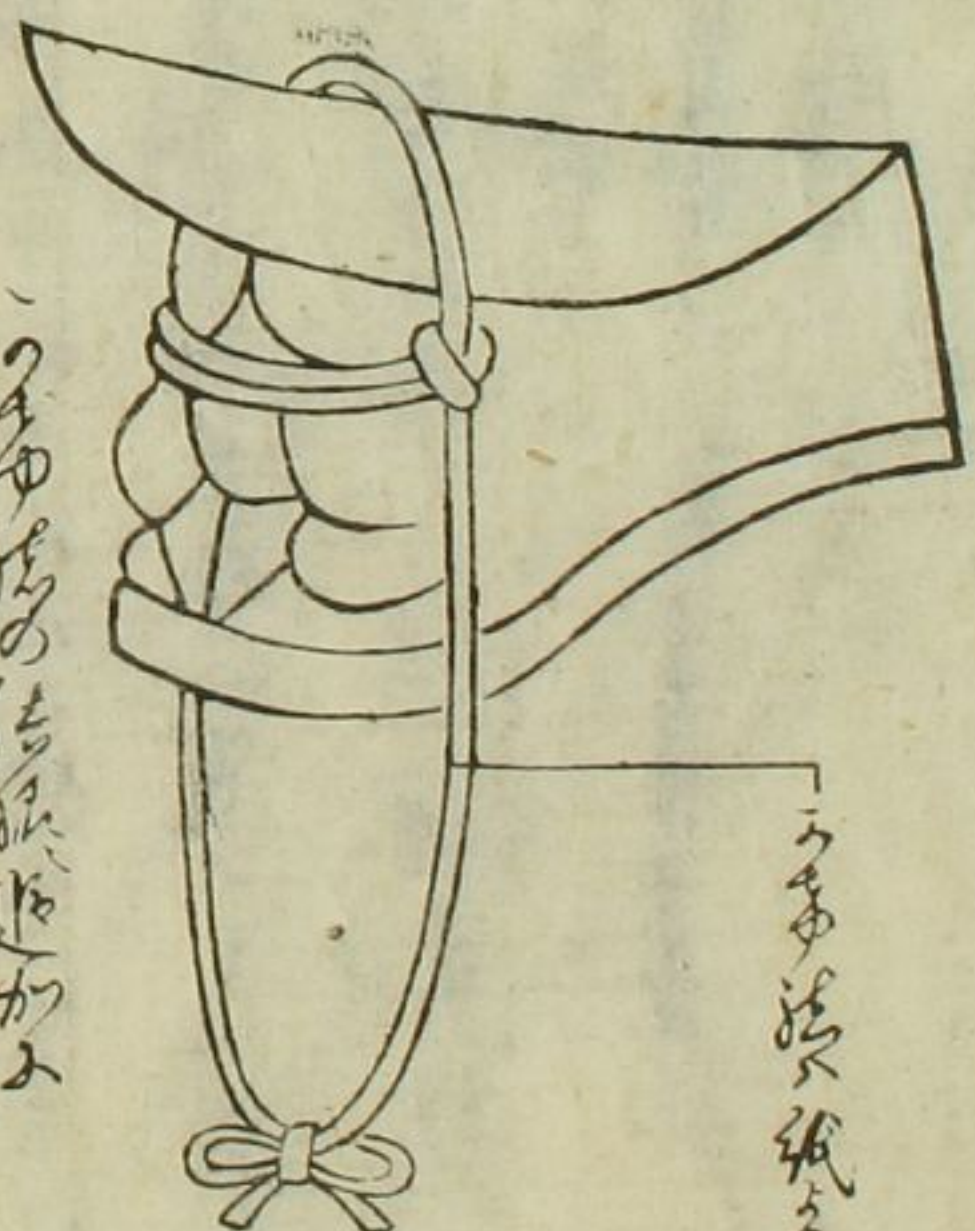
一 風折冠のついでにけしきを  
 けしきの下に結を引く。その法と風引

丸太より小一紐よりなる也。



此の紐は  
丸太目

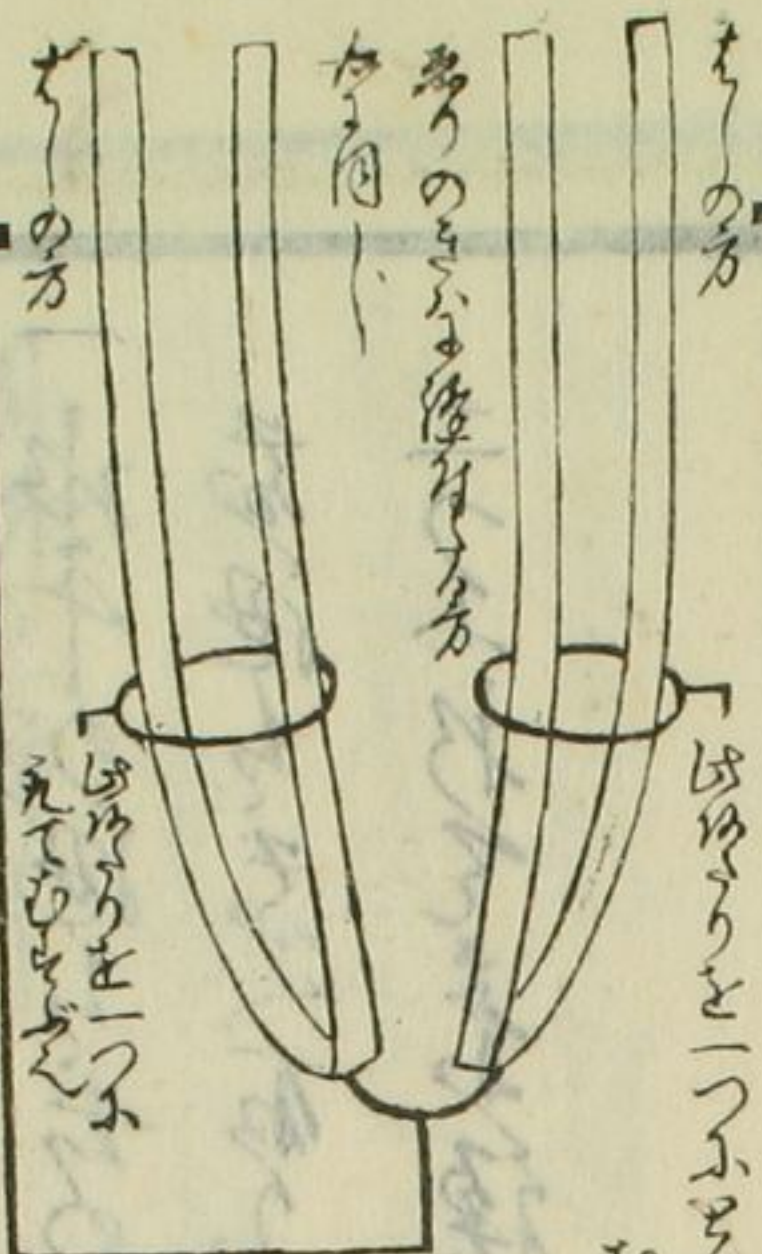
此の丸太は紙に巻かぬ。



この紐は紙より

この紐は紙に巻かぬ  
丸太目

一糸襦の紐結法。二つふおけてづらの紙拵て一結びしてまて  
ひらぶる。紐のづらに法をてらるふなるあり。



この方

紐のづらと二つふおけて

ひらぶる

この方

この方



此の紐の紐は紙に巻かぬ  
丸太目  
一ひらぶる。又一ひらぶる。丸太目  
右方よりひらぶる。丸太目

三糸言

青色空非片

一裏方れむももほら素襖はびくむとびくむと  
同ト事也。

一短ト重密の紐ハ紐法ハ法取ハ素襖不同ト。

一長絹の紐ハ紐ハ短重密不同ト。結取ハ素襖不同ト。

左右、紐ヲ長絹ノフトコロへ引入レ。長絹ノフトコロノ内ニテ、左右ノ紐ヲトリ  
違ヘテ、首ノウニロヲ引廻シ、前ニトリ、長絹ノ左右ノ脇ヨリ引出シ、左右  
ヲ取合テ、モロワナニムスブナリ。

一水平の紐ハ右のえりけ上りて、前後と後紐と打違ふらりて  
前後とあへぬ、後紐とあへぬ、此後紐廻してあへぬ、是こと  
二つ不折を素襖はびくむとびくむと

風折糸言

折をたのむびくむと  
あへぬ、別よむとび  
くむと



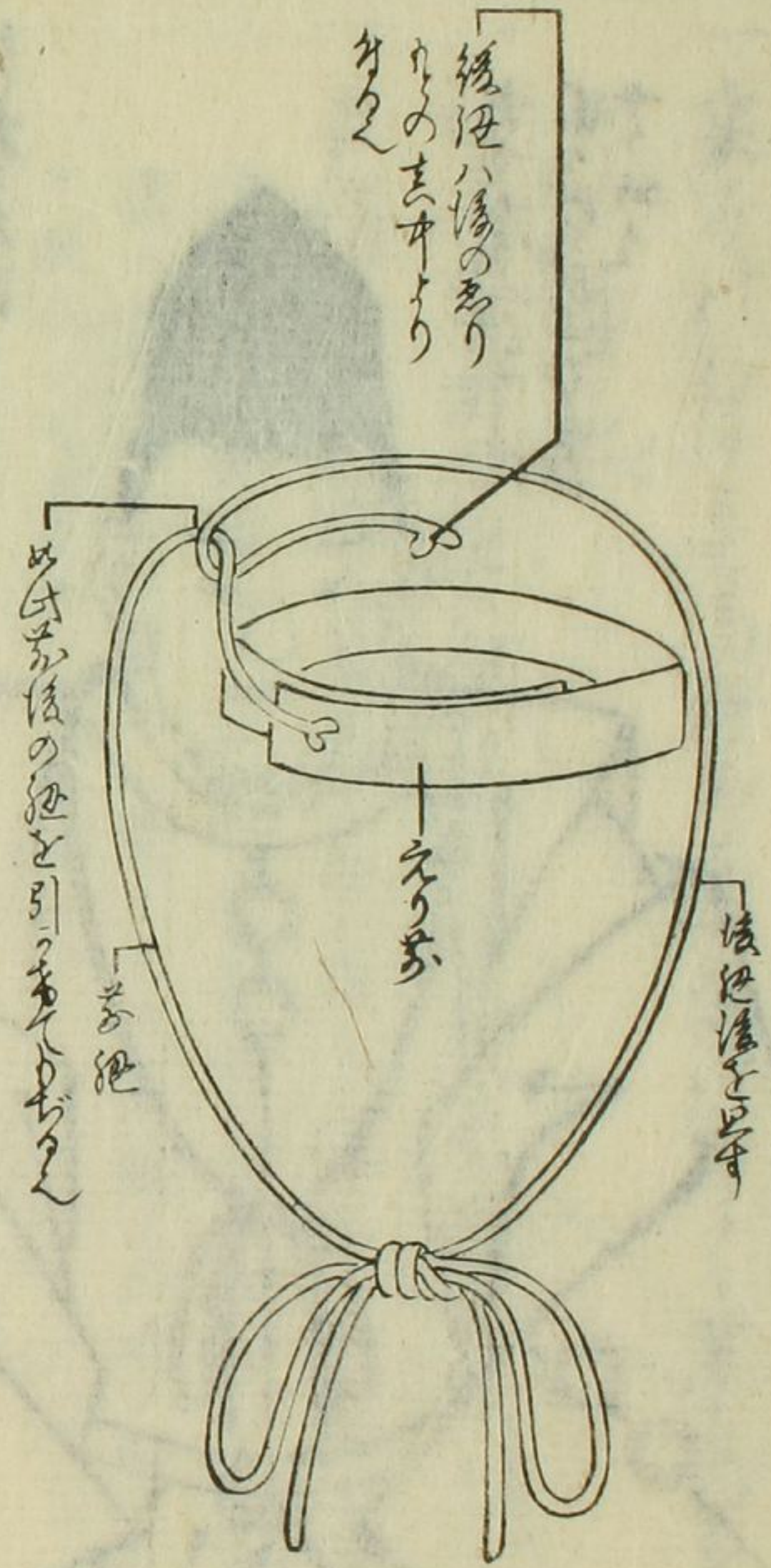
キクトチアサ

四十五

四十五

四十五

一本の密の時袴の後腰の紐を紐の紐を糸で引く。これ  
 一つ一法して又一法する。世に此をたてむとびはを  
 結ぶる不法して結めたりと云ふ。此を紐を糸で引く。糸の紐と



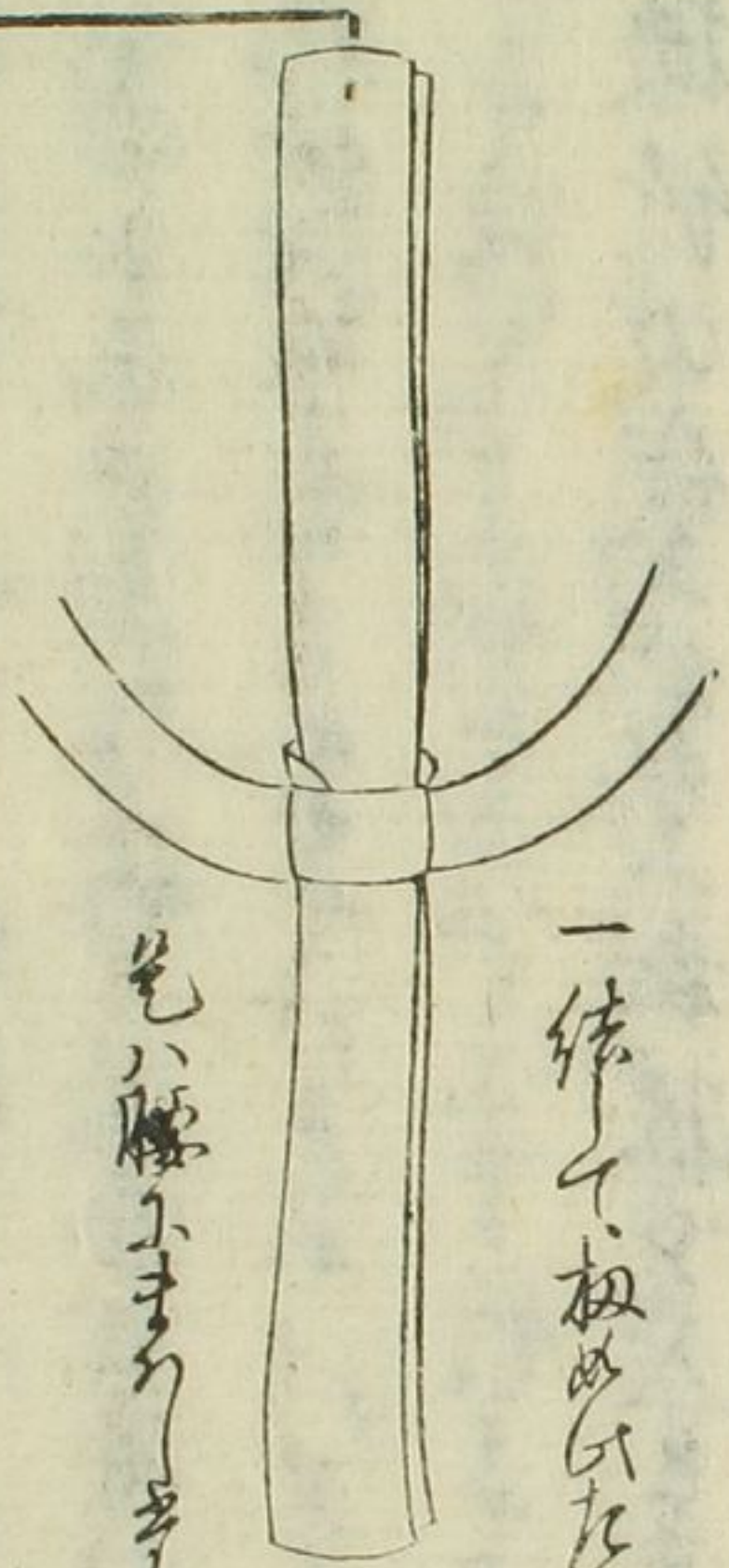
後腰の紐のあり  
 糸の紐より  
 引く

糸の紐の紐を引く

後腰の紐を引く

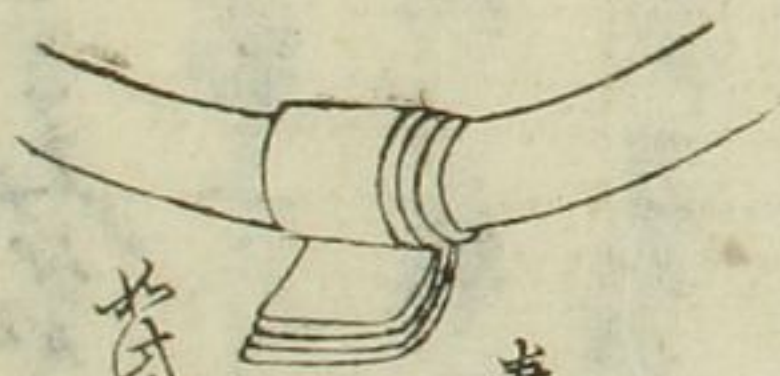
袴の尻へ引き、或は糸も糸で引く。これを結び、糸を巻く  
 置座し。

一法して、紐をたてむとびはを引く也



糸の紐を糸で引く

糸を下に下げ、つなぎの紐を  
 袴の尻へ引く。これを結ぶ。上より  
 下へ引く。これを結ぶ。糸を  
 巻く。

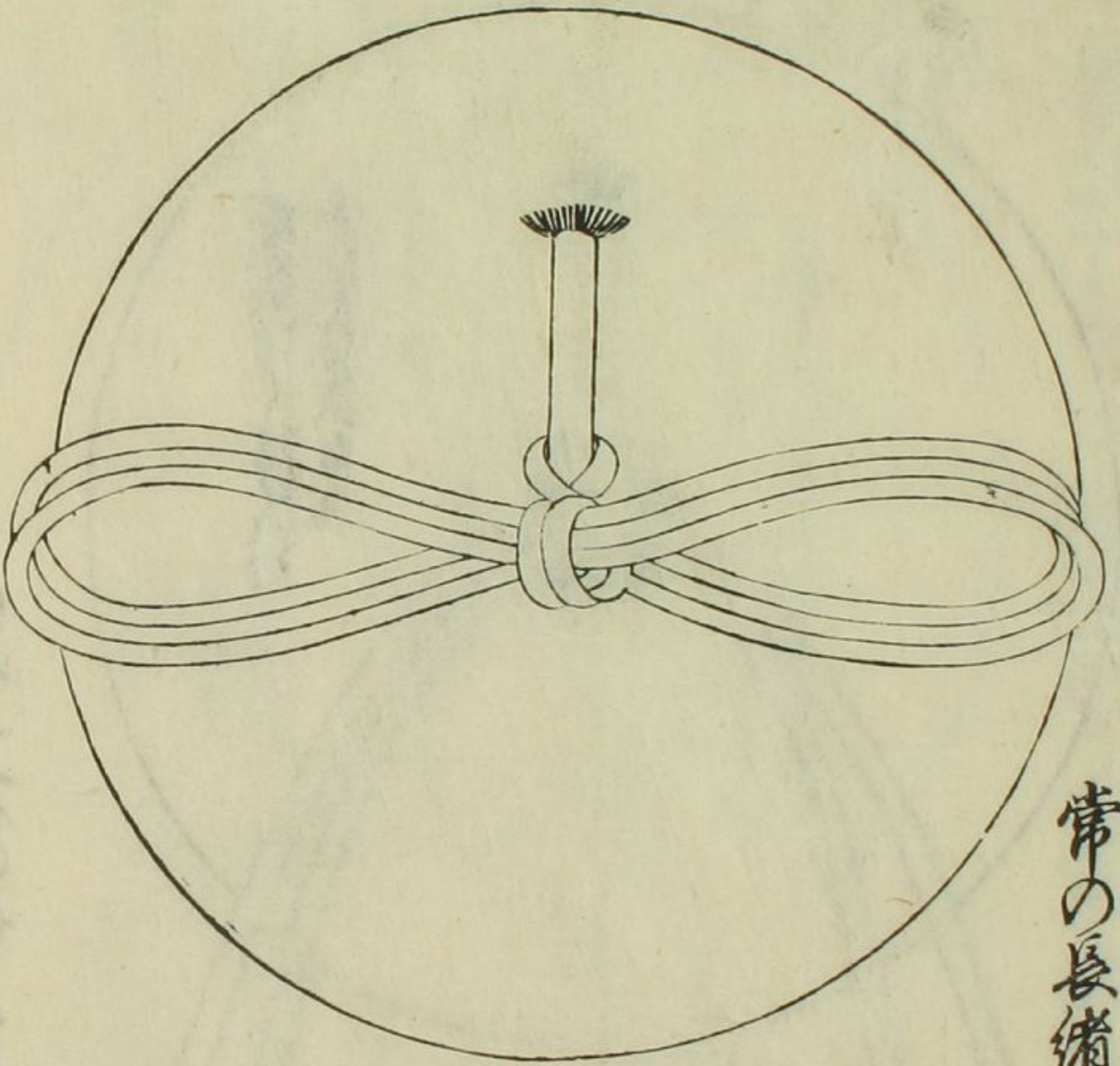


巻く

糸の紐の上へ巻く



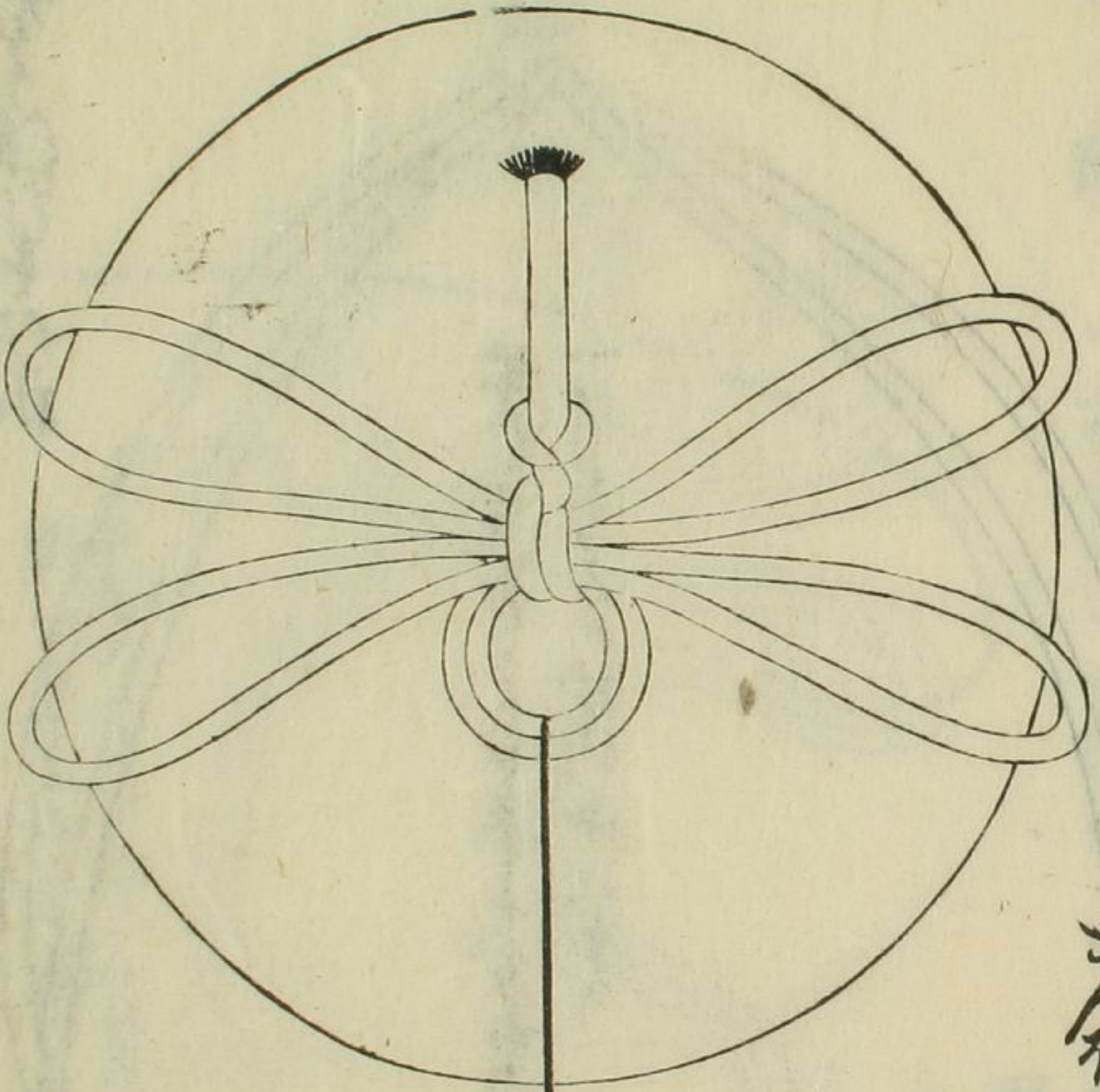




常の長緒むしび

前の糸は、  
ありまにむしび、  
わさこつは、  
結後の糸は、  
むしび、  
こつね。

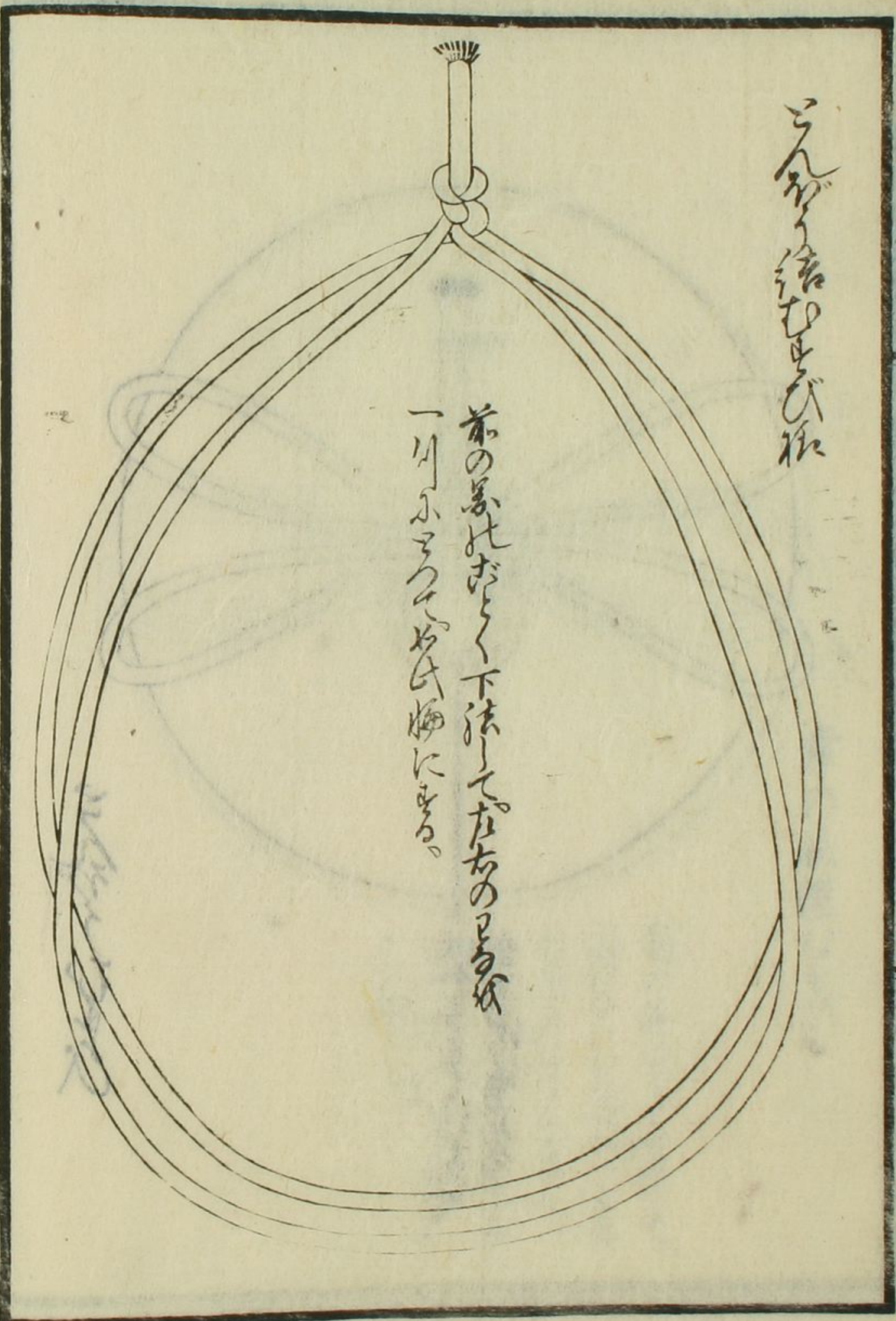
常の長緒むしび



糸を、  
のこつは、



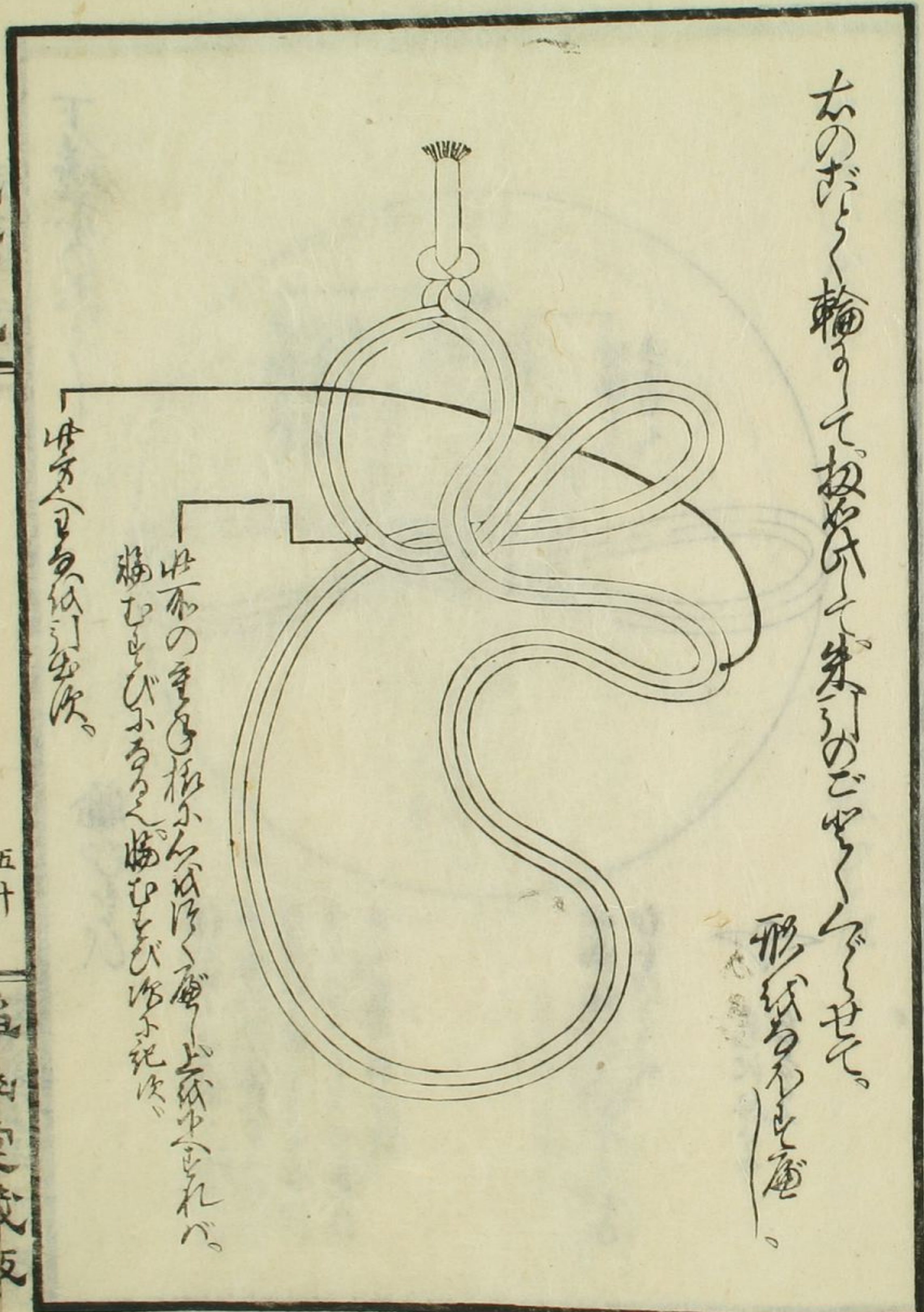
とんがう結むまひ根



糸の末はぶく下法して左のまひ根  
一引ふまうまひ根にまう。

右のぶく輪をしてねむひの糸のまひ根をせ。

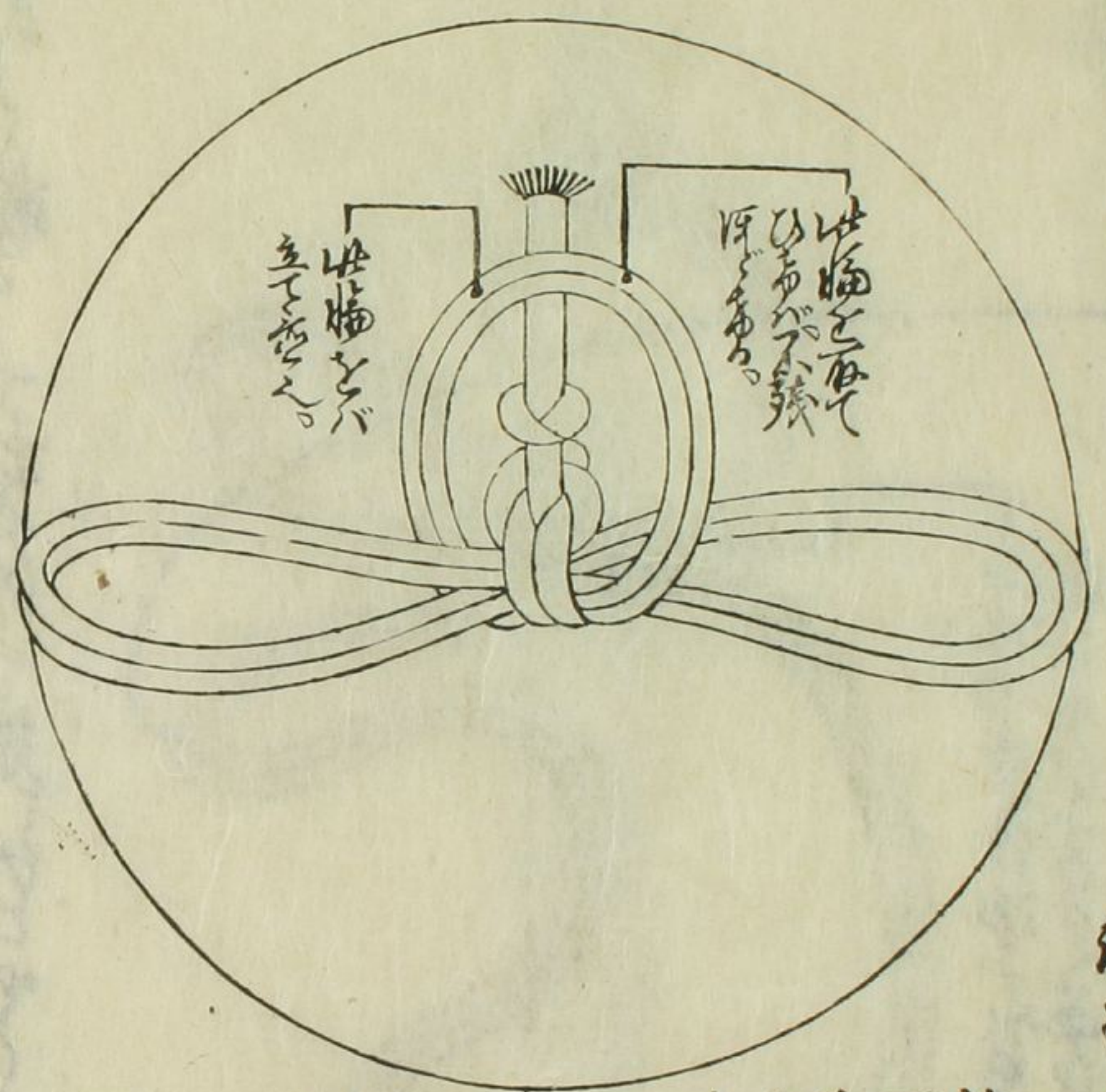
形はるるまひ根。



世布のまひ根をねむひの糸のまひ根にまう。  
結むまひ根にまう。

世布のまひ根にまう。

下結糸の結び



輪ひしび

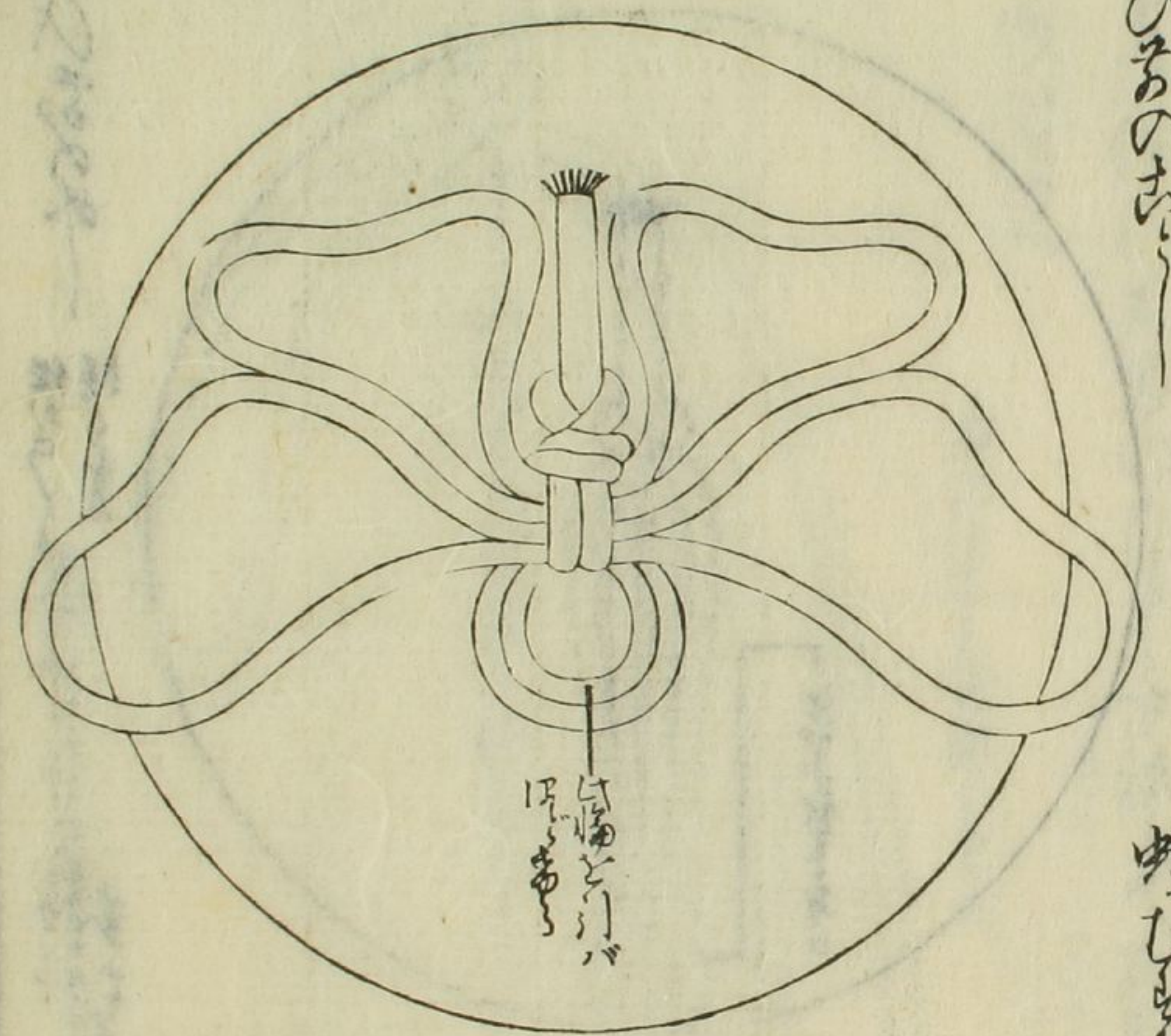
結ひかゝるゝんがう結ひの  
不之地以惣結ひせんがう  
むしび目ト云ふは  
きりかゝり上下の通ひ  
才之結事古流

此結結ひと名うが  
むしびとも云



是に於て  
結成る

下結ひ糸の結び



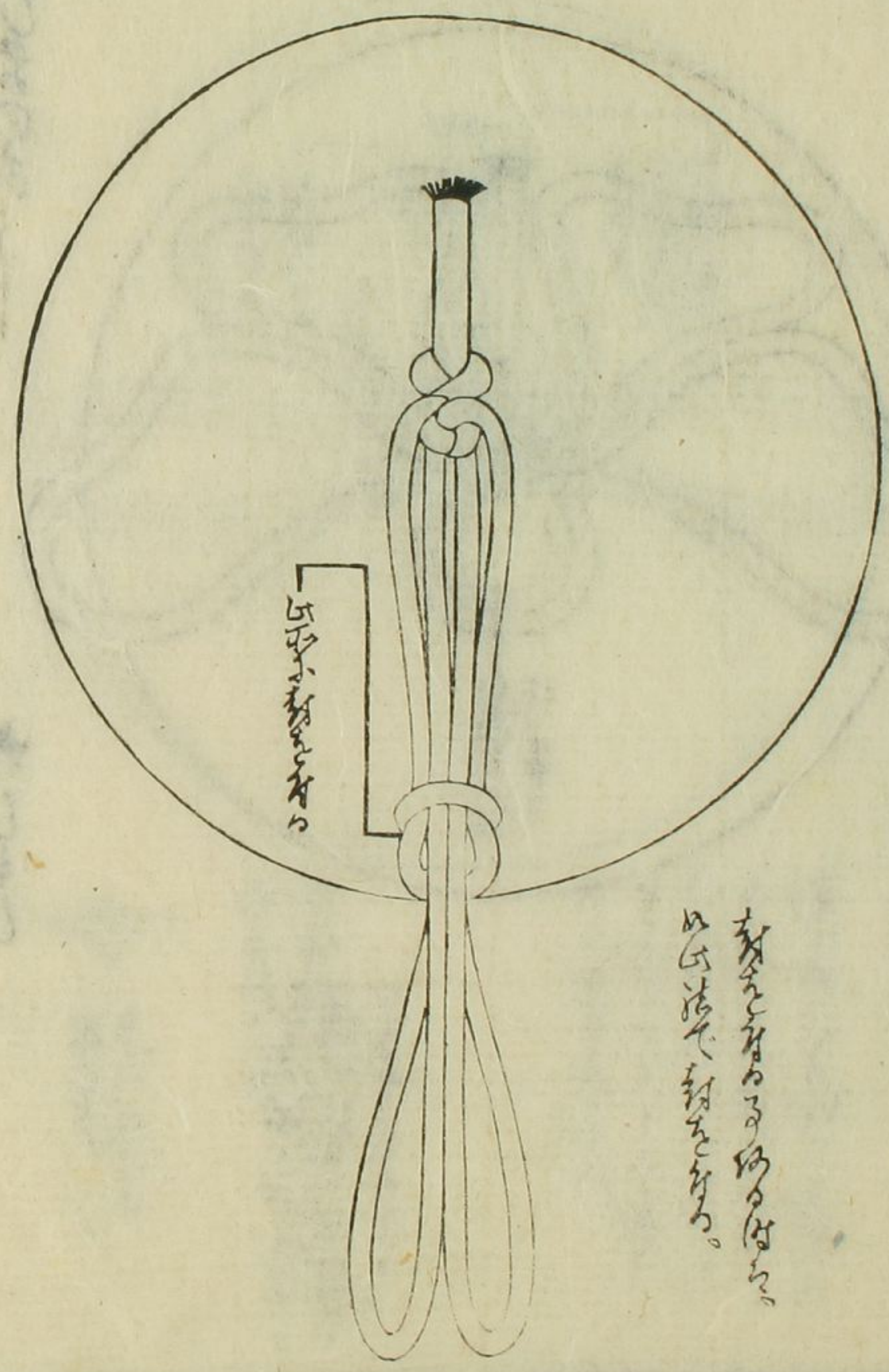
蝶ひしび

むしび中へせんがう  
結ひ不同し其の結を  
なすやうなやう

下法びのめ  
短くする

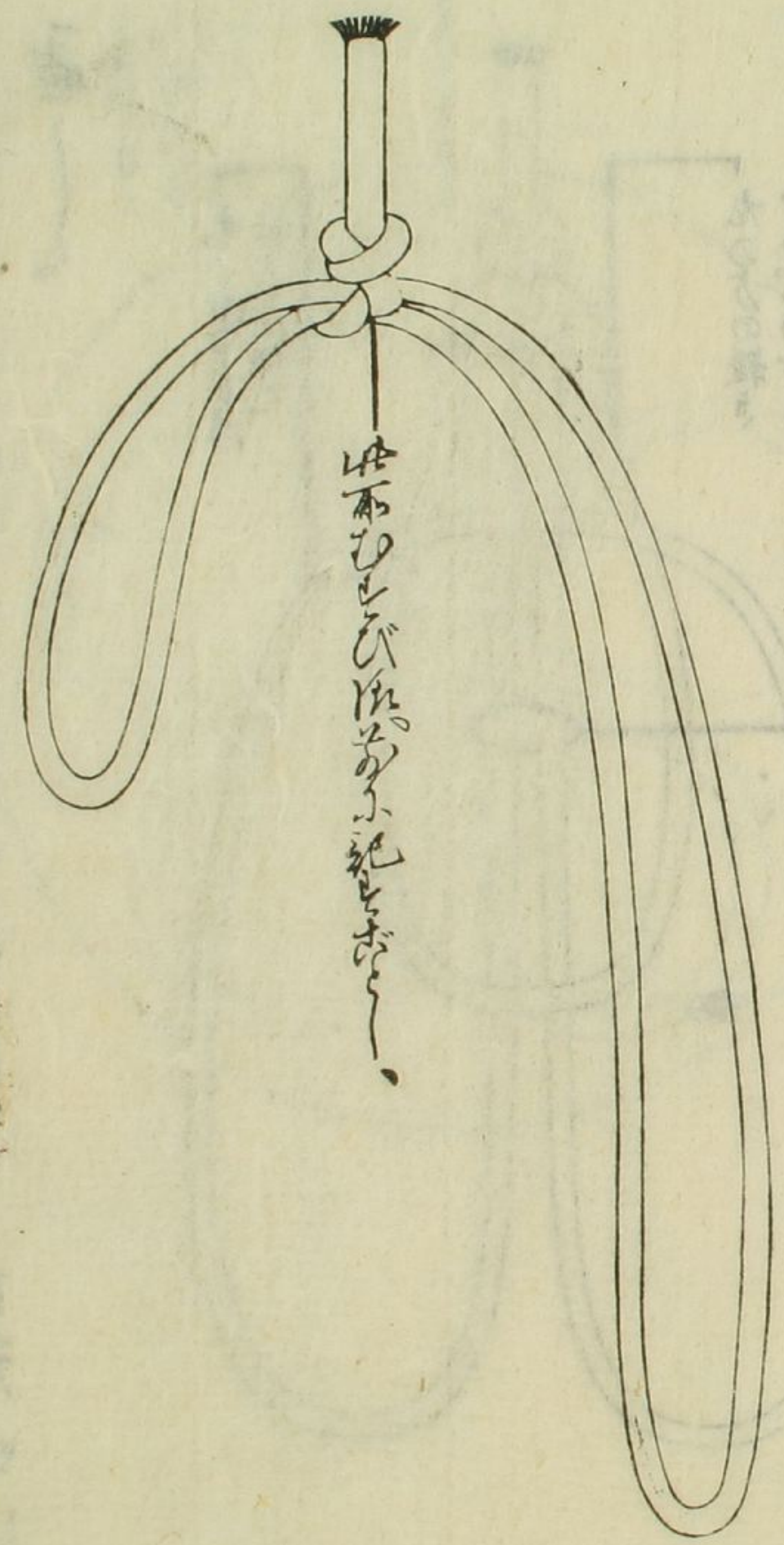
封むし

封むしを  
短くする



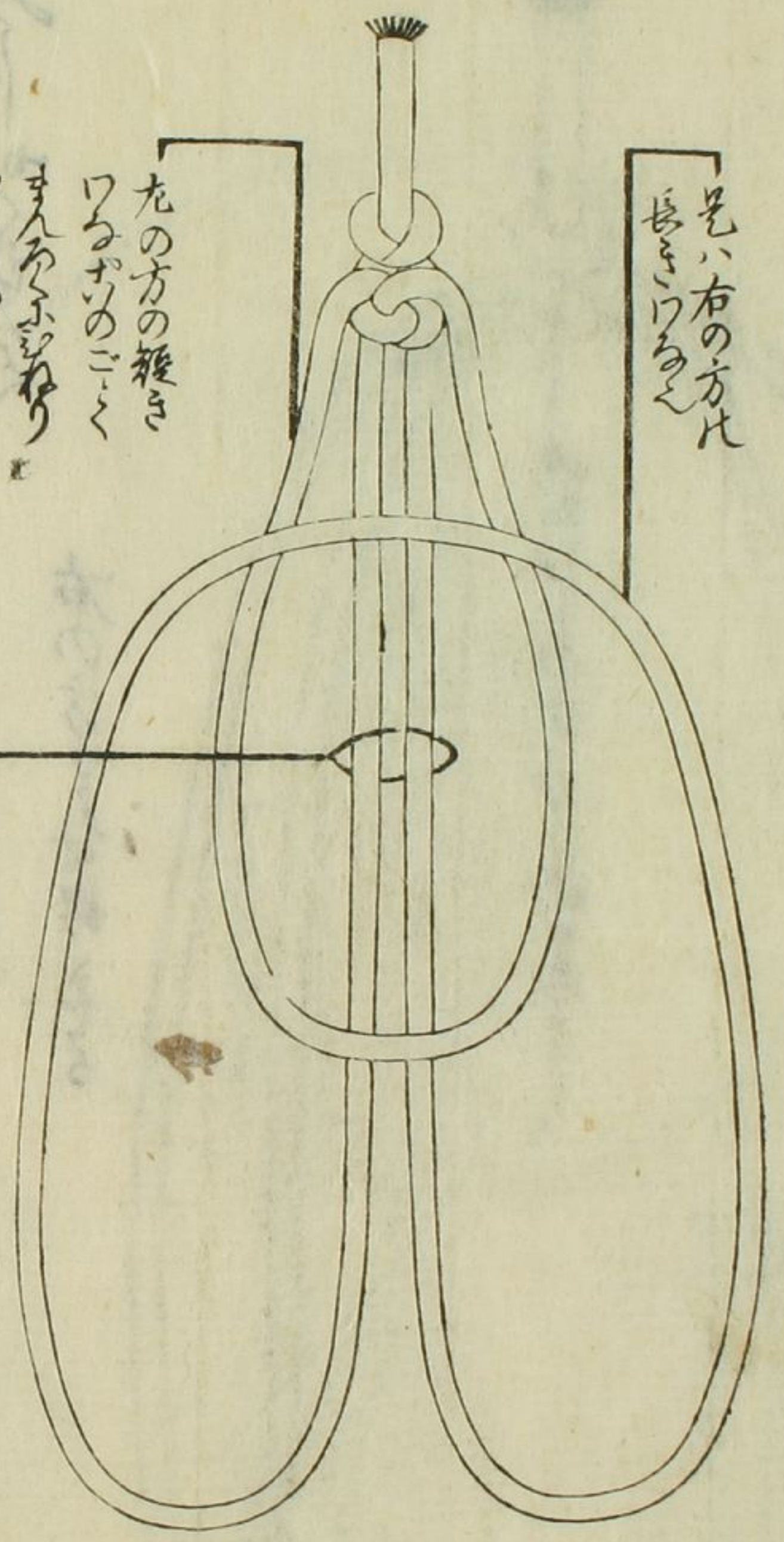
封むしは結後先糸のぶら下法を龍の方にするときは  
みどかしくする

右の方より長くする



龍のかくはゆる長くする

右にむく下法して、板ははして、糸引のむく、引出は次  
一。



是、右の方  
長、引る

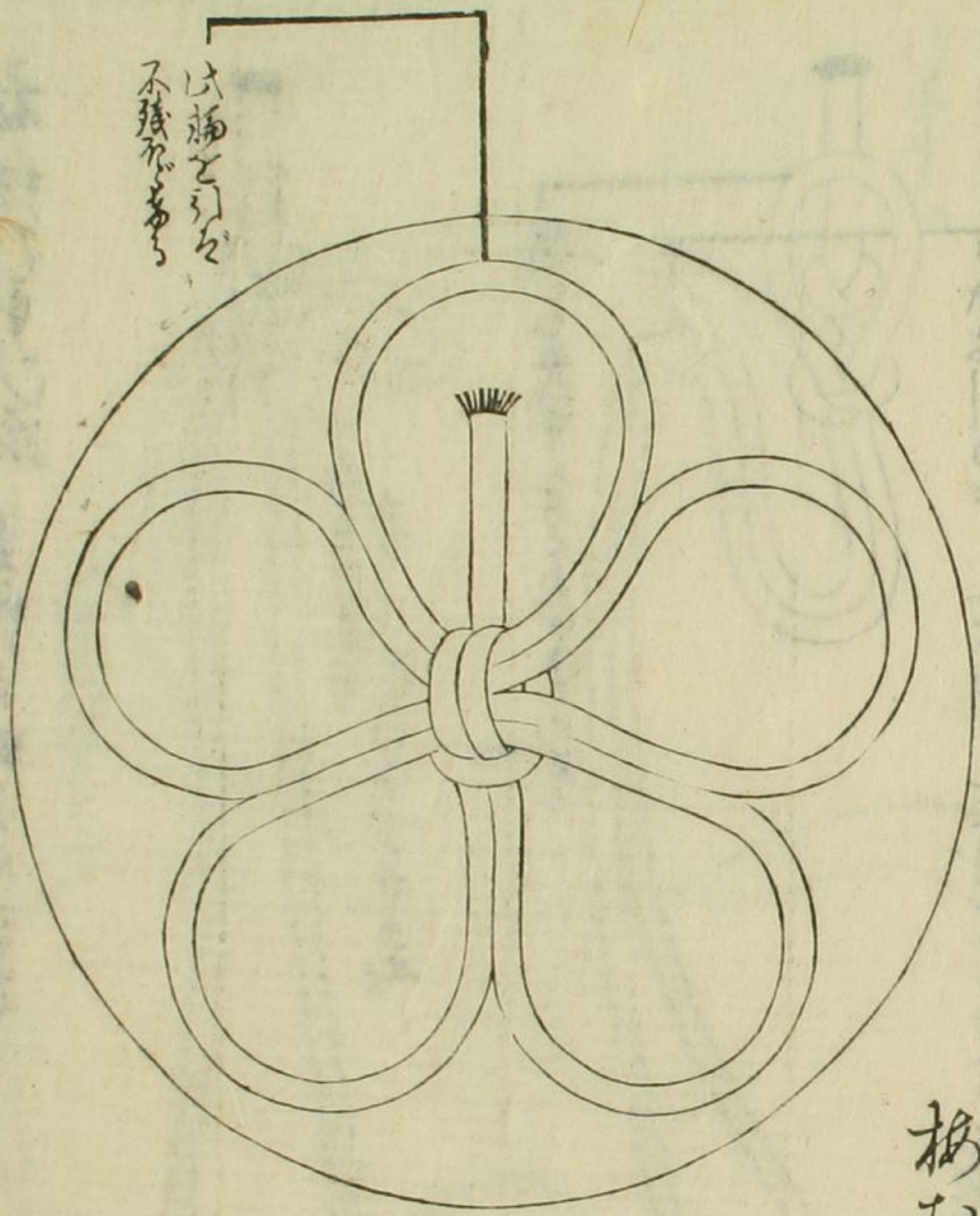
左の方の紐さ  
り、引るのこく  
ま、あふむなり  
むける。

は二筋と一つ小糸と、引出はの糸、  
引出す。引付も糸の方、引す。

下むくびまのむく

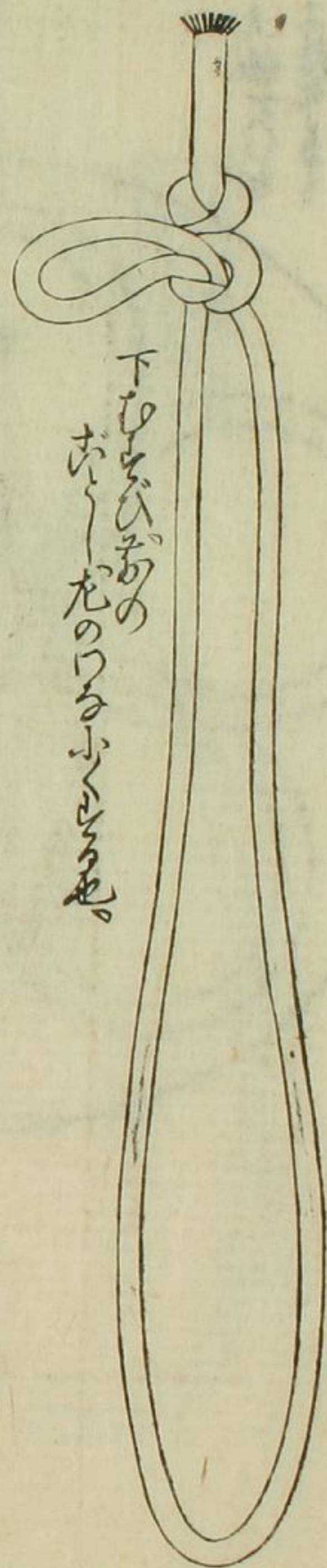
他、引く紐、引る

板むく



は、挿し、引る  
不、残る、あり

梅結むきびね 兼結びの時をいふ



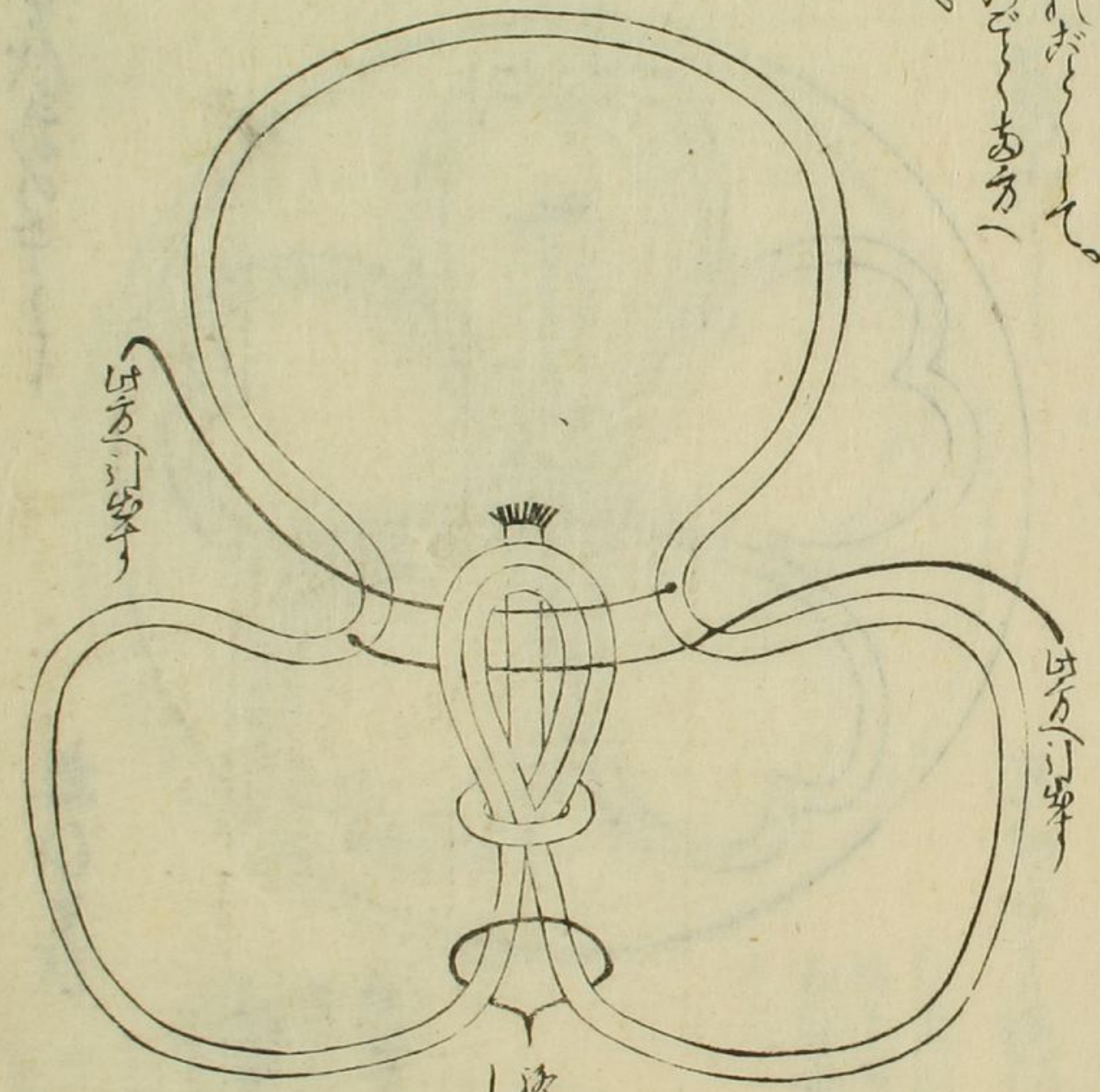
下むきびねの  
おろし龍のつるふくむ

梅結むきびねのつる



梅結むきびねのつるをいふ  
兼結びの時をいふ

右の糸は  
梅結むきびねのつる

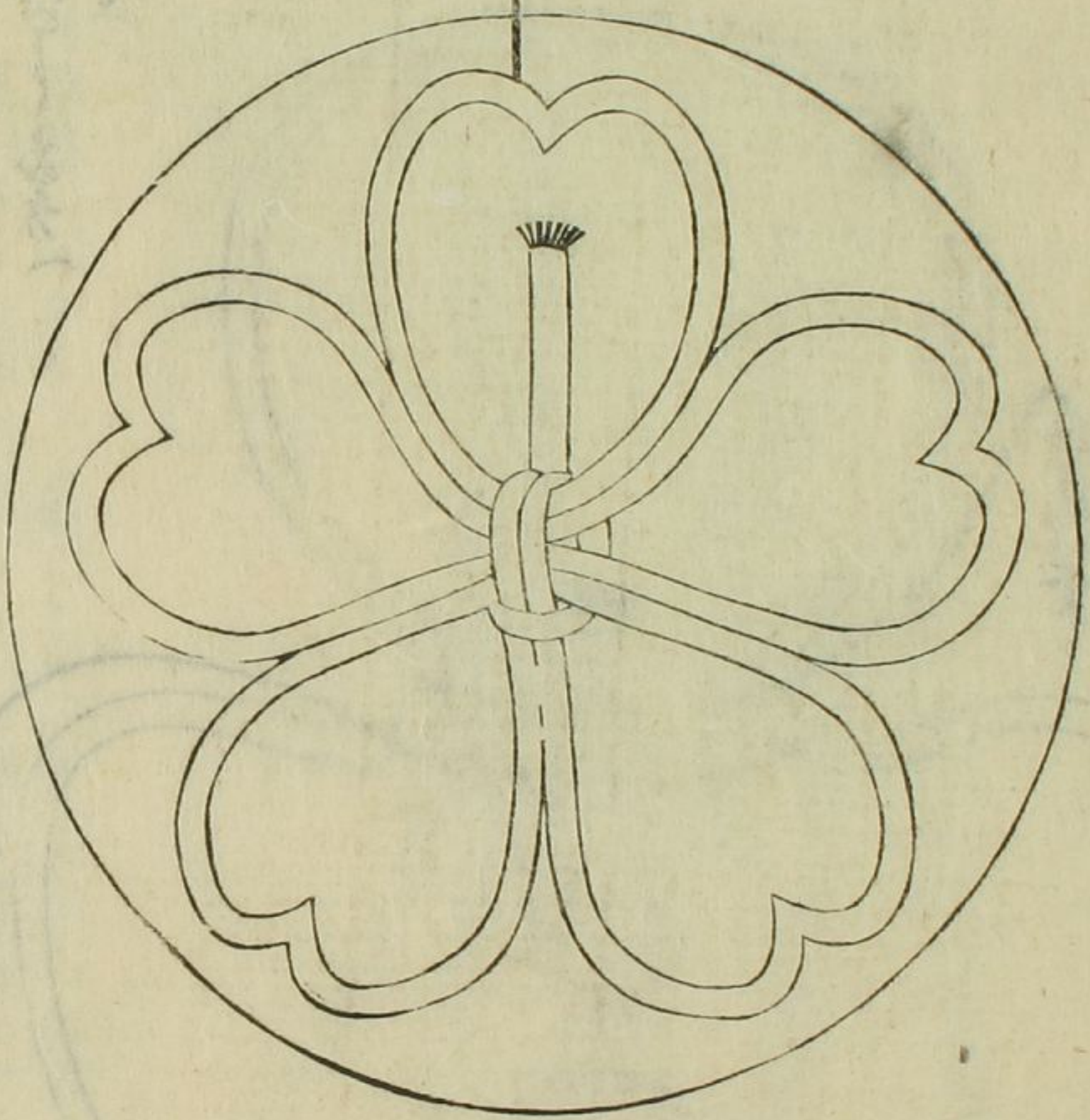


梅結むきびね

梅結むきびね

梅結むきびね

下むとびあめのどろ

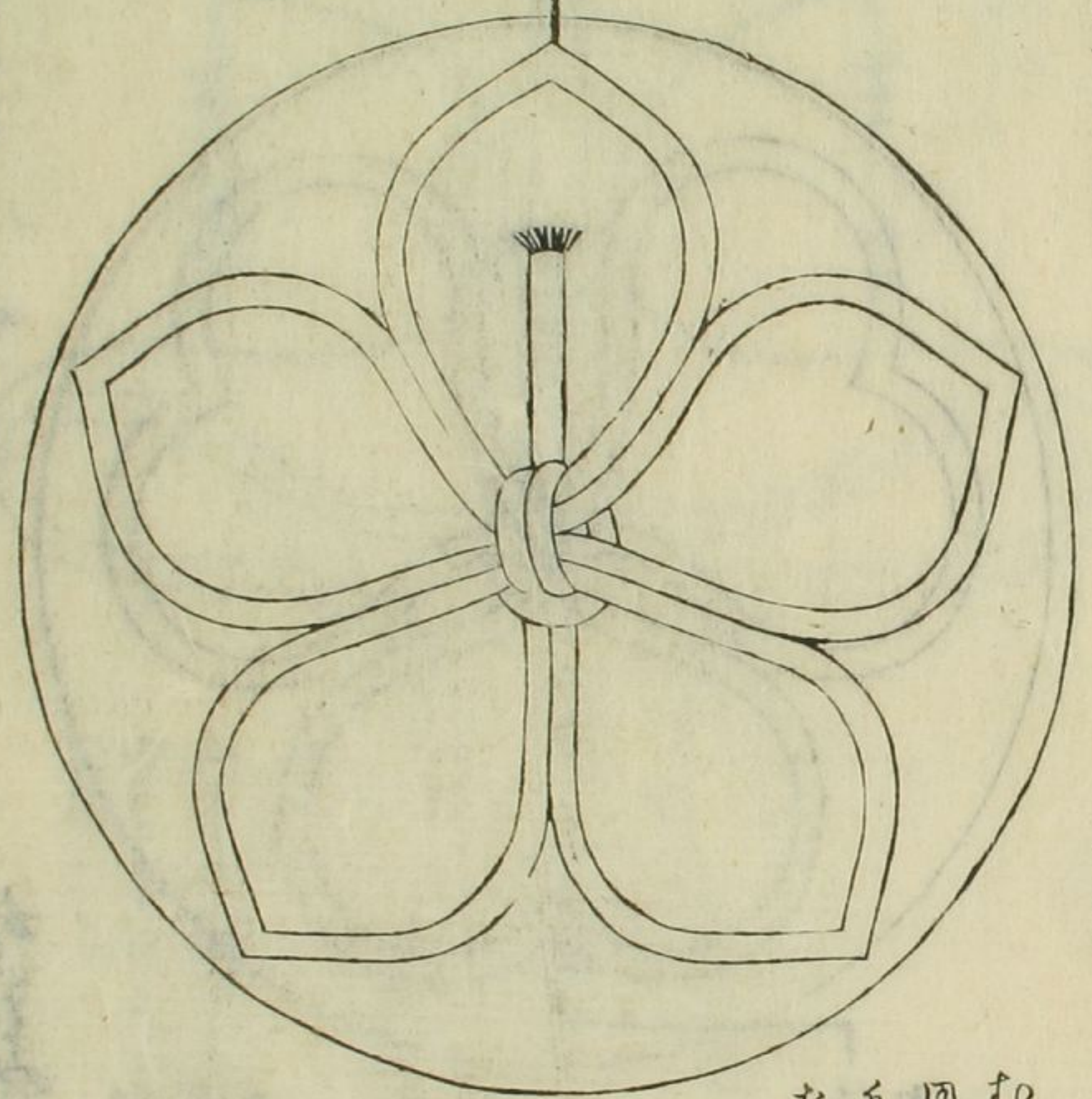


桜むとび

法原梅法不同ト  
るびの先紙カ  
因打合まのまひ

は梅を  
引い  
ねま

下結びあめのどろ



きちのう結び

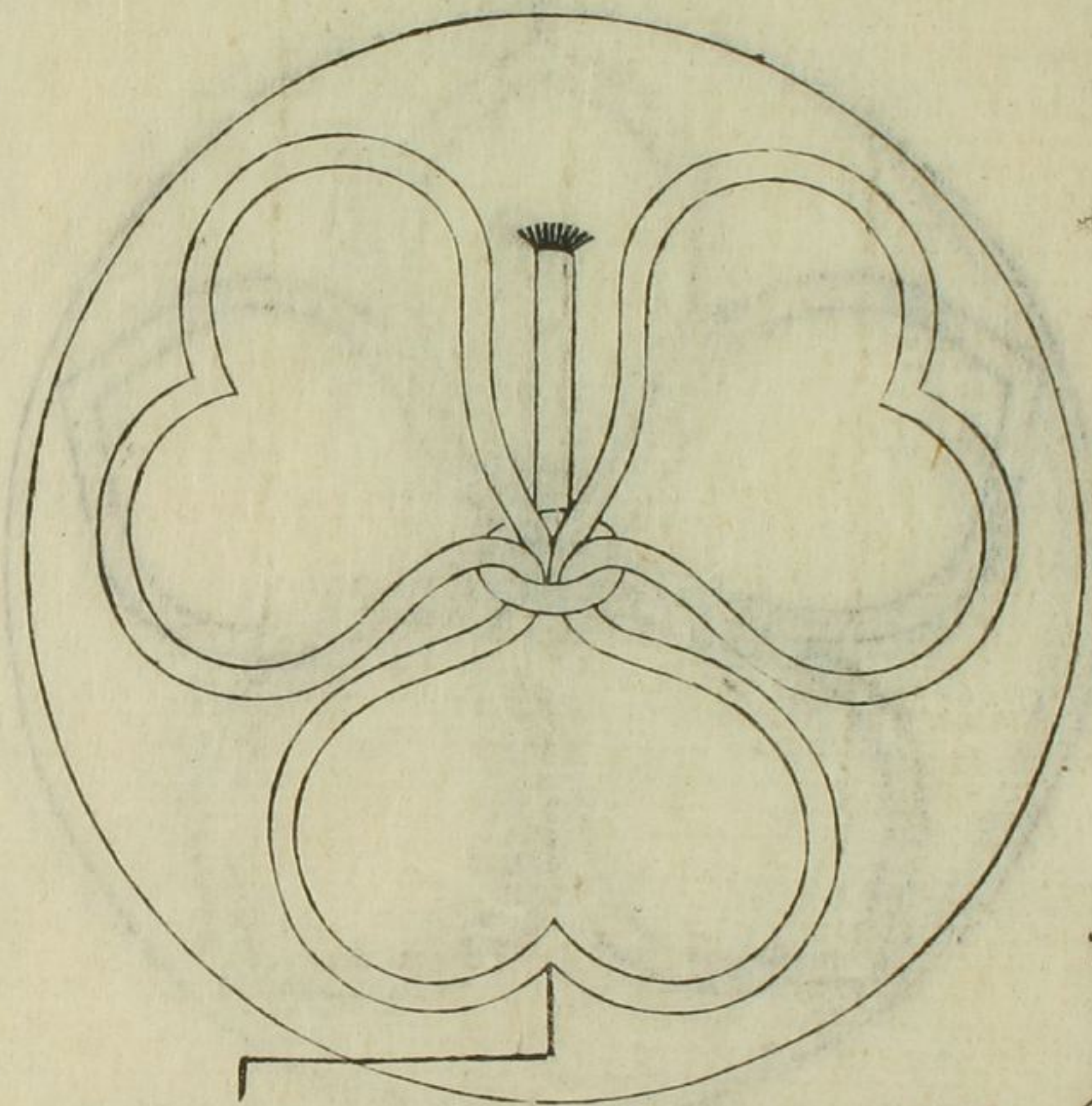
むとびやう。梅結不  
同ト。さびの先紙  
取(打合ま)の遠  
なり

は梅を  
引い  
ねま



さむねはあ入を  
かゝる法とむとび  
梅結小あね

下結袖のおき

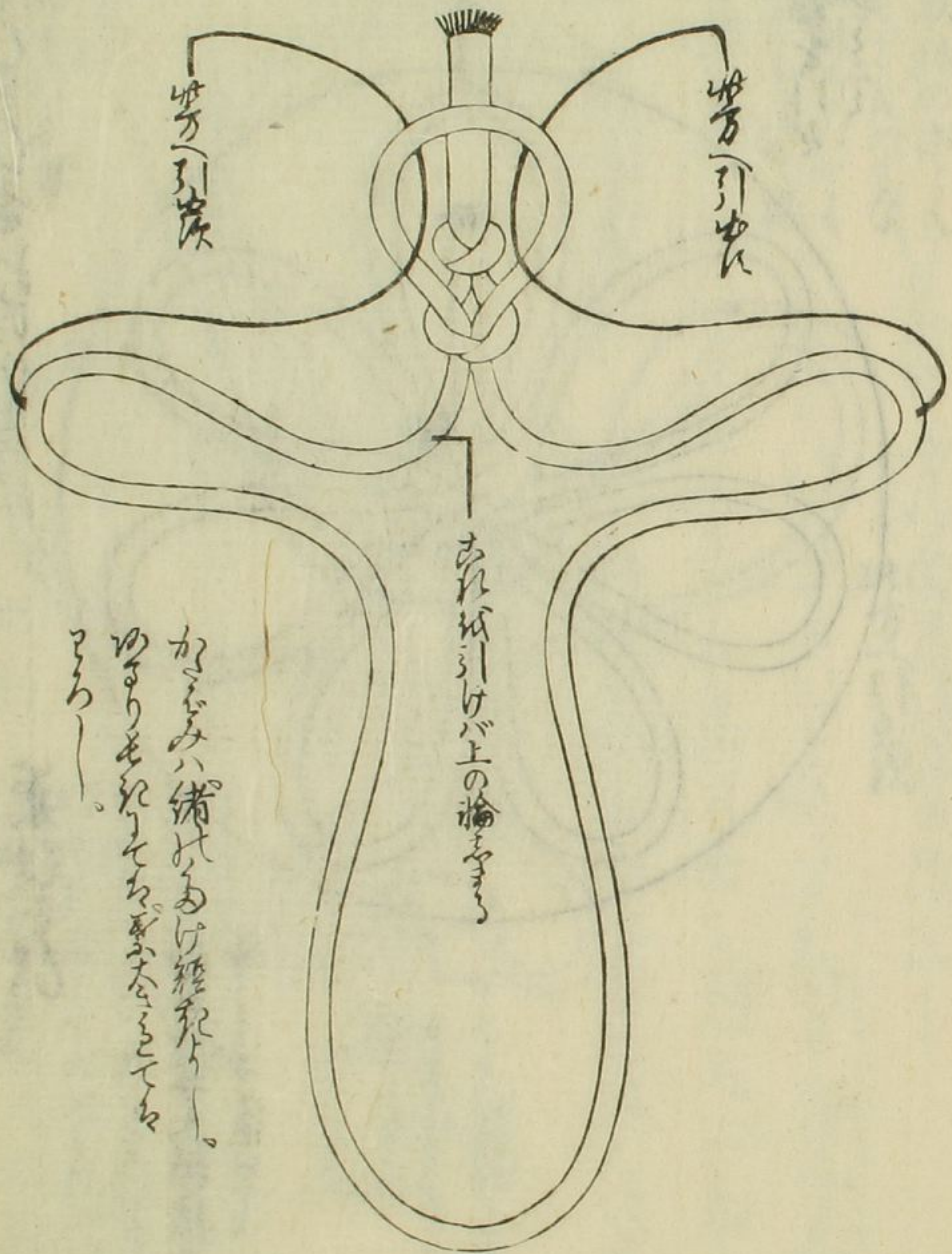


かきみ結

むすびは、結はふ  
おどろ、世を遠く  
清の糸のおき。

葉の先付内の方  
お入。

は、幅をひけ、不  
おけ。



葉方引中

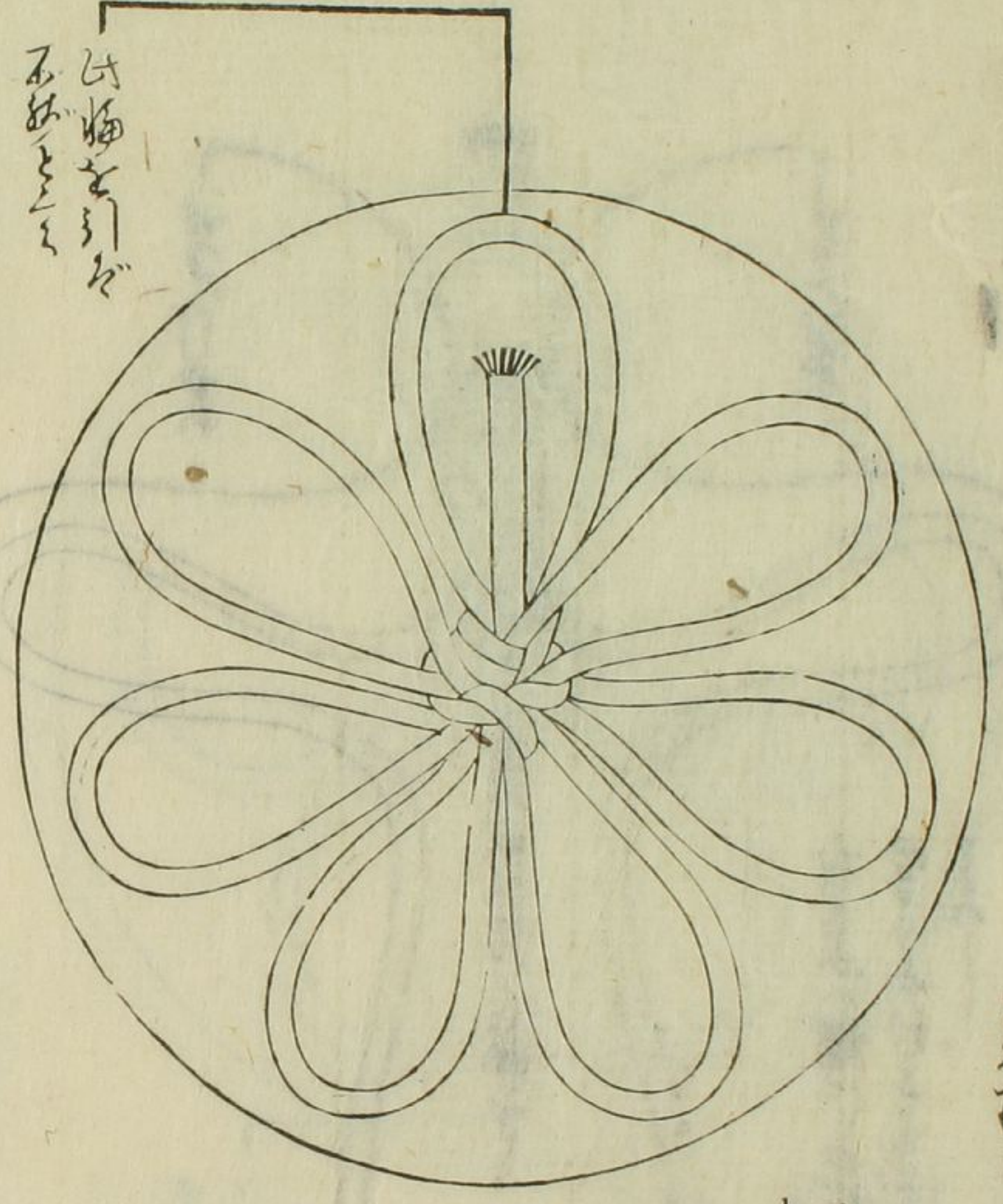
葉方引中

おれ、紙引け、上の輪を

かきみ、結は、あけ、結は、  
おどろ、世を、遠く、  
清の、糸の、おき。

下ひまびき糸はびき

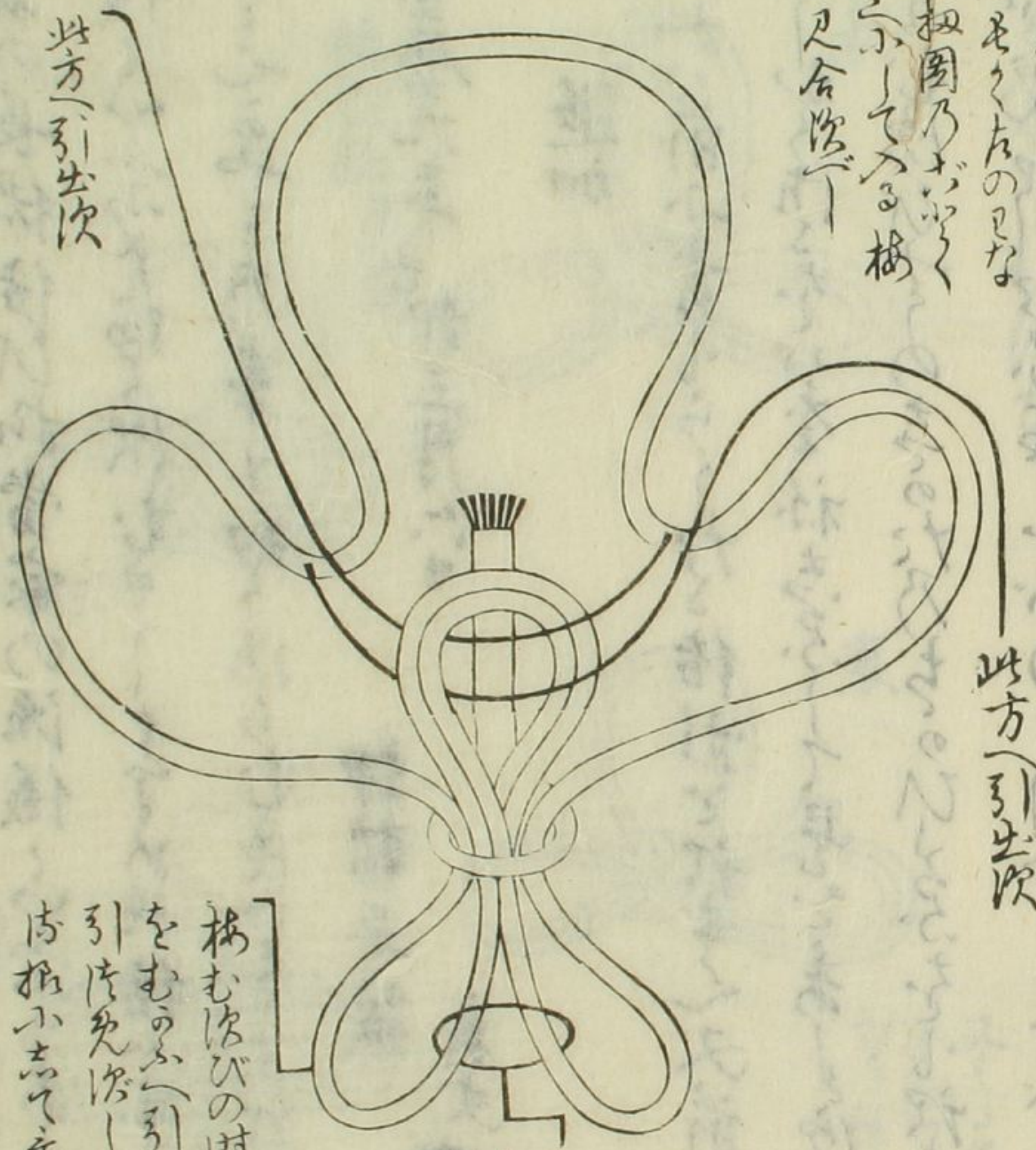
兼ひまびき



ひまびきを引か  
ずはとと

ひまびきを梅結の  
おしりが通つた。

下結ひま梅結のおとく  
右のひまをくく左のひまを  
小と上をねて乃おとく  
ひまをくくして入る梅  
結の所見合図



此方引出次

此方引出次

上を引かす上の結  
志まらぬはひま  
ひらふ来る

梅むつひの時ハ六乃二つのひま  
をむつひ引つたる糸むつひひ  
引片免つしてぬ此ひま二つあ  
は相ふとて並



右袋の長緒結び指當家の流儀と云ふもあはれ又他家は  
流儀と云ふも何れもむかしと云ふ此結ふ事世路人の手  
次ささ之やう乃事と知りはらむを口を一に事なるべし

宝曆九年己卯三月六日

伊勢平藏

貞丈

弔

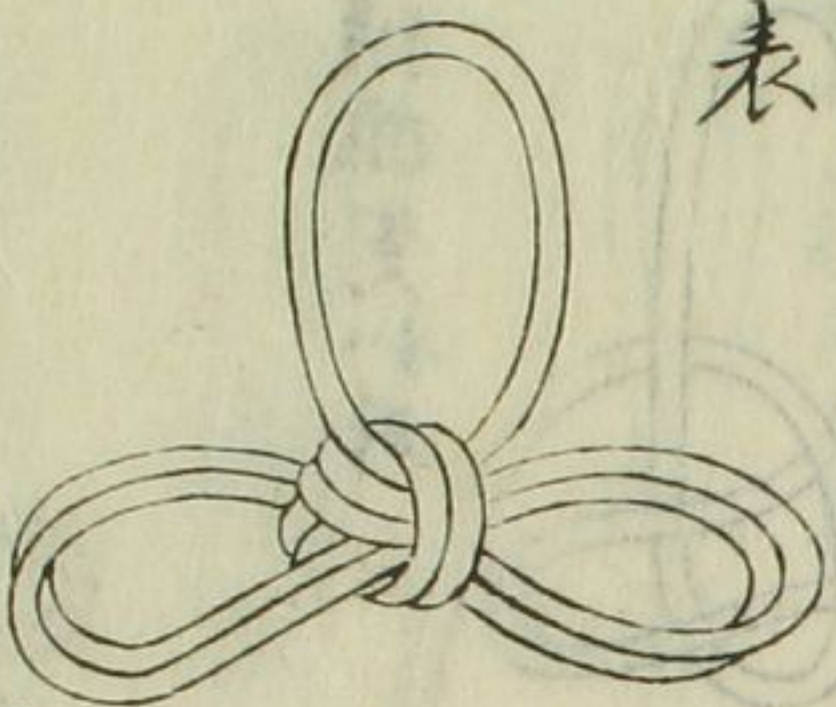
追加

一此追加前ふ書しらるる結形と記さる又前ふ記たる事  
も妻から結るをば左袖志ふて是を妻と云ふ又一つ結るこ  
なれむは結びやうの志のた乃ちのひらふを記さる前ふ記  
此追加ふ記たる事をば方引合せ入るべし

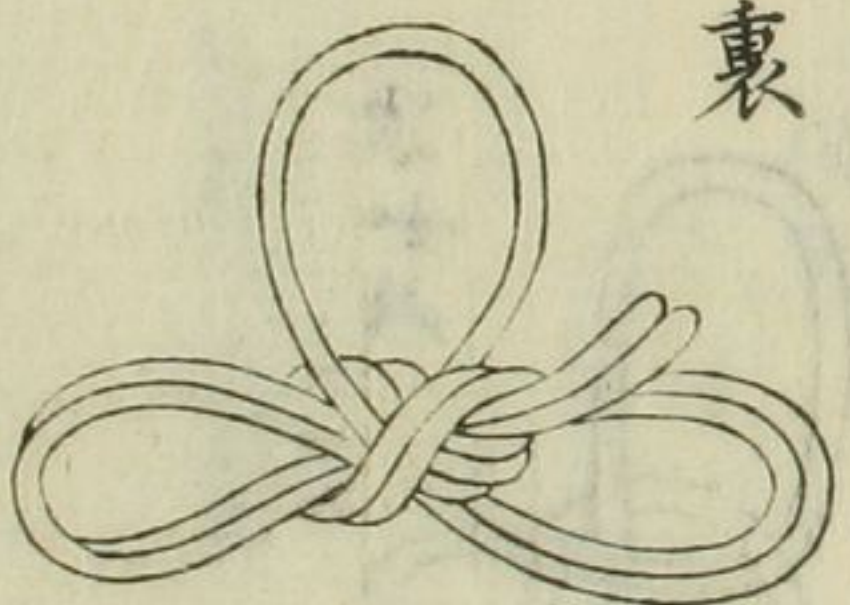
一真のとんちむほび

はる卒のせま口付る結形也

表

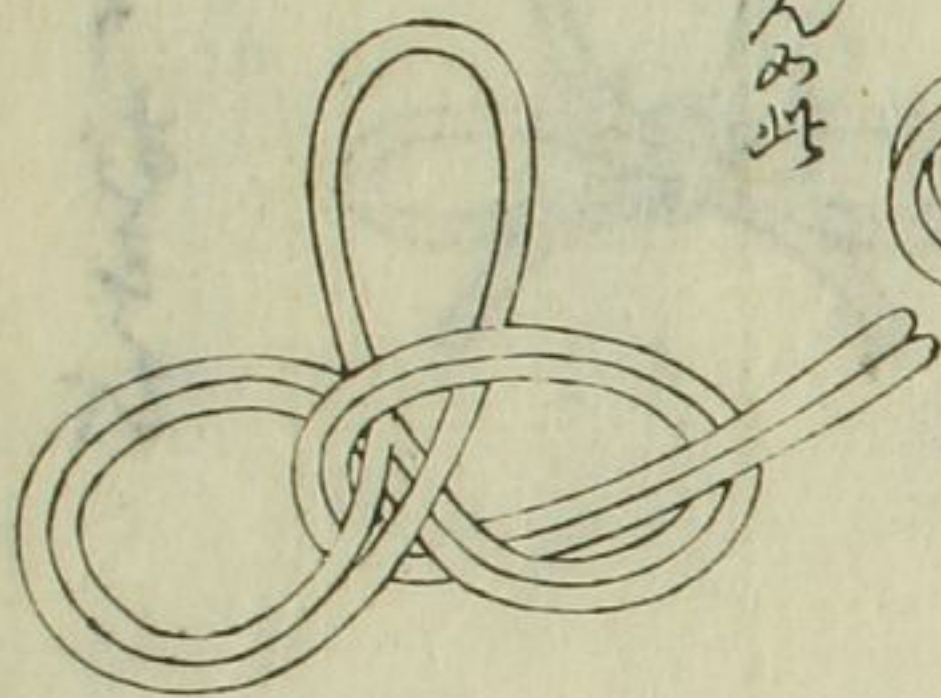


裏

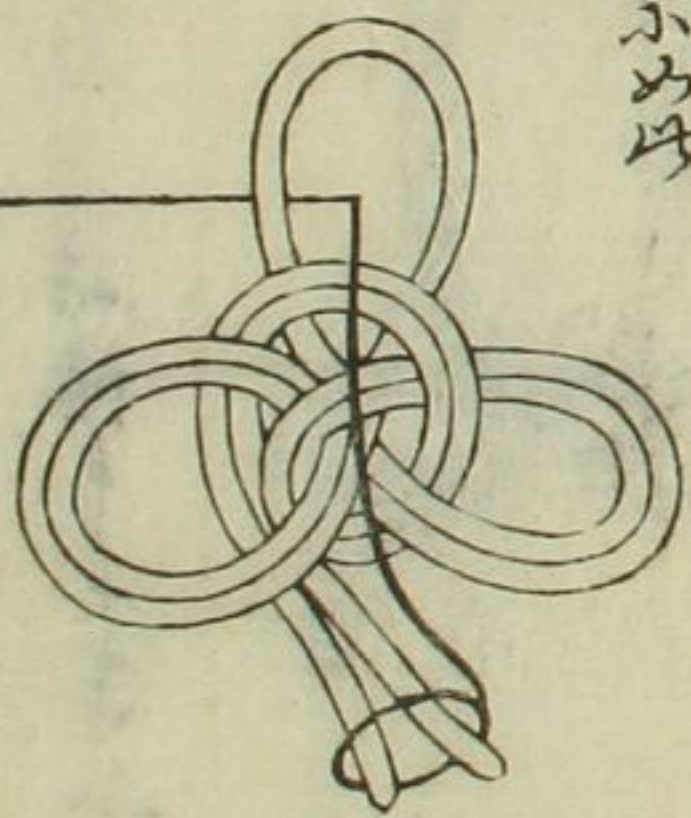


又この卒のせま口付る結形也  
はる卒のせまの一名をいふん  
がう結る事ある

結び指 先め此



次ふめ此

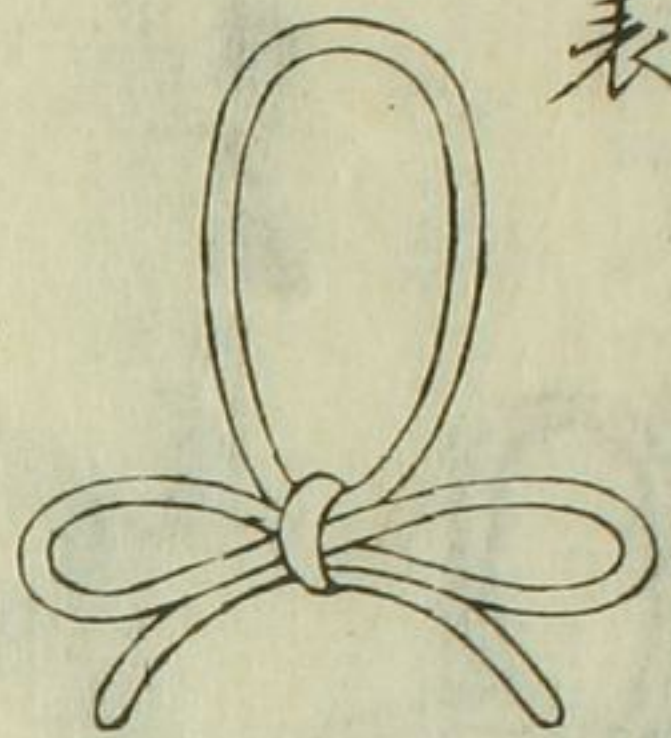


此糸引の如く  
通し裏の  
引通し為る

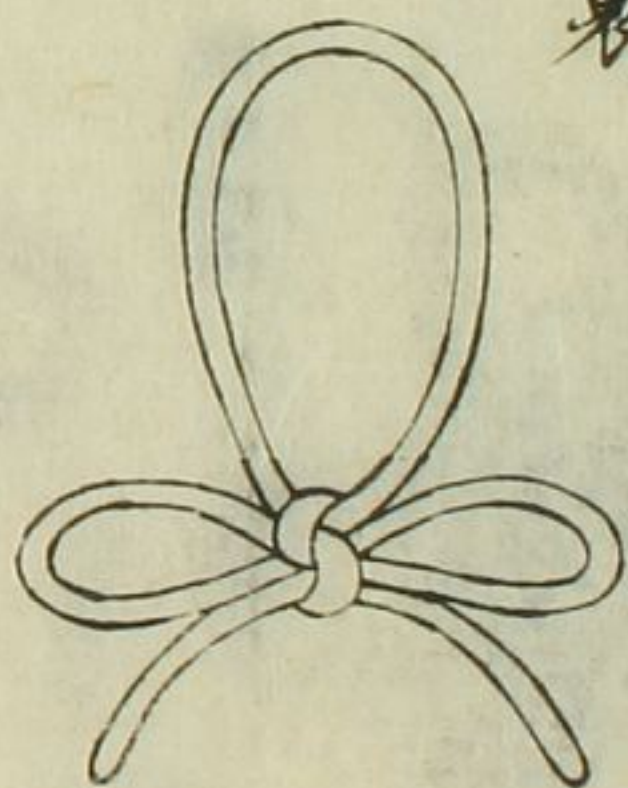
此糸引の方にて裏の圖の如きみよ

一草のやんほうむきび

表

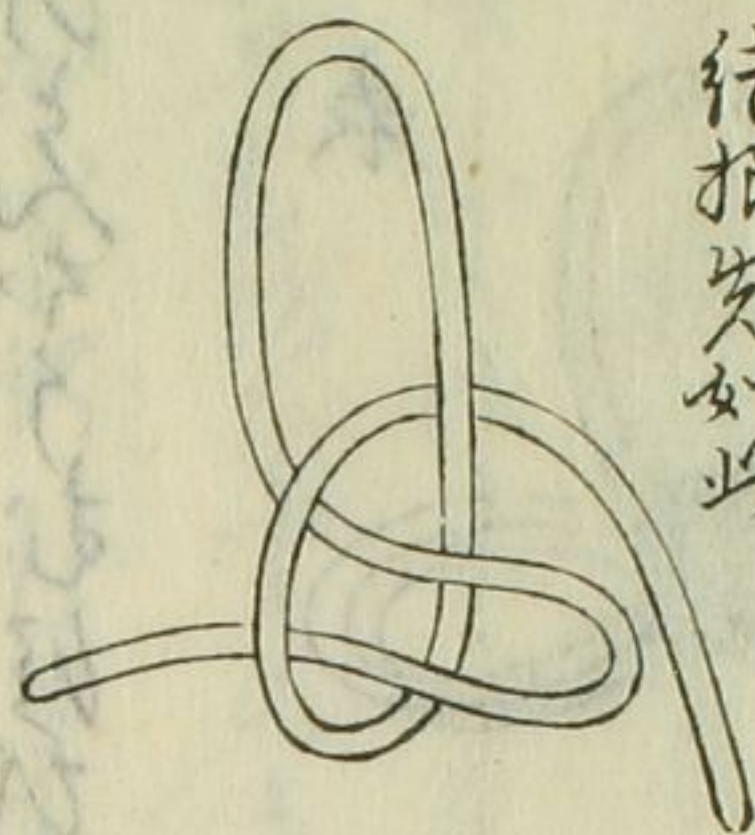


裏

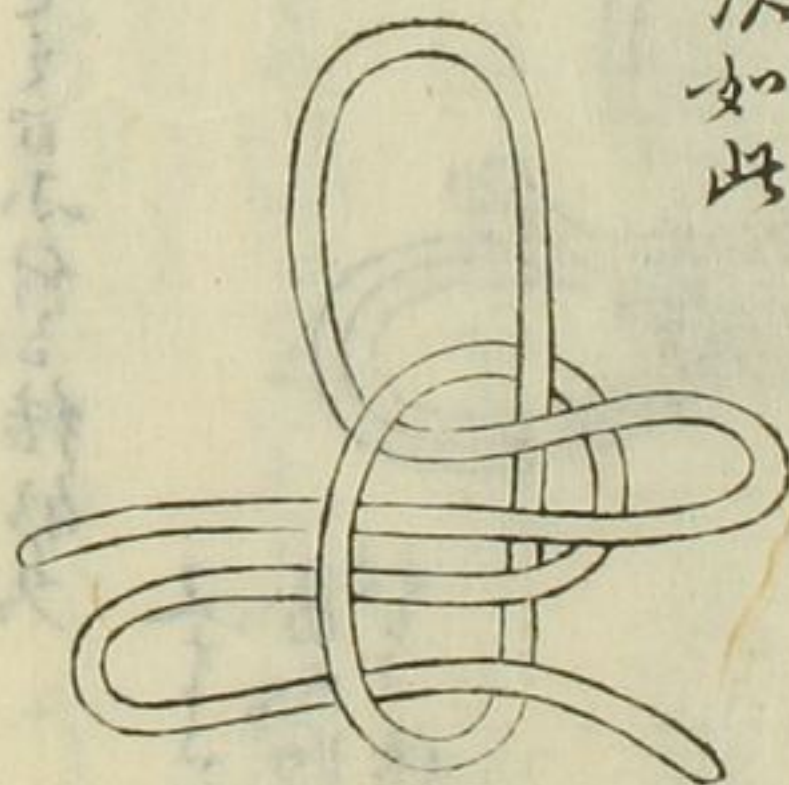


此結を二草小つぐ。

結振先如此



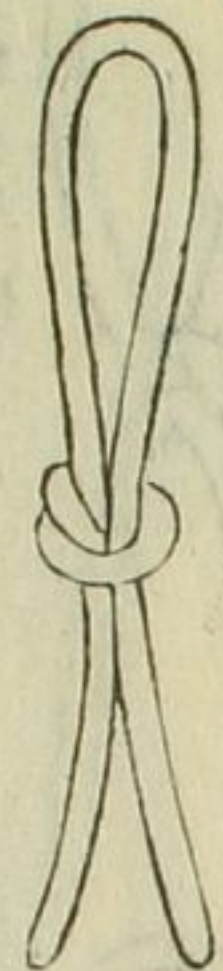
次如此



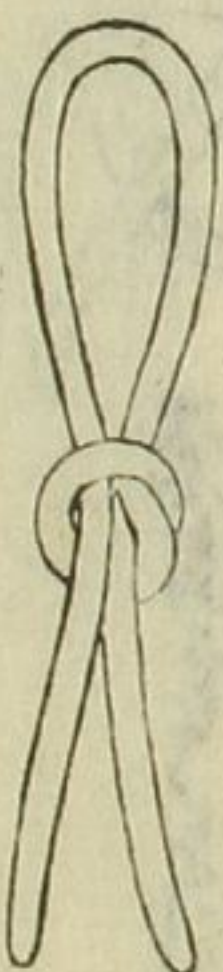
一片むきび

一名おんむきび

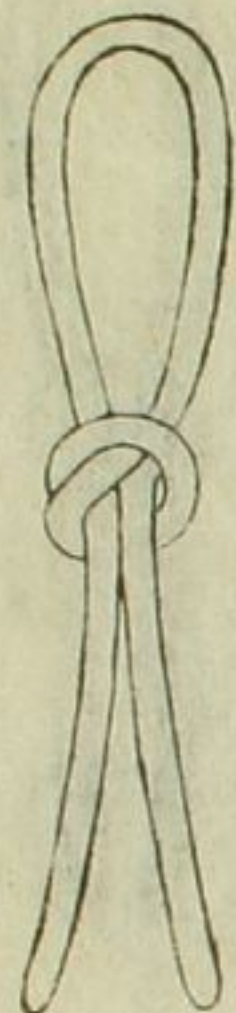
右のむきび表



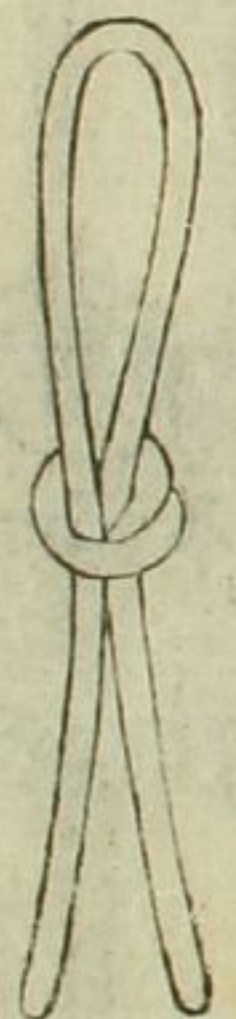
同裏



左のむきび表



同裏



むきび振如此



むきび振如此

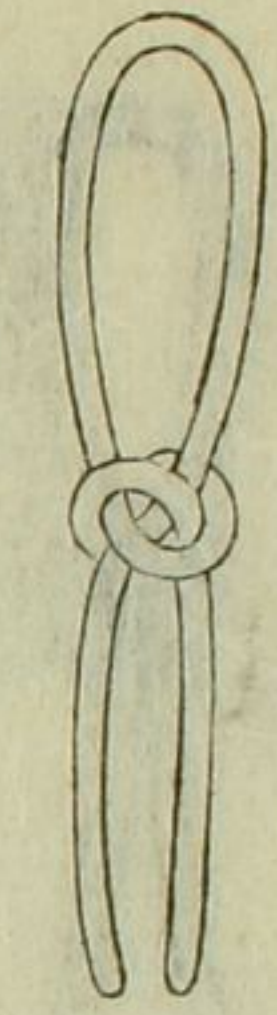
一 諸むすび

是ハ前小記一なる男むすび之替事なり  
然レモ結びやうの志を少の志を記す

表裏同ト

結びやう

此糸引の通ふ引通す



水干むすびの袖下ふすむすびを用ふ

一 名のとび

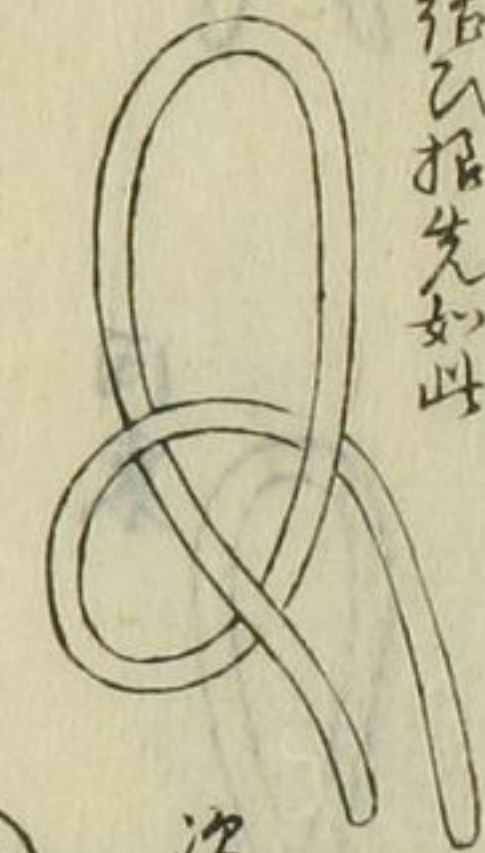
是ハ前小記の志を少の志を記す  
形ハ法むすび同ト指す人ゆへに  
くさて又色バ違ふ

表裏同ト

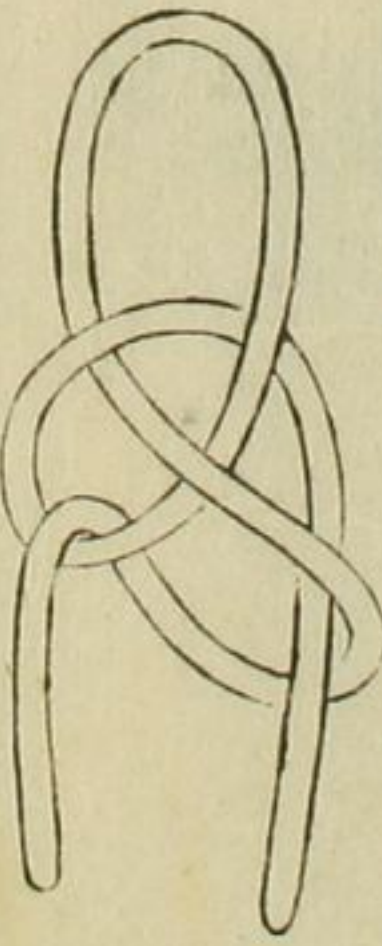
結び指先如此



此方を志候ふ付



此糸引の通ふ引通す



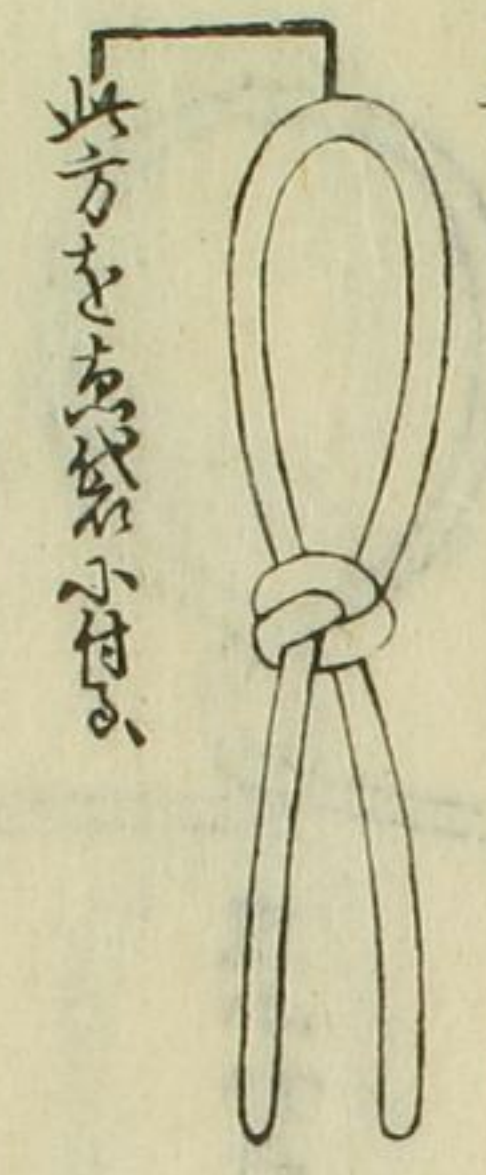
名のとび一名がくすのら又名の目とも云

一 うすだごら

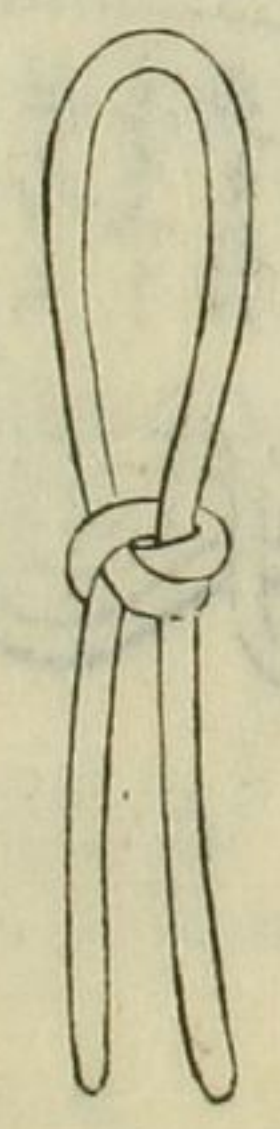
是ハ前小記の志を少の志を記す  
くさて一方ふさだごらを用ふ

表

裏

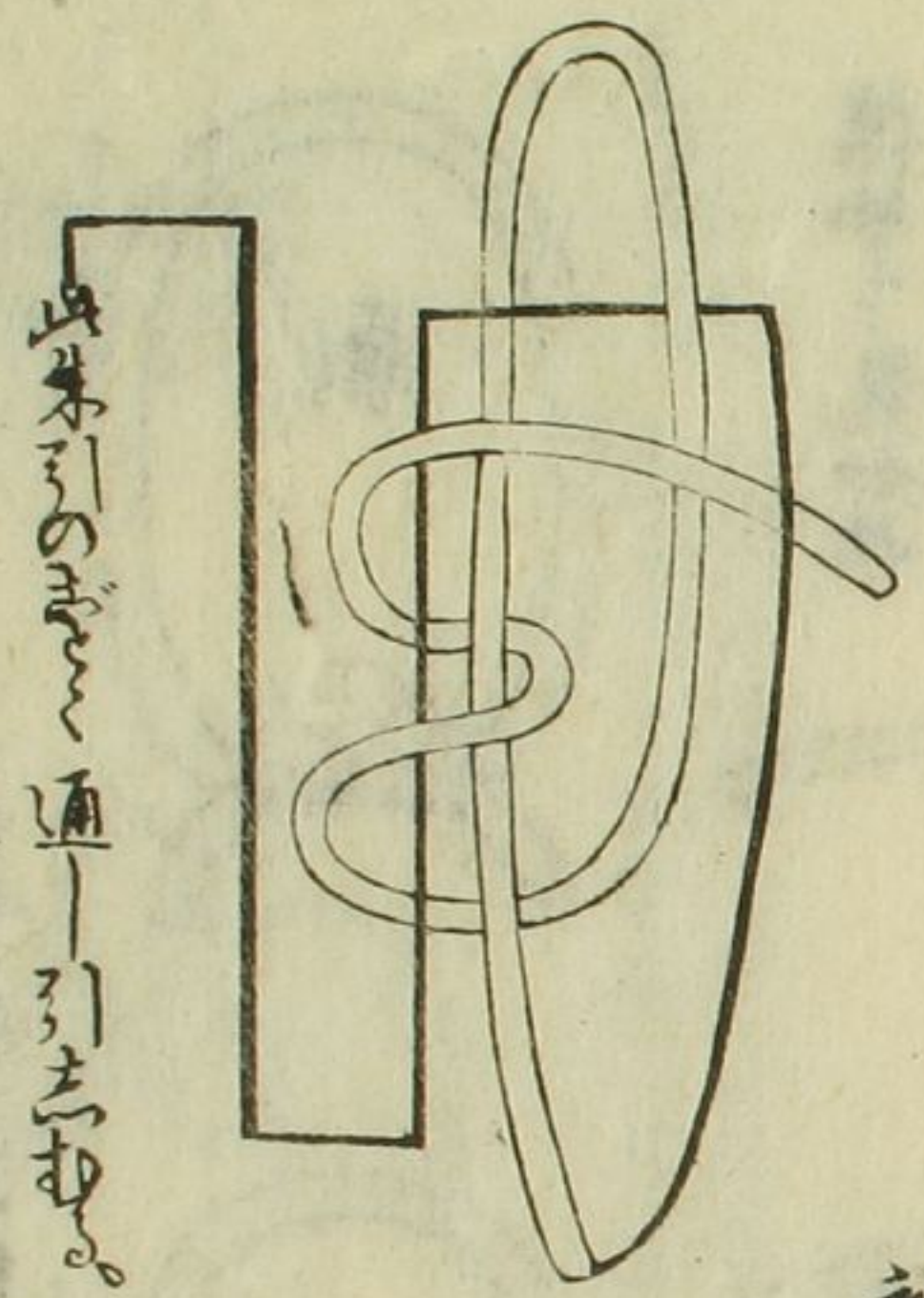


此方を志候ふ付



この志袋の図

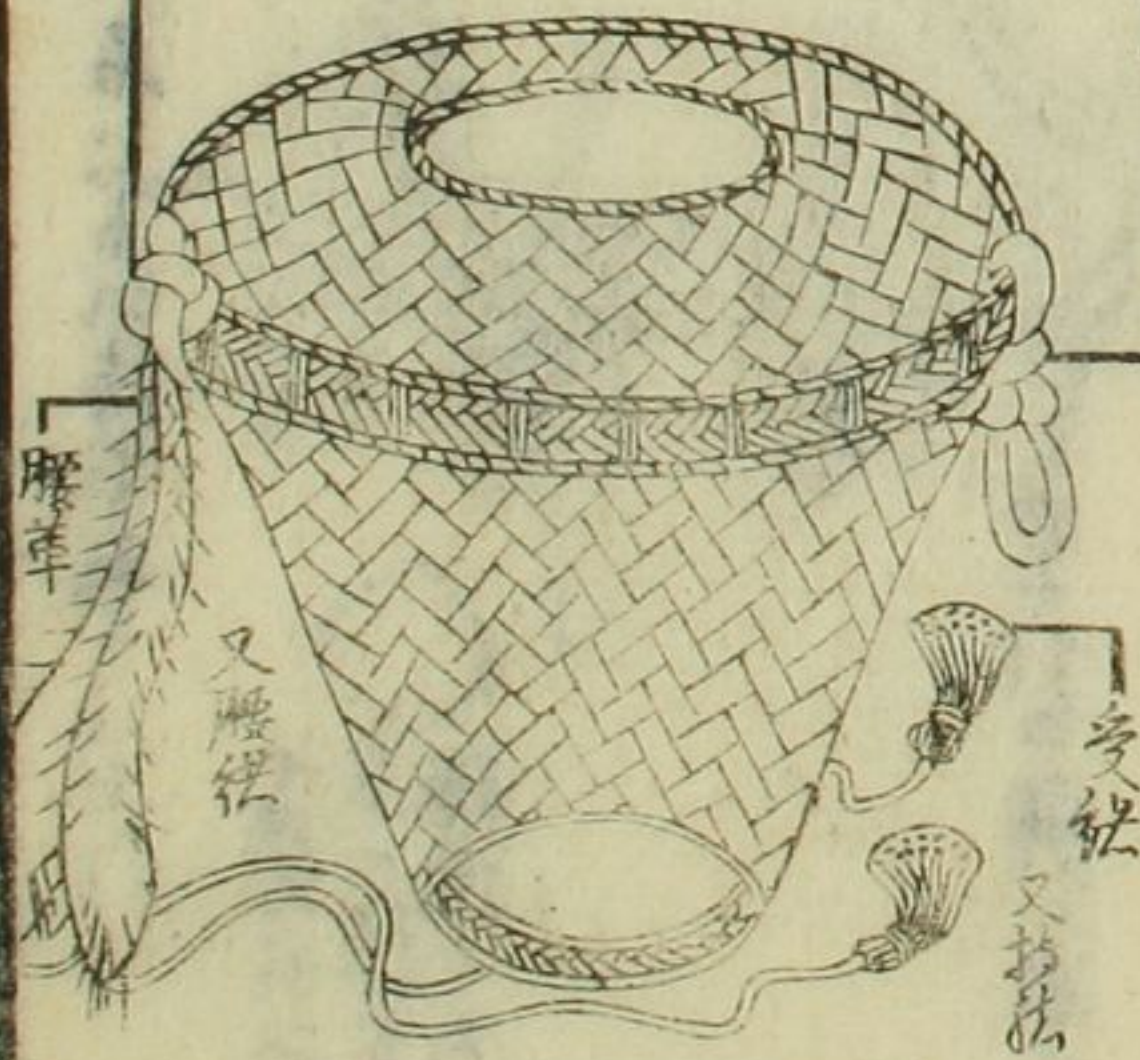
此所の法もこの首



此糸引の志を少の志を記す

此所の法もこの首

六十



又腰袋

又お袋

一真珠寶珠結

或祝小女主人のむち小用、一名おむひ結と云。  
了むひびをも思結と云。



結号う先如此

次小如此



如此者、引志む、時形を、但ぐ、志りやう、為るれば、形悪く、珠結、

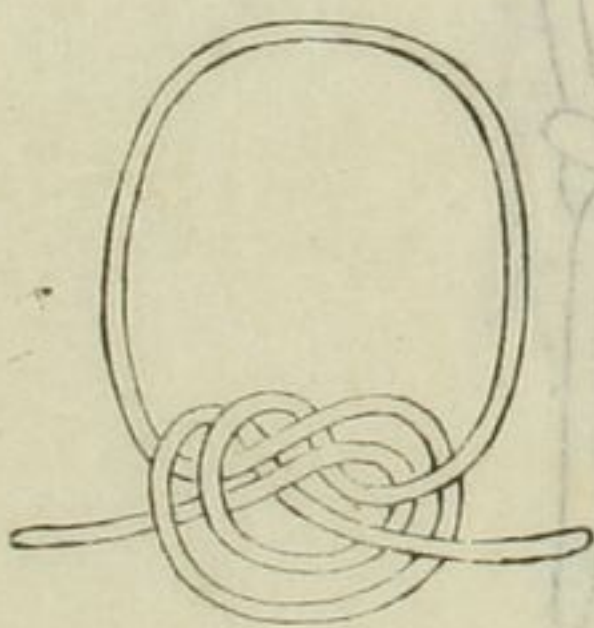
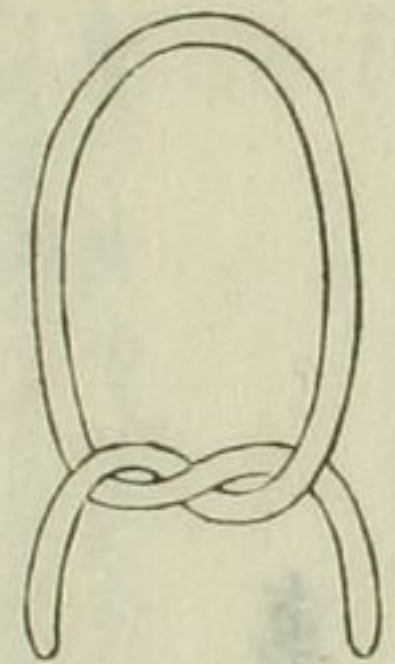
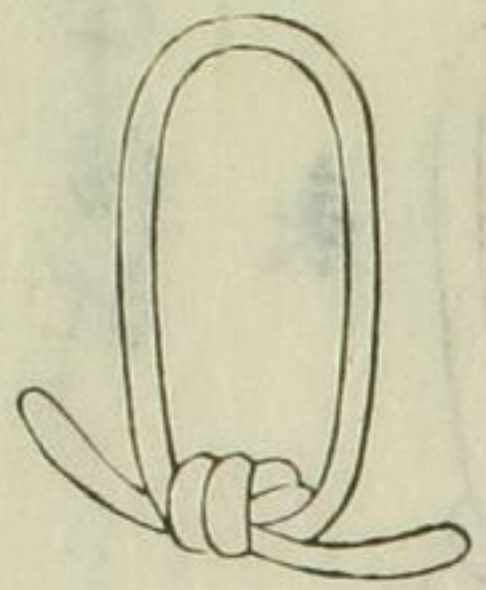
如此の形小、な、おむひ、珠結と云。

此糸引の通引通引

此糸引の通引通引

一草の宝珠結

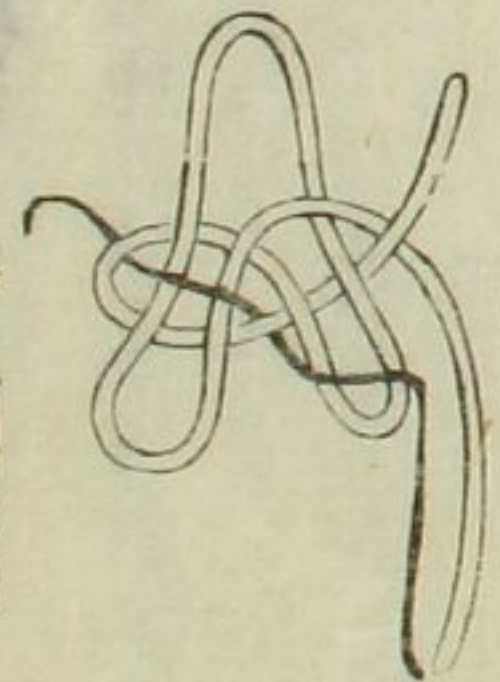
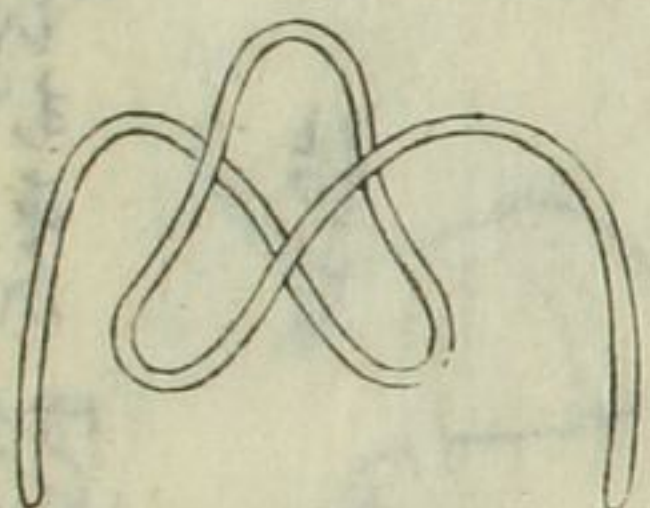
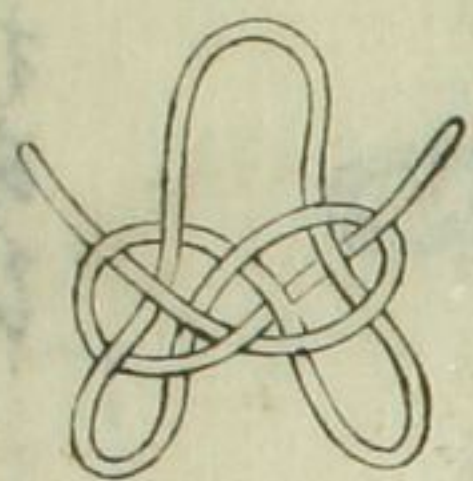
或祝小女主人のむち小用、此結びは、おむひ結と云。  
むら結び、結び振おむひ結と云、うはんやん。



如此引、志む。

一四つ手むすび

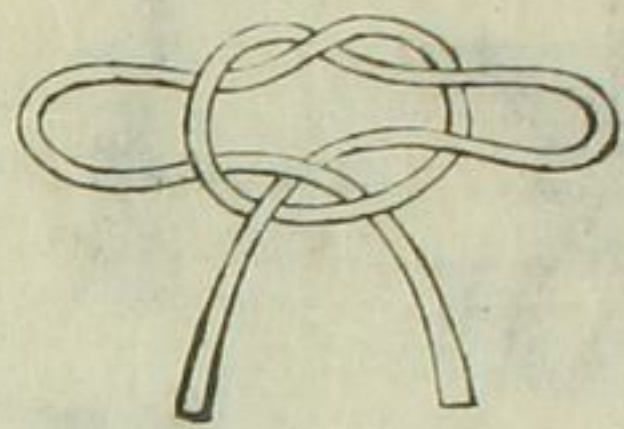
袋の古供小用、その時を、下むすびを、一、  
お四手手結び、お四手なる、古供小用、二、



此糸引の通引通引

一のけむきび

一名かけおびむきび。前ふ記をかくおひ結びやそおあり。



結び指

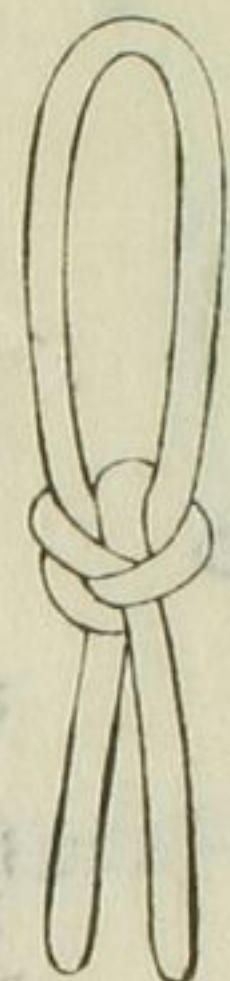
第一

第二

此朱引のどく引通す。

一麻苧結び

表

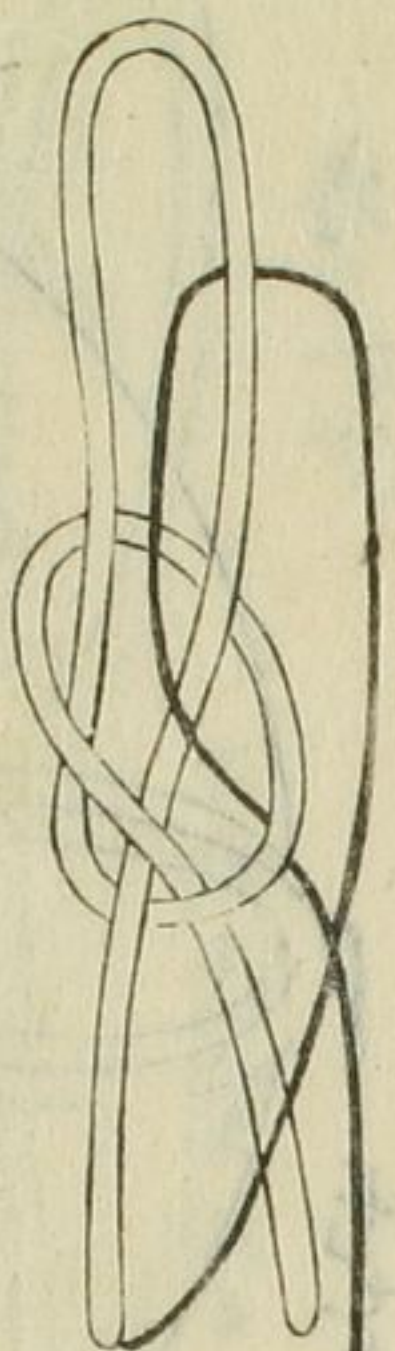


裏



一糸の結び

此糸引のどく引通す。此糸引のどく引通す。

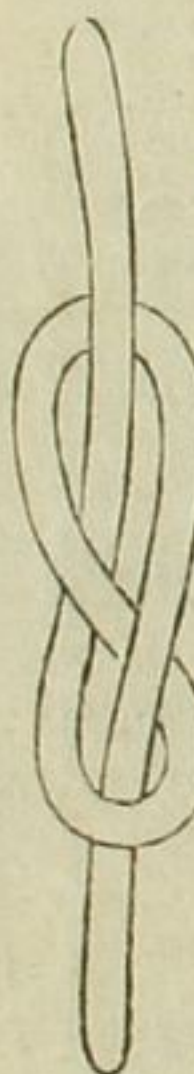
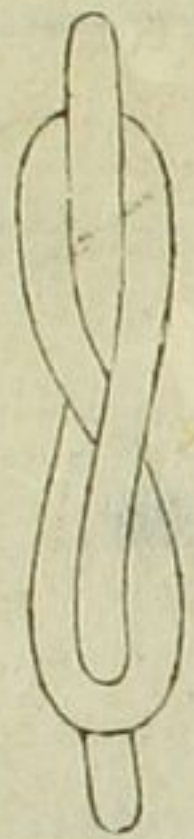


此朱引のどく引通して志む。志むる時糸筋遠くを右に引のどく引通す。

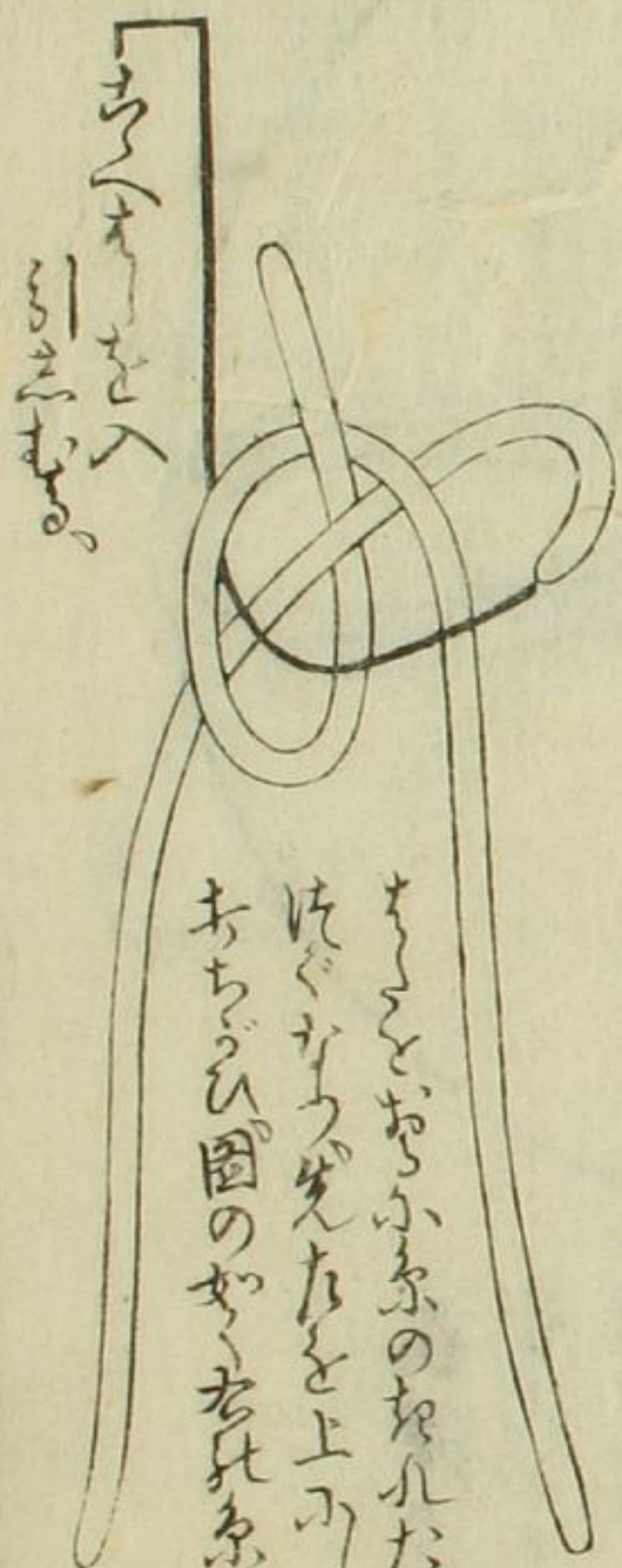
一短くやちむきび

短くやちむきび。此結びてやちむきび。

結び指此



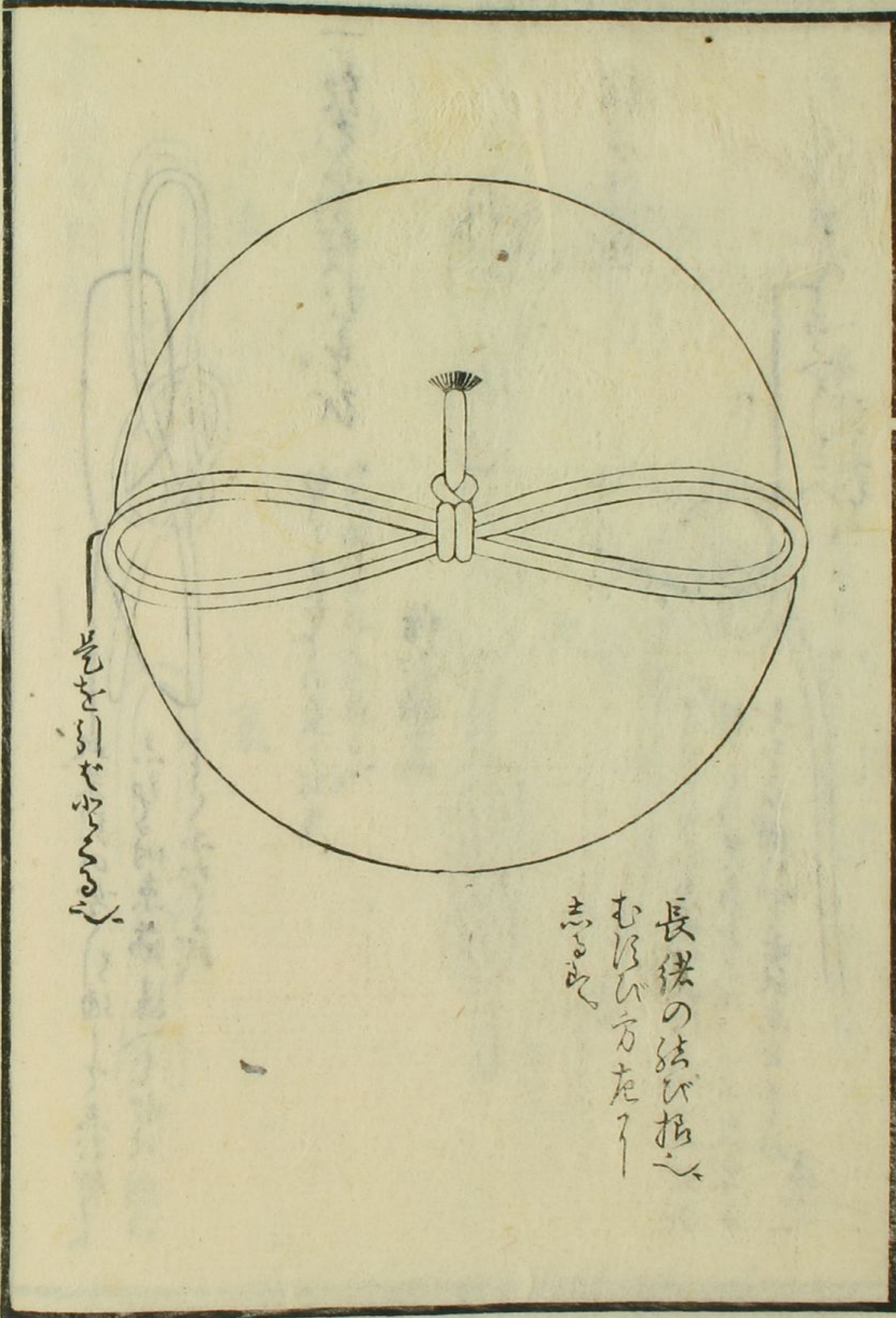
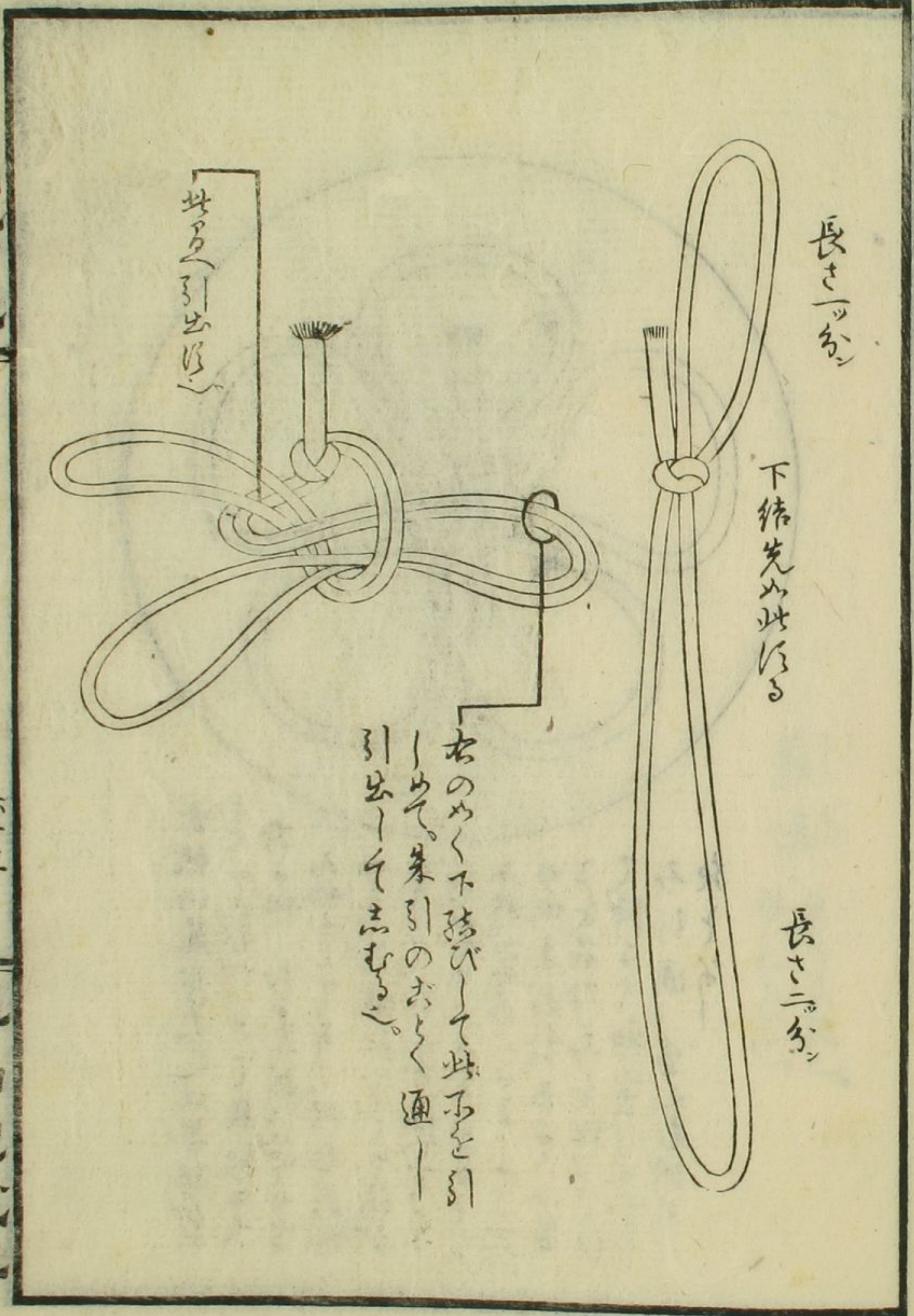
一はら結び

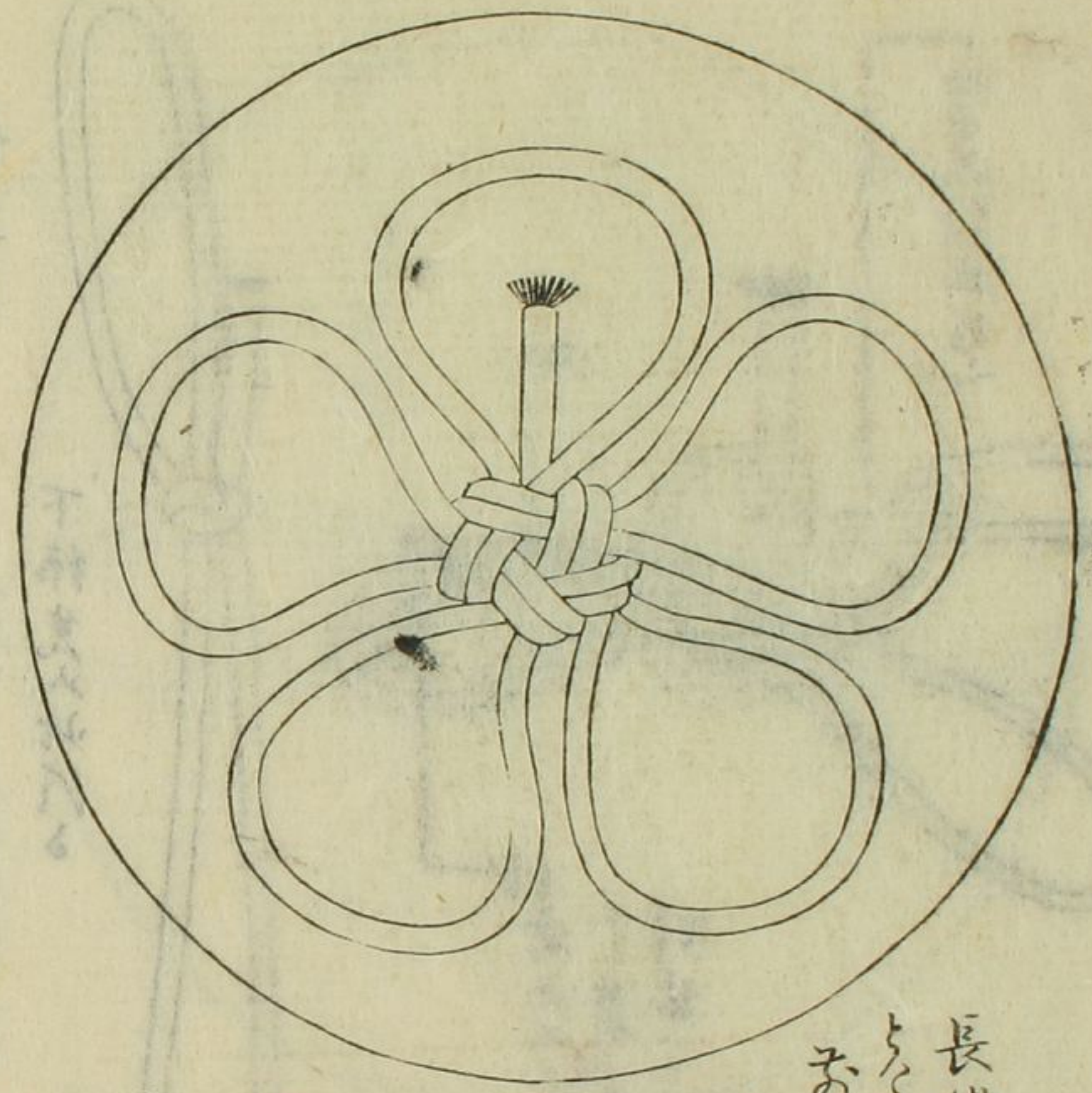


はら結び

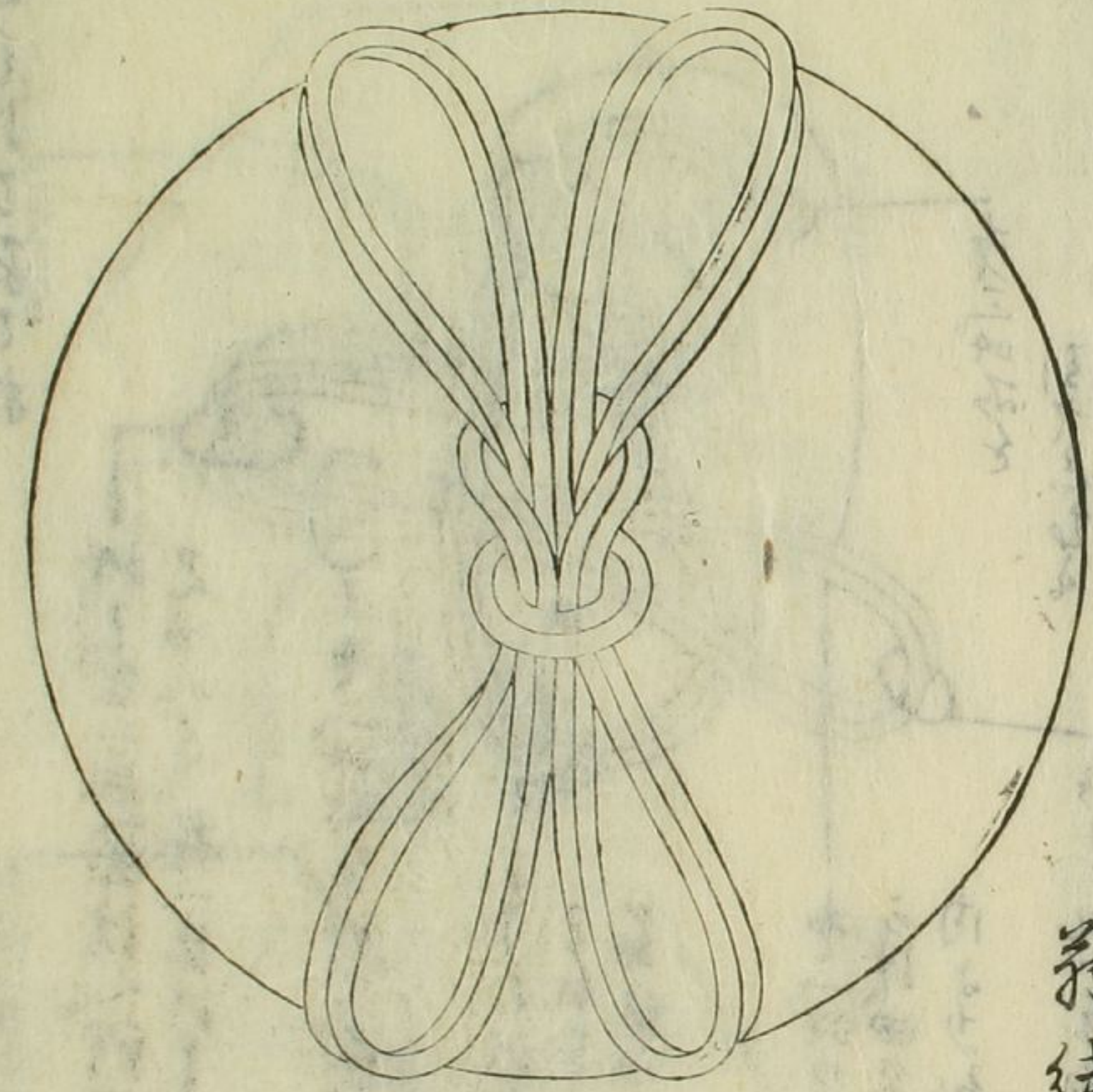
此糸引のどく引通して志む。志むる時糸筋遠くを右に引のどく引通す。

はら結び





長緒の花むすひは長緒むすひ  
 とくくむづうして急なる  
 子記したる長緒むすひは方  
 々和まるとより此むすひ  
 やら先何れ下結む  
 をしておとをか向二方  
 引二分のうをこつふまな  
 小折二分のうをこつふまな  
 少れをほれが五よふ  
 うを石がみを紐とく紐  
 て結子と初ふき  
 み引通 金むすひ  
 起とす

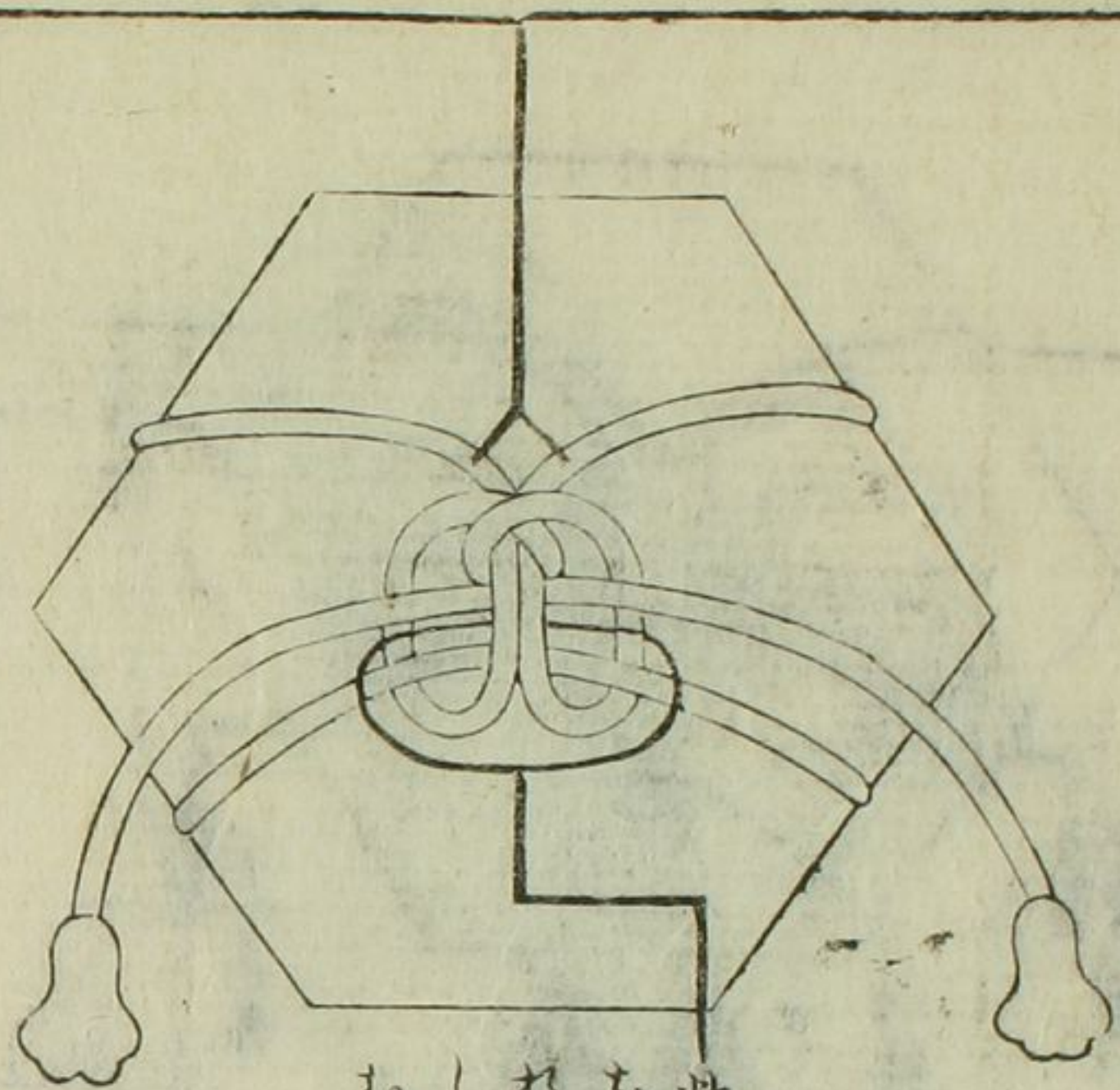


長緒むすひ  
 鳥結  
 是も長緒の  
 結むすひ也

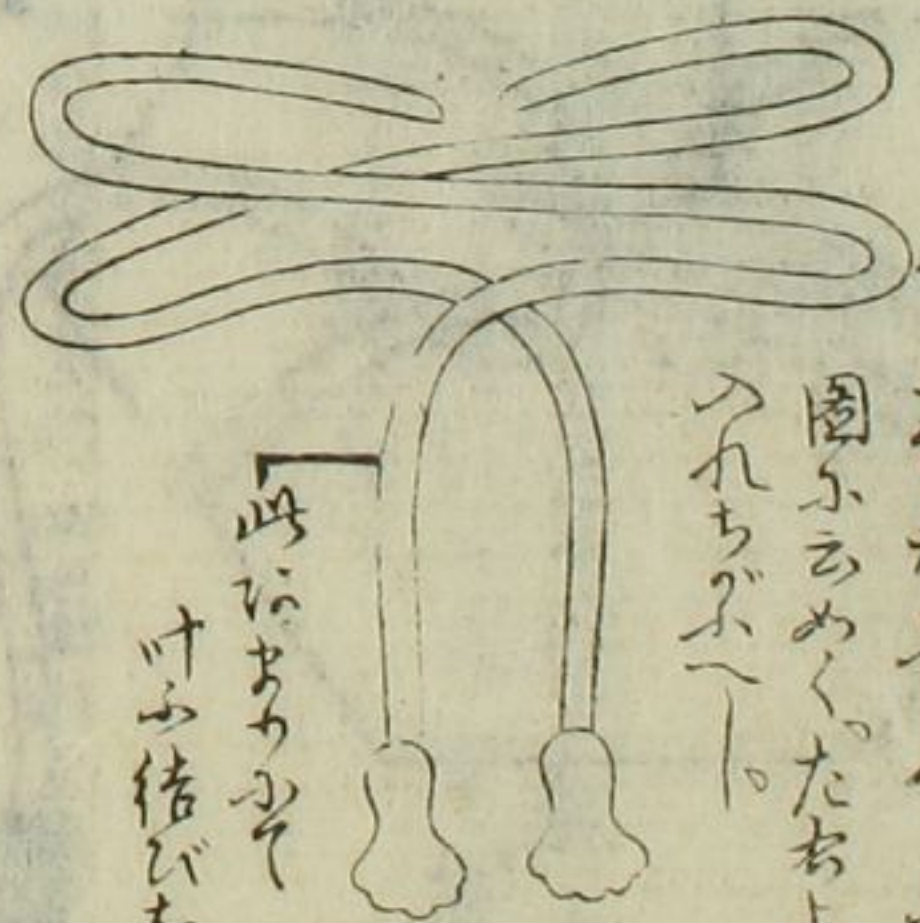




此所此丸右の緒をかりみ十字字はほ。



此回へ左の緒を下の圖へかくおふ方まちまちして入色ておむ。



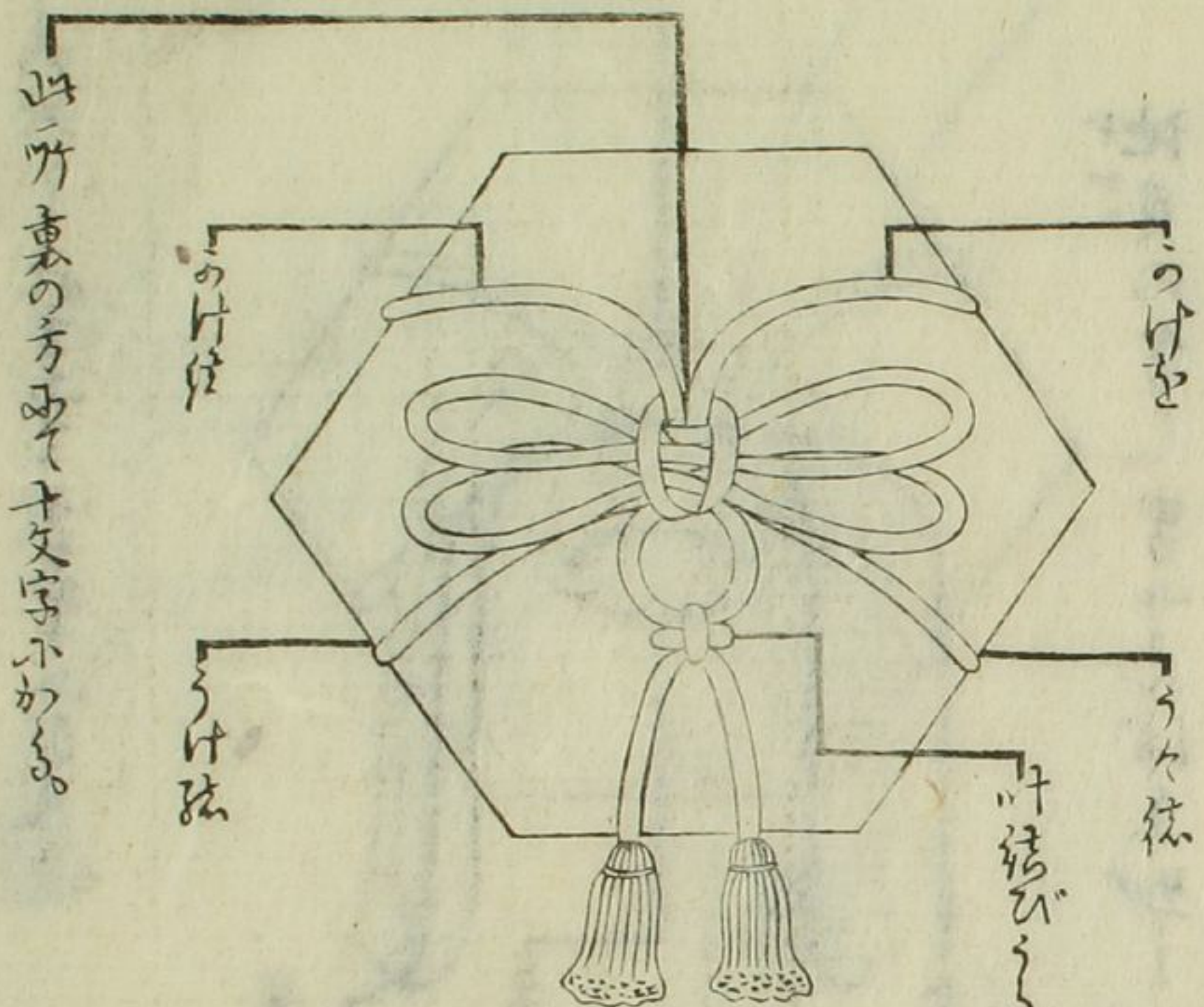
此左の緒をかりみ十字字はほ。あまかふして、上は圓ふてめく。たおよりつれちおへ。

此にちちちて叶ふ緒をほ。

此所へ丸右の緒をかりみは十字字はほ。緒の端を、たいた、右におへ出へ。

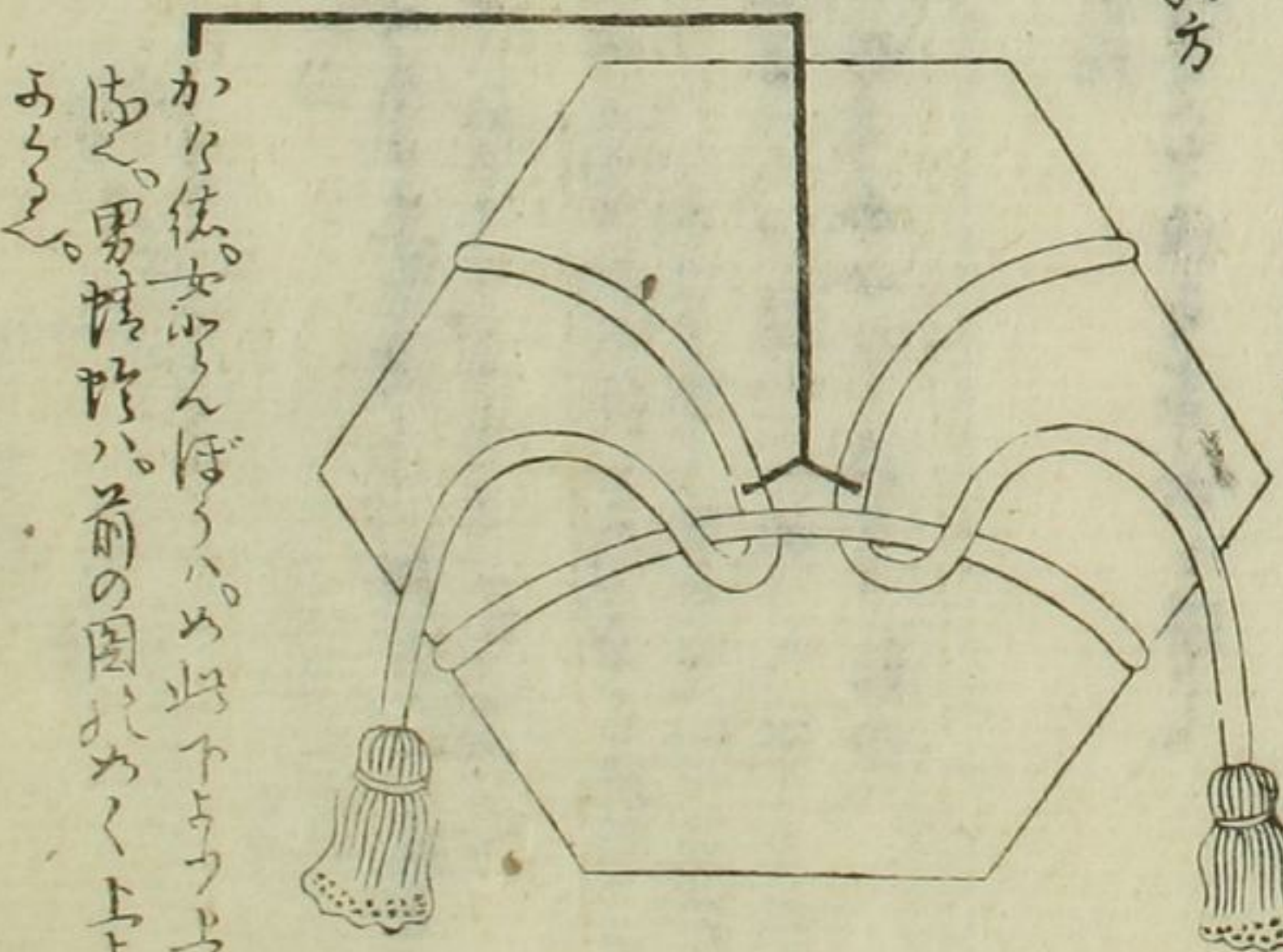
一女おんぼり

女おんぼり、男おんぼりをうらぐりたる。



此所裏の方にて十字字はほ。

結ひ松



かき結、女おんぼり、此下より上へかき、男結、前の圖にめく上より入る。





此四のツルをさるるまみ子紐。

一の目なをせぬ入引出。

一鳥帽子の魚結結び指

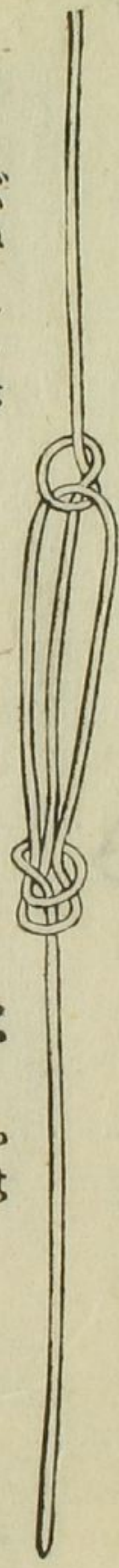
表

裏



前子紐一たしぬ。ねまきりく記。

むらびねえぬ此

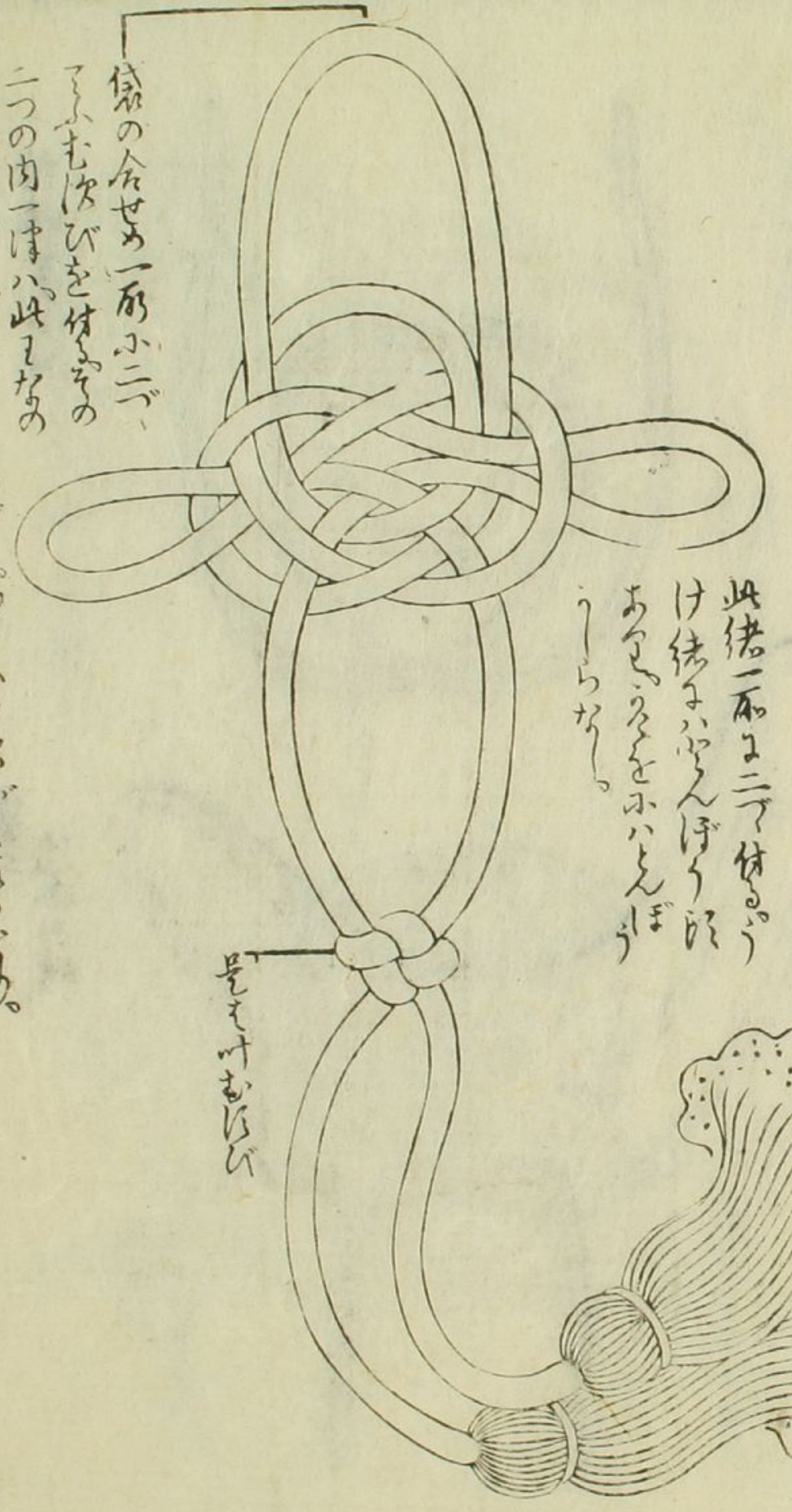


次下ぬ此



一蝶結

琴袋小付

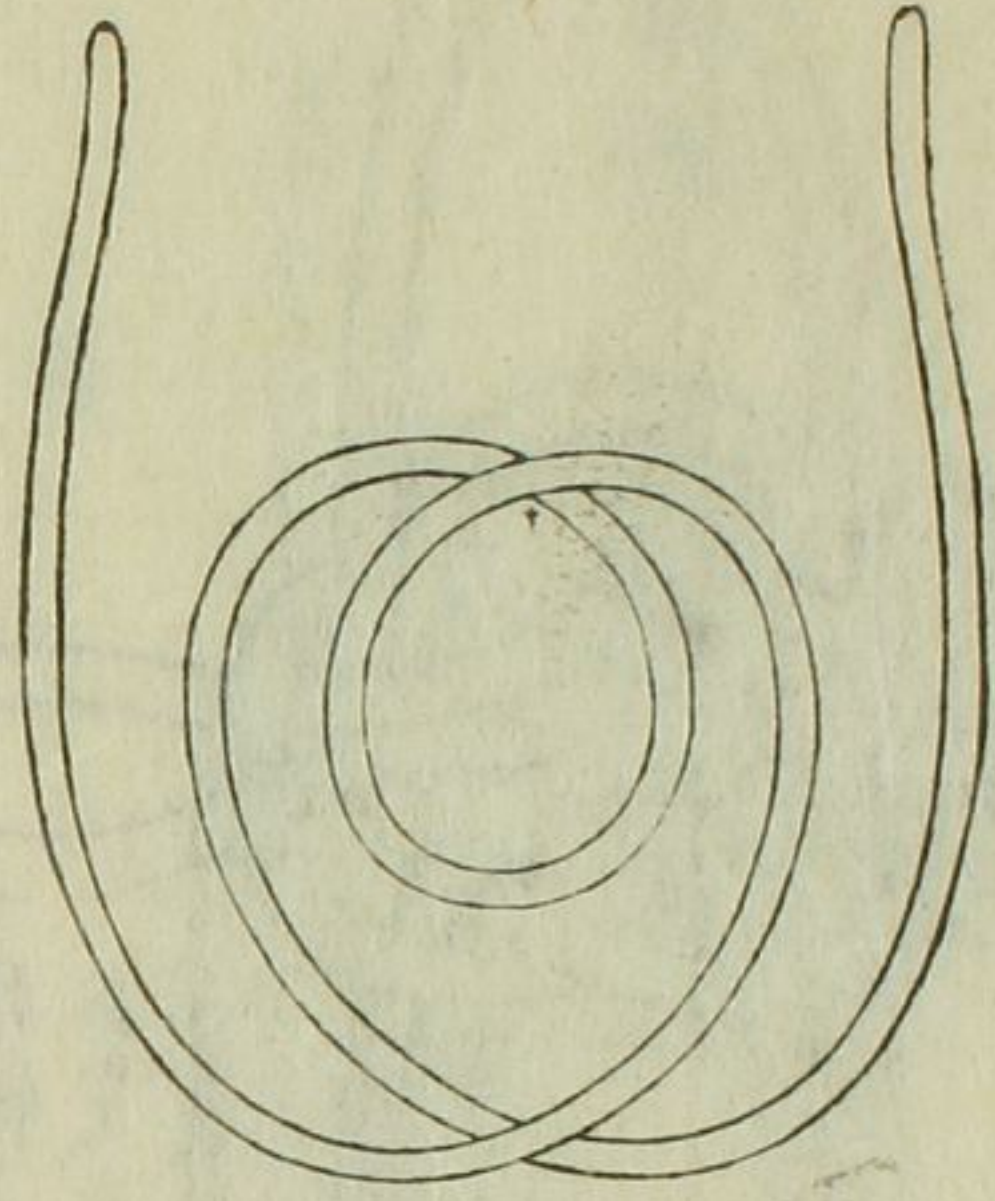


此結二本より二つ付。け結子にやんけうけあふるを小いんぼうらな。

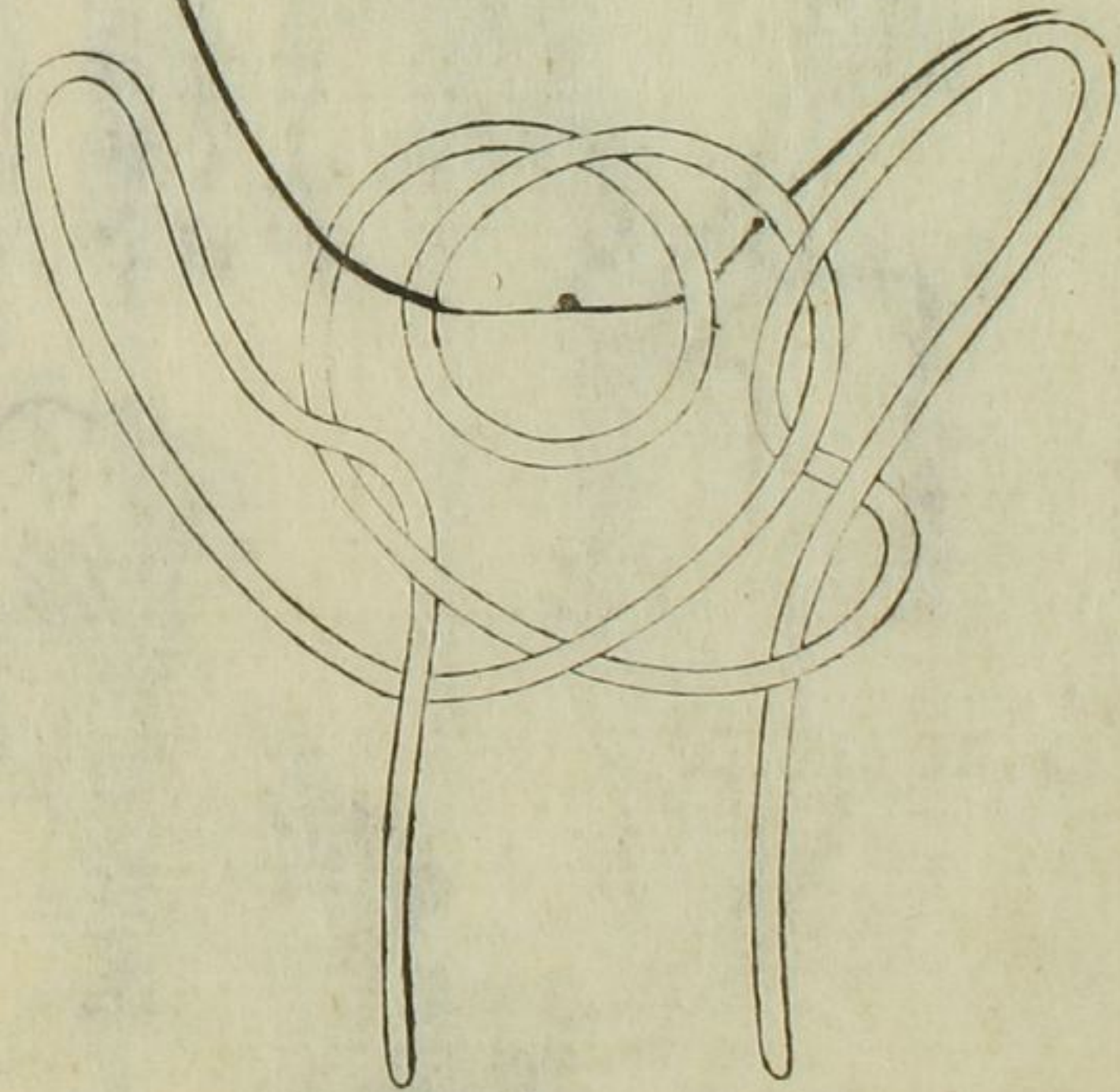
是よりむらび

袋の合せぬ一筋ふ二つ。ふもむらびを付るもの。二つの内一は八此。なぬ。なをえんほうが。け結子にやんけうけあふるを小いんぼうらな。

第一  
倍根先如此



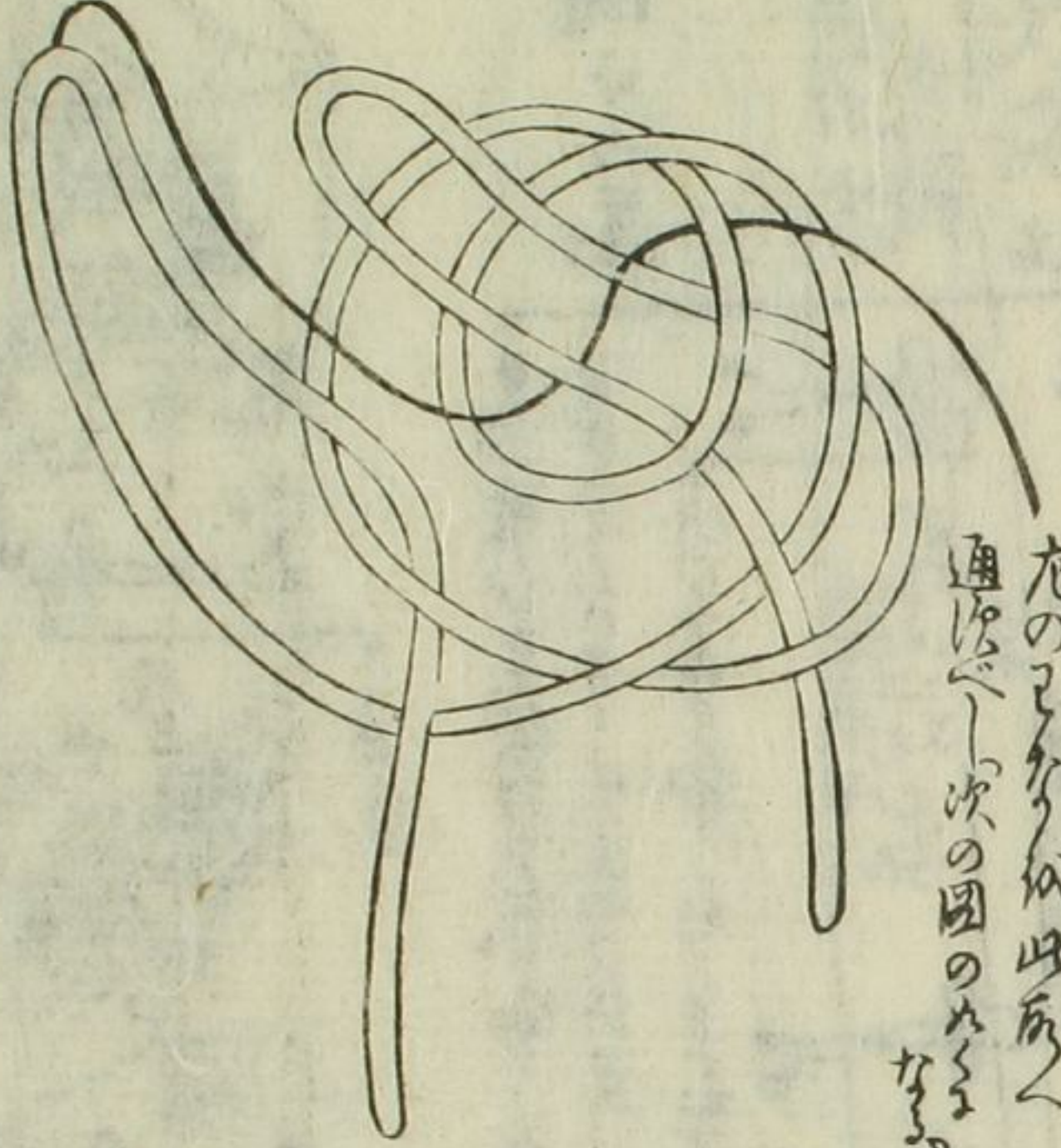
第二  
次ふれ此



右の方より左へ、  
左の方より右へ、  
此の中の輪の内へ下より上へ通せだ。  
次乃圖のよとくまなむ。

第三

次ふれ此

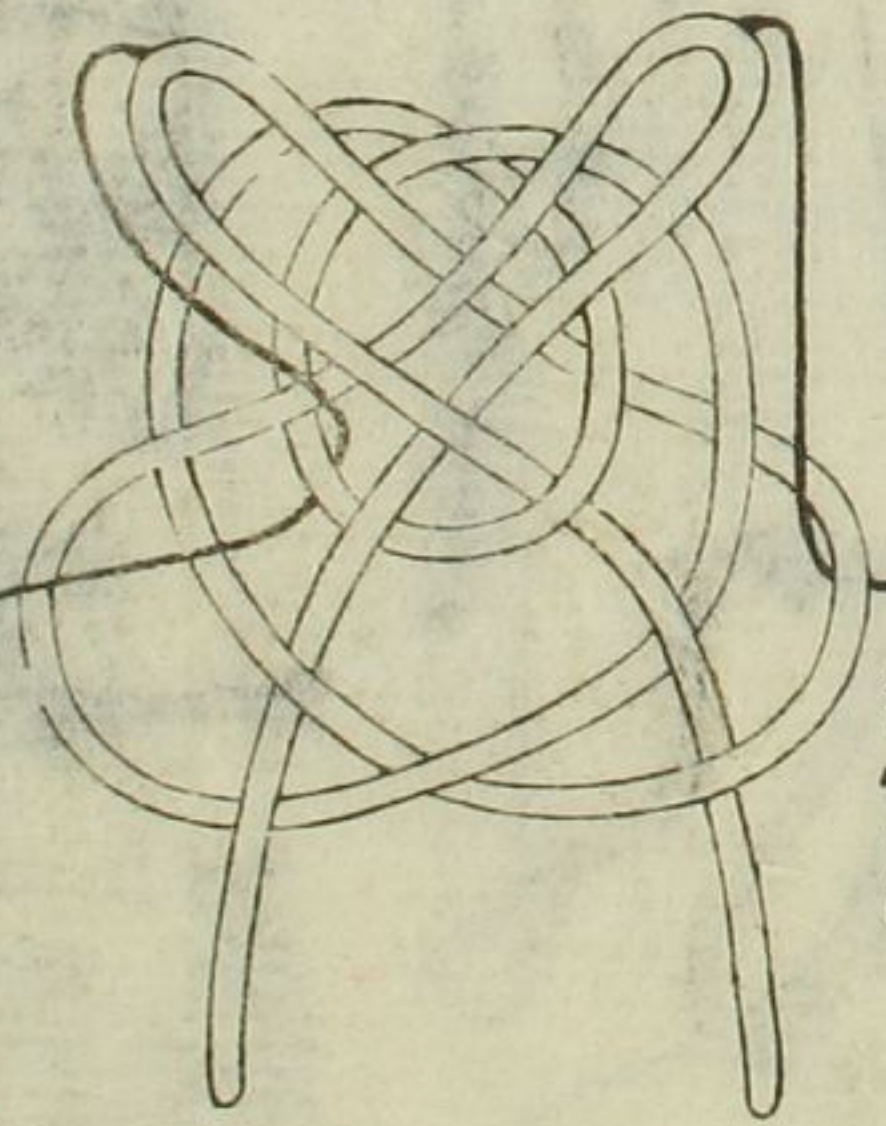


左の方より右へ、  
右の方より左へ、  
此の中の輪の内へ上より下へ通せだ。  
次乃圖のよとくまなむ。

右の方のまなを通したる圖。

第四

次ふれ此



此をなを此所へ  
引出た。

此をなを此所へ  
引出た。



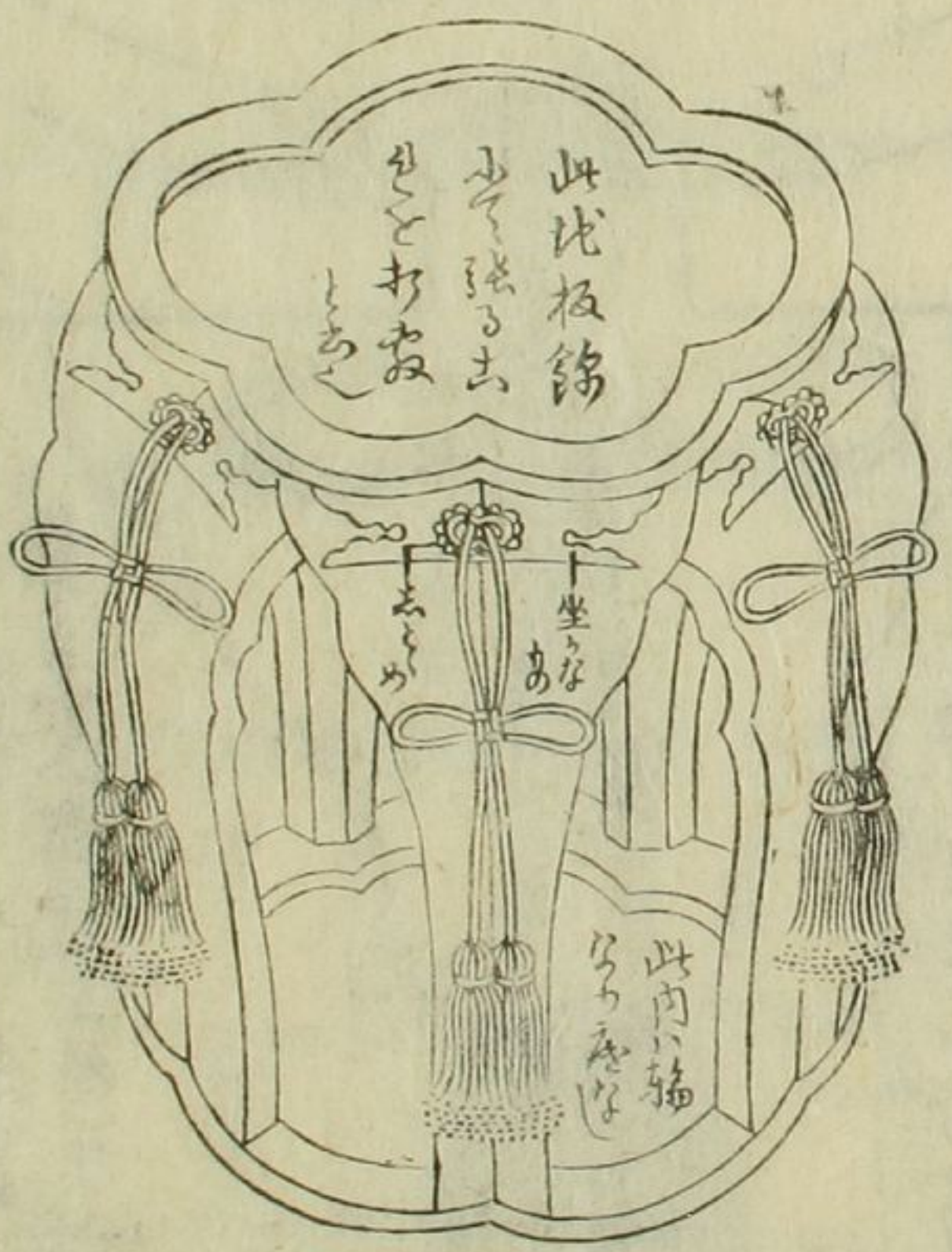




右のほろびきびいあたるほろびの意又いほろび棚をのらあ公  
 とら知ら不用えらし志とよあたるほろびの意又いほろび  
 なよの面候あきたらんあたるえらるるえらるるあたるあたる地板ふ  
 備えとら知らえらあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたる  
 かつらふあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたる  
 法びのるんあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたる  
 ひとびいあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたる  
 たあえみほろび棚のあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたる  
 ともみあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたる  
 法びとあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたるあたる

一 淋<sup>ニスル</sup>坏<sup>ギ</sup>の臺<sup>ダイ</sup>全圖

地板<sup>チイタ</sup>結び<sup>ムスビ</sup>扱<sup>アツ</sup>次<sup>ツギ</sup>子<sup>コ</sup>あり

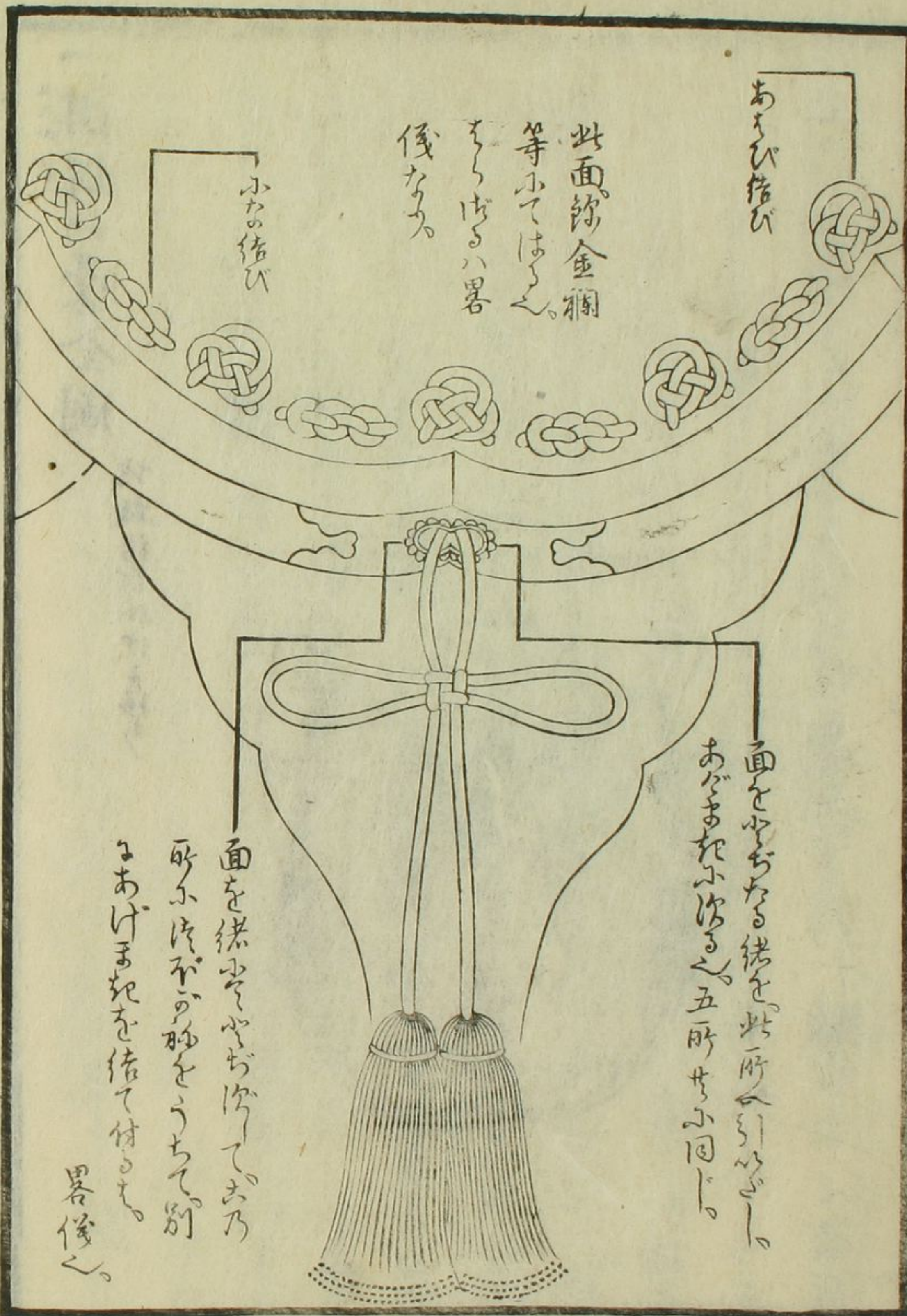




あまひ結び

此面錦金襴  
等小ては  
まゝはるハ畧  
儀なり

小の結び

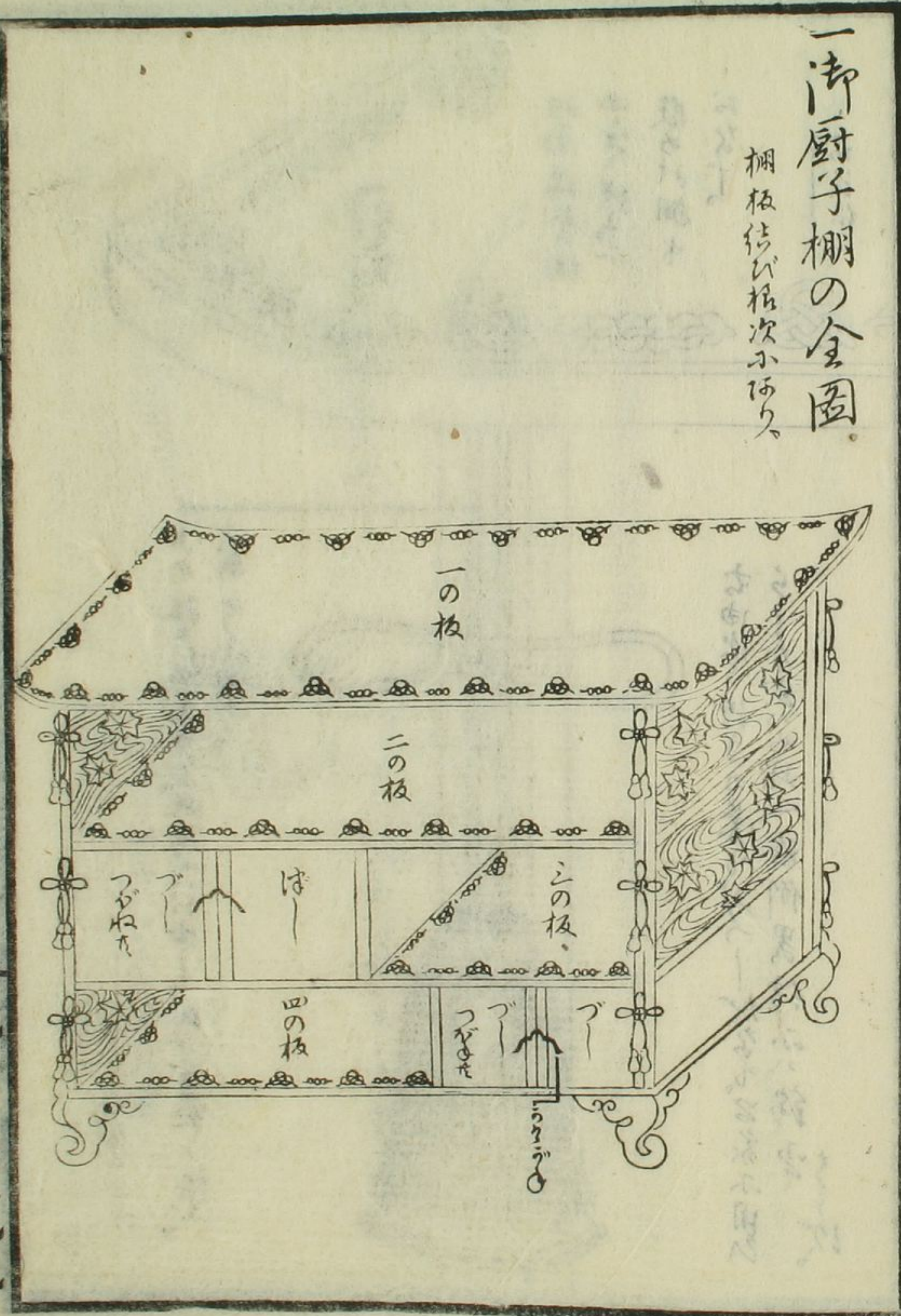


面をやらなる結を此所へ引ひき  
あがちねふゆへに五所せよ同し

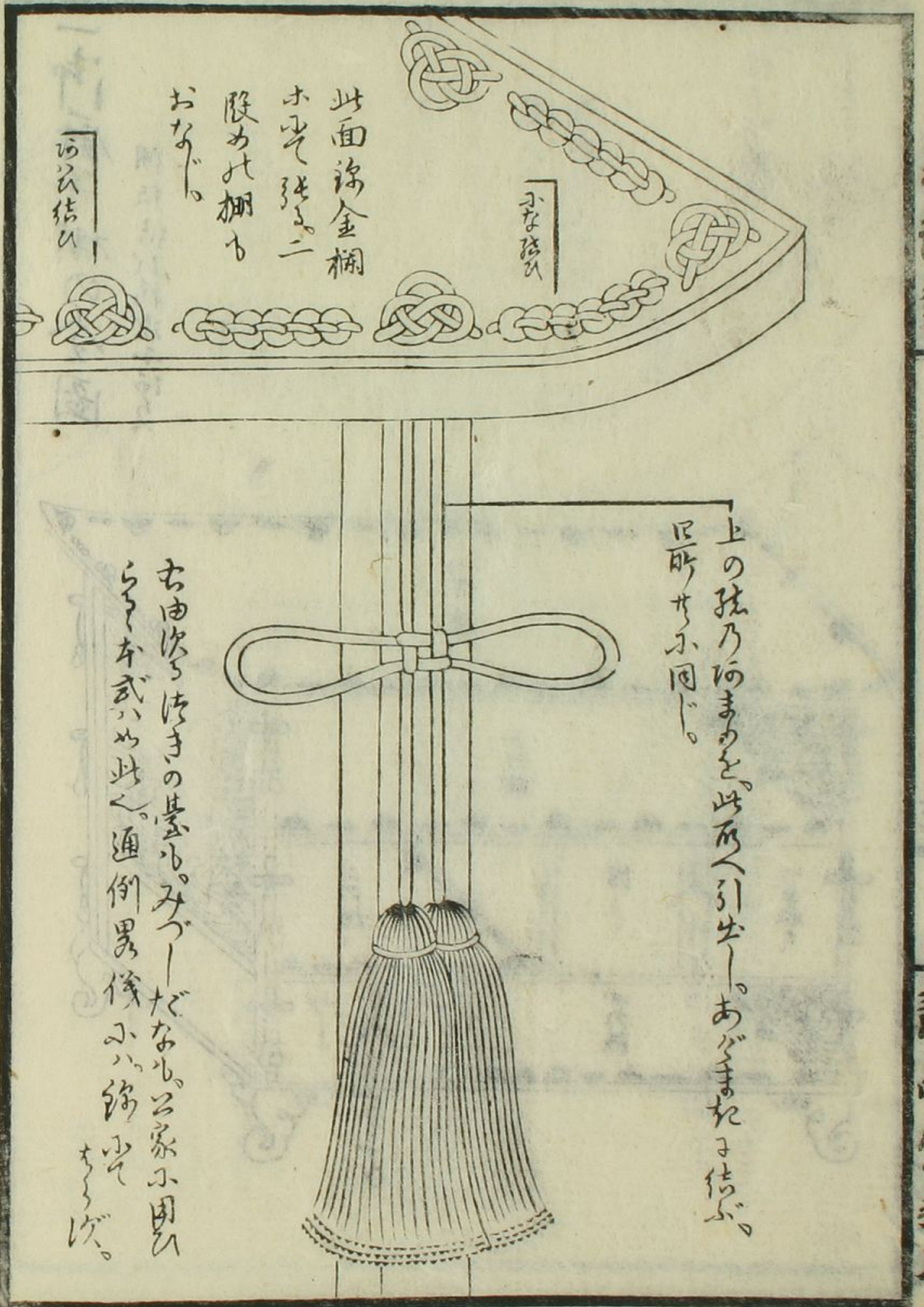
面を継ぎやちかして、六乃  
所ふは、不のゆをうちて、別  
よあげまねを結て付し。  
畧儀

一 御厨子棚の全図

棚板結び格次小あり



七十四

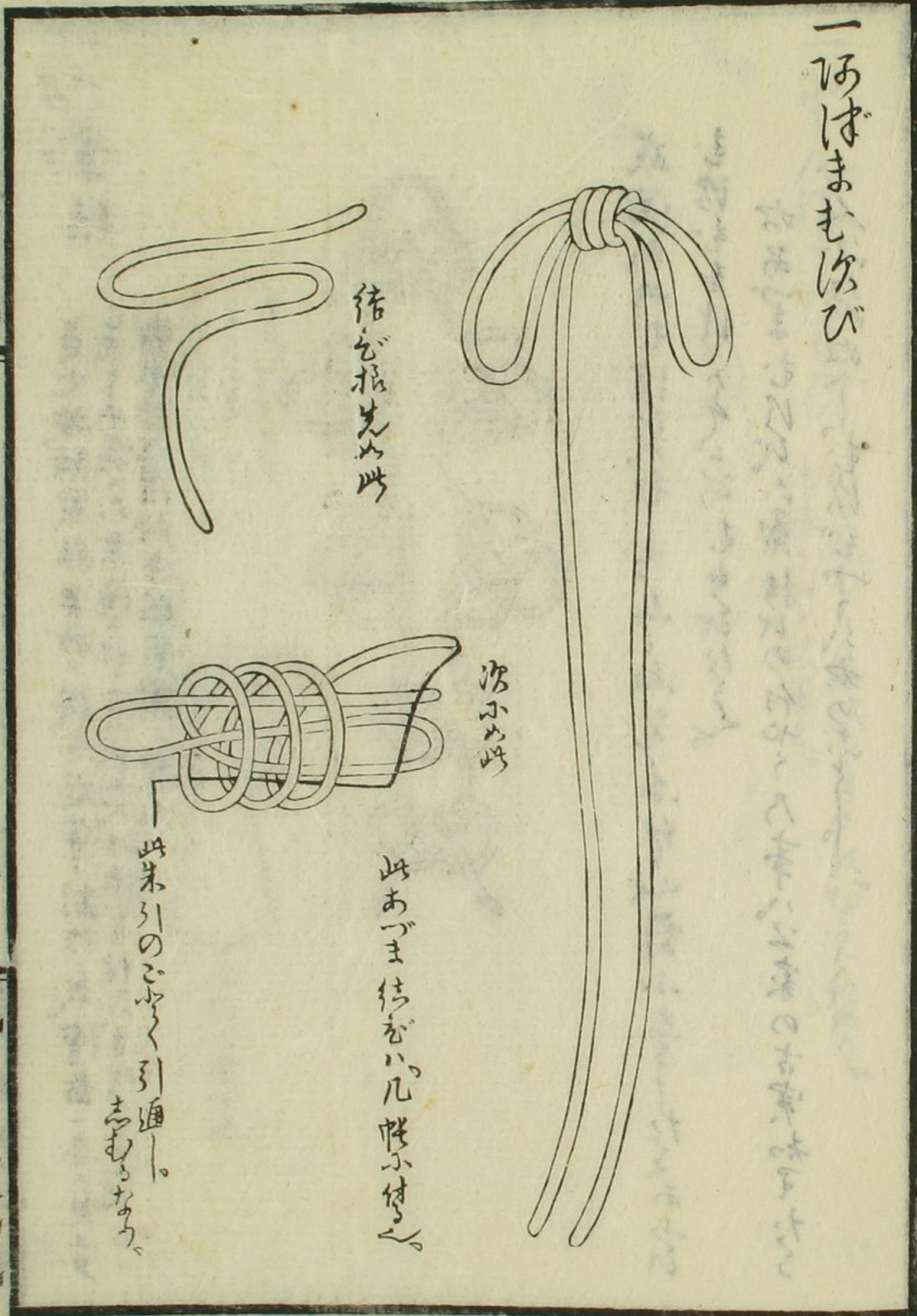


此面縁金欄  
ホウキ張りニ  
段あり棚も  
おなま

上のはらけまのこ  
は所せし同じ。

右由次は清書の基も。みづーだなる。公家不困の  
らる本武め此へ。通例異儀ふハ。飾り  
まじり

一 何はまむはび



結を指先此

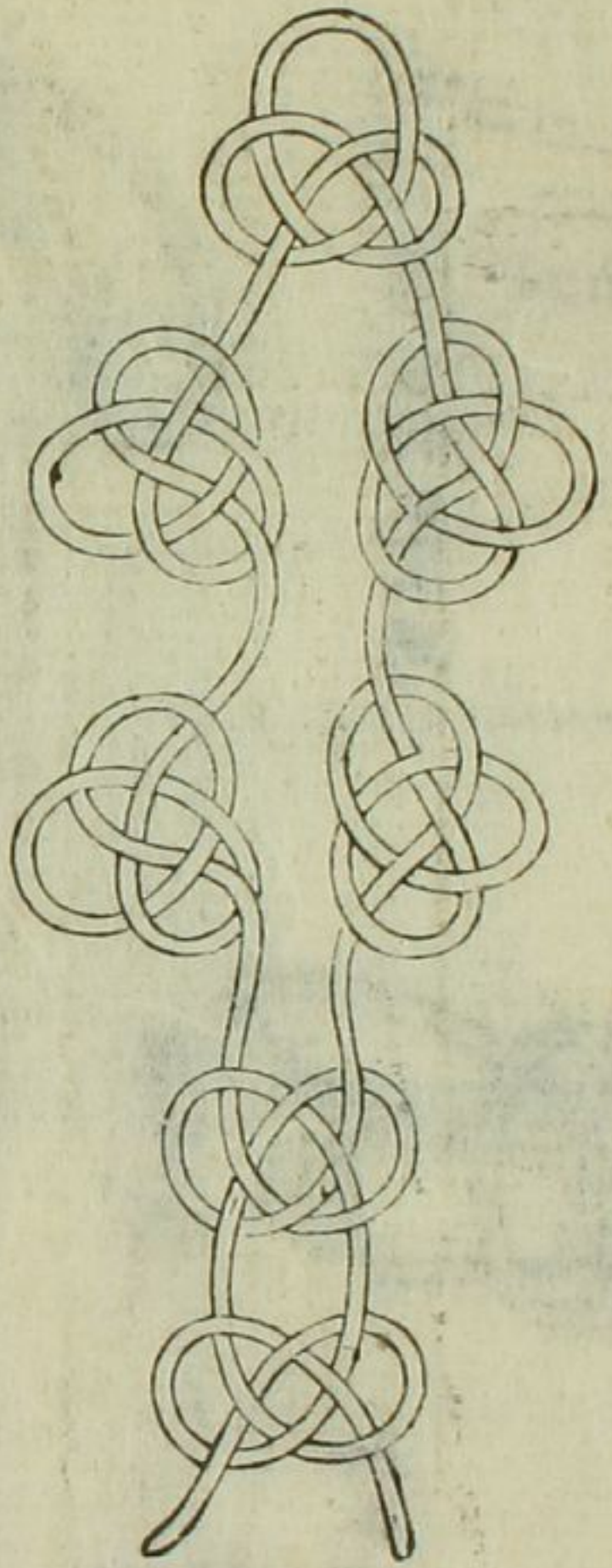
此あづまはび

此あづまはび凡帳不付

此糸引のこやく引通し  
まじり

一六<sup>ロツコク</sup>葉結

貞丈按、類聚雜要抄、禊并造等ノ制作式、繪畚ニ妻ノ見エタ  
レ氏、ト子造ニ六葉結ト付ル、見エズ、此結ハ付ル、近代ノナレ、右ノ  
雜要抄ハ、清閑寺殿家蔵ノ書ニ

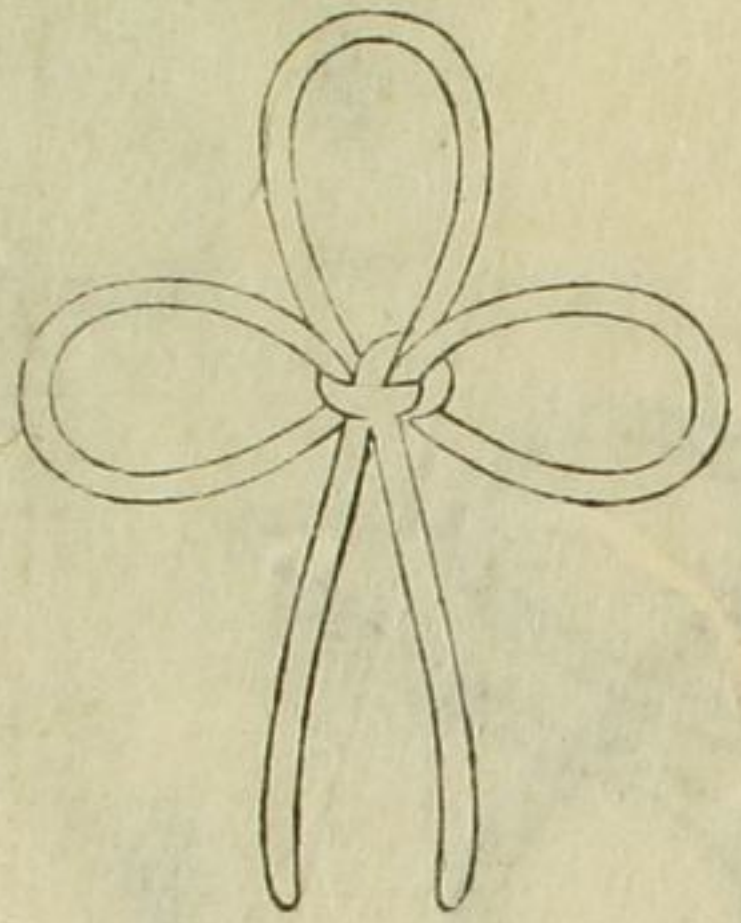


或説云、此むつむびハ、むしち志とぬちを不付也。前ふ志と、たふあふ  
むつむびを、はく、とらむつむびなる也。

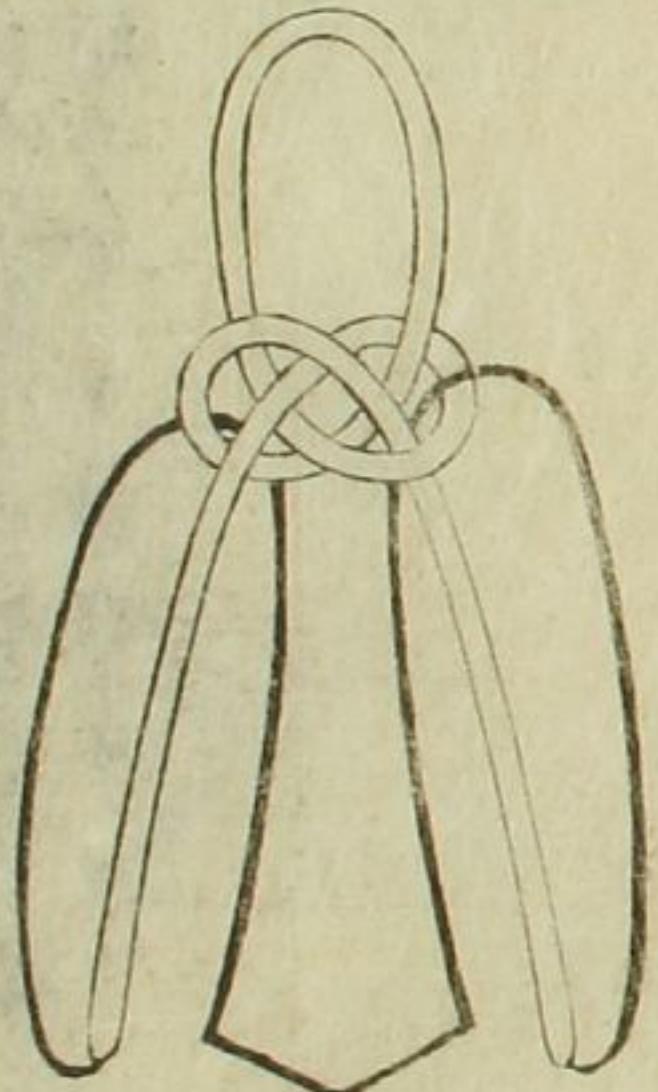
おあづまむつむび、六葉結びの付やう、乃事ハ、公家の古実知事たる  
人、たのぬ、むつむびやうハ、右のよと。

一七<sup>ヒコ</sup>んぼうむつむび

ひこんぼうむつむび、身とた、むつむびを、たのぬ。  
化、はく、り、木用也。



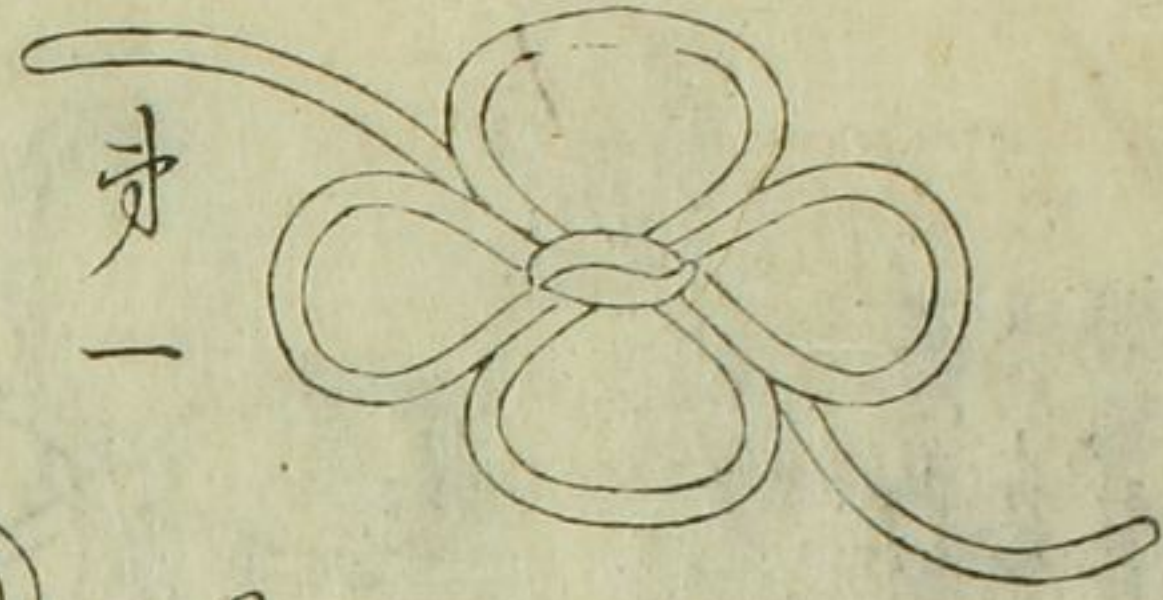
法ハ、此、結、たのぬ  
う、つ、む、び、を、  
ま、結、む、む、び、  
め、を、す、ん、び、の、  
か、



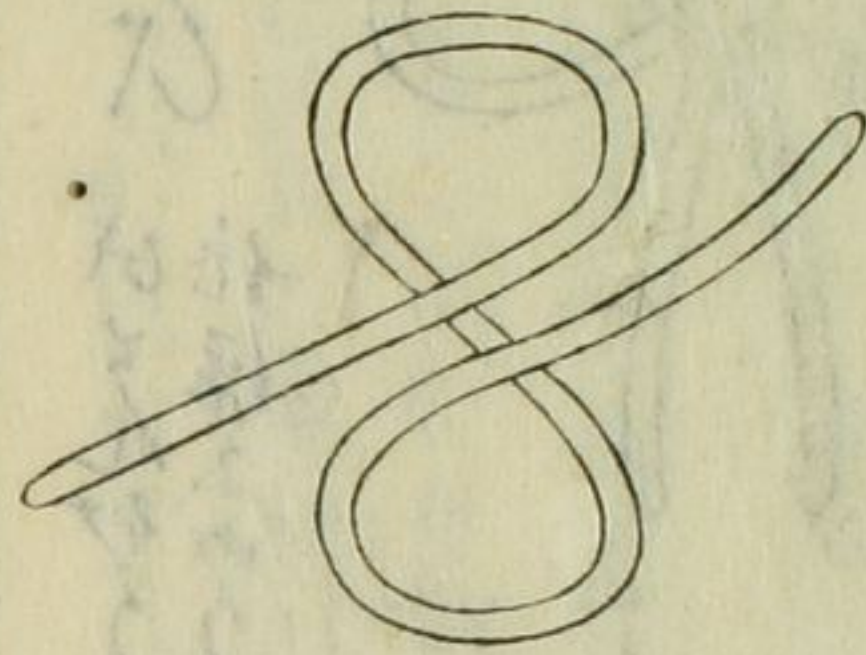
此、ひ、こ、ん、ぼ、う、也

一 三つ葉のむすび

あのみとびやうのむすびのしるし  
むすびのしるし

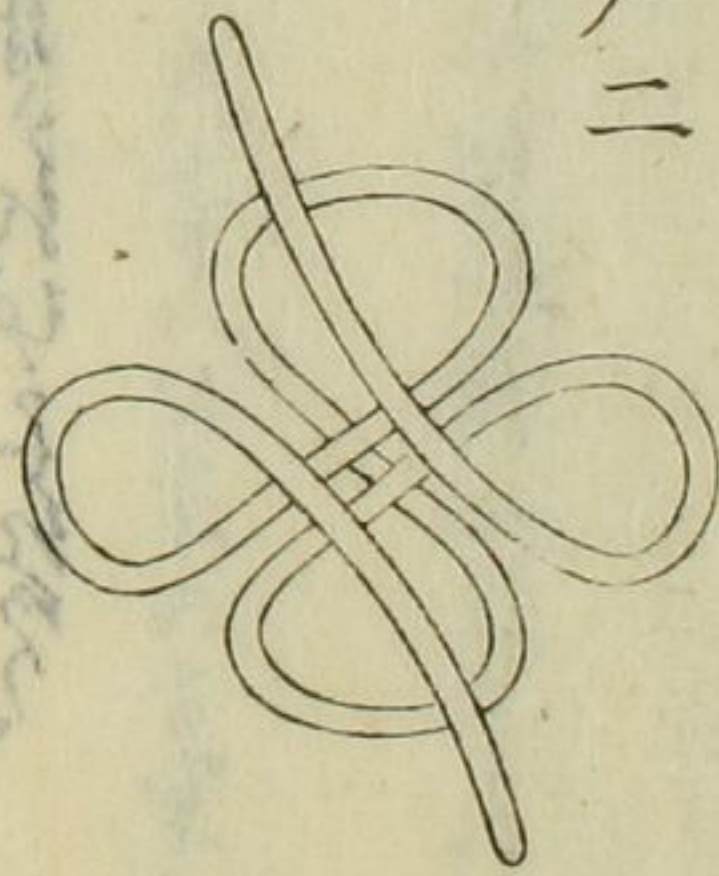


オ一

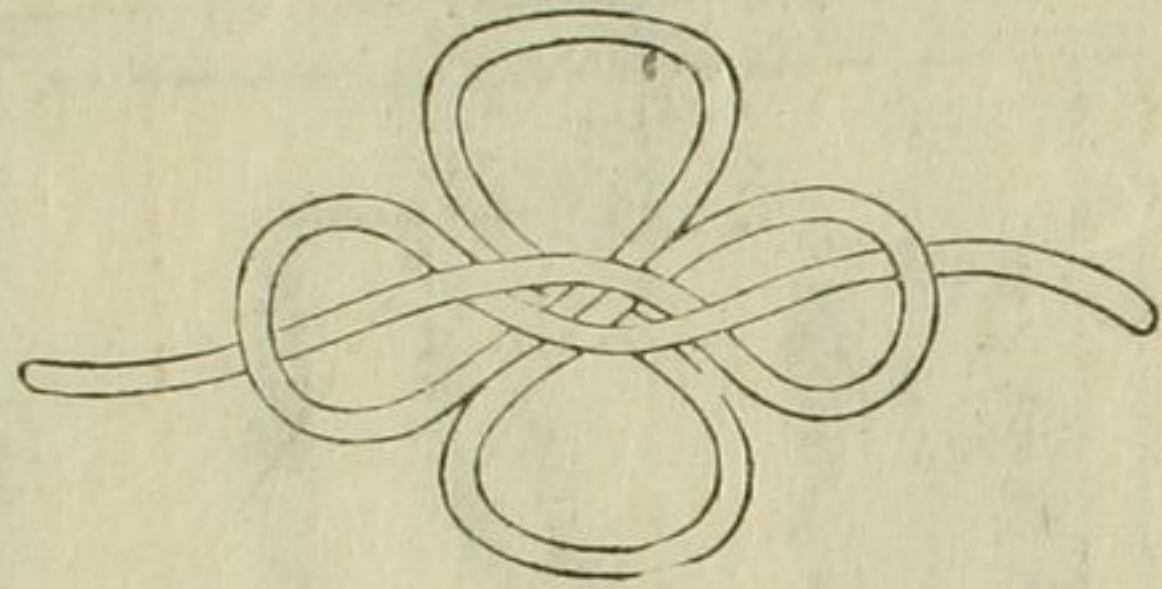


むとびやうのむすび

オ二

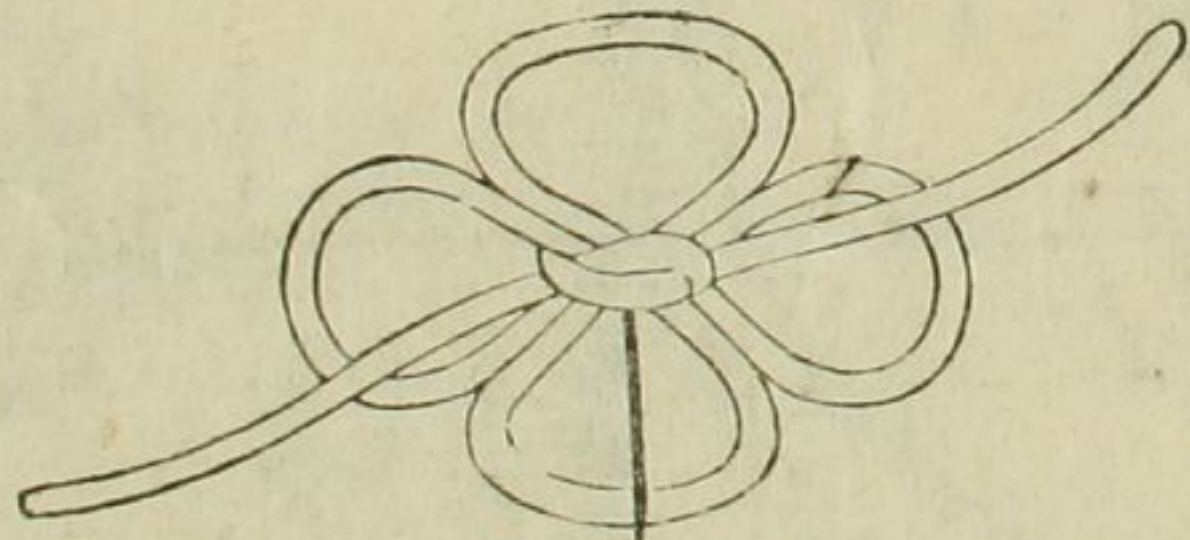


オ三



オ四

むとびやうのむすび

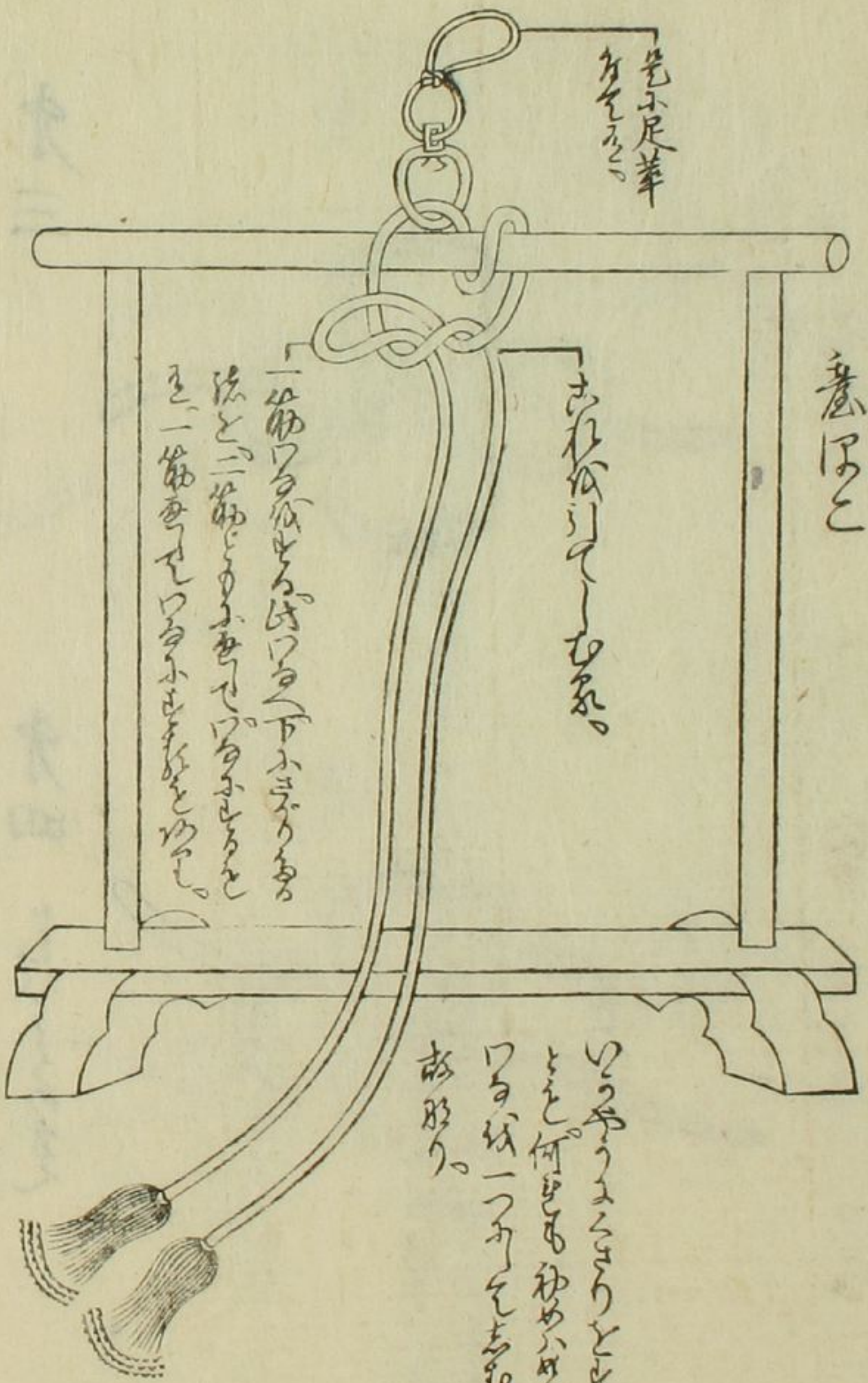


あのみとびやうのむすび  
むすびのしるし

一 考 匠 匠 匠 匠 三 品

大 儀 の 考 匠 匠 匠 三 品 考

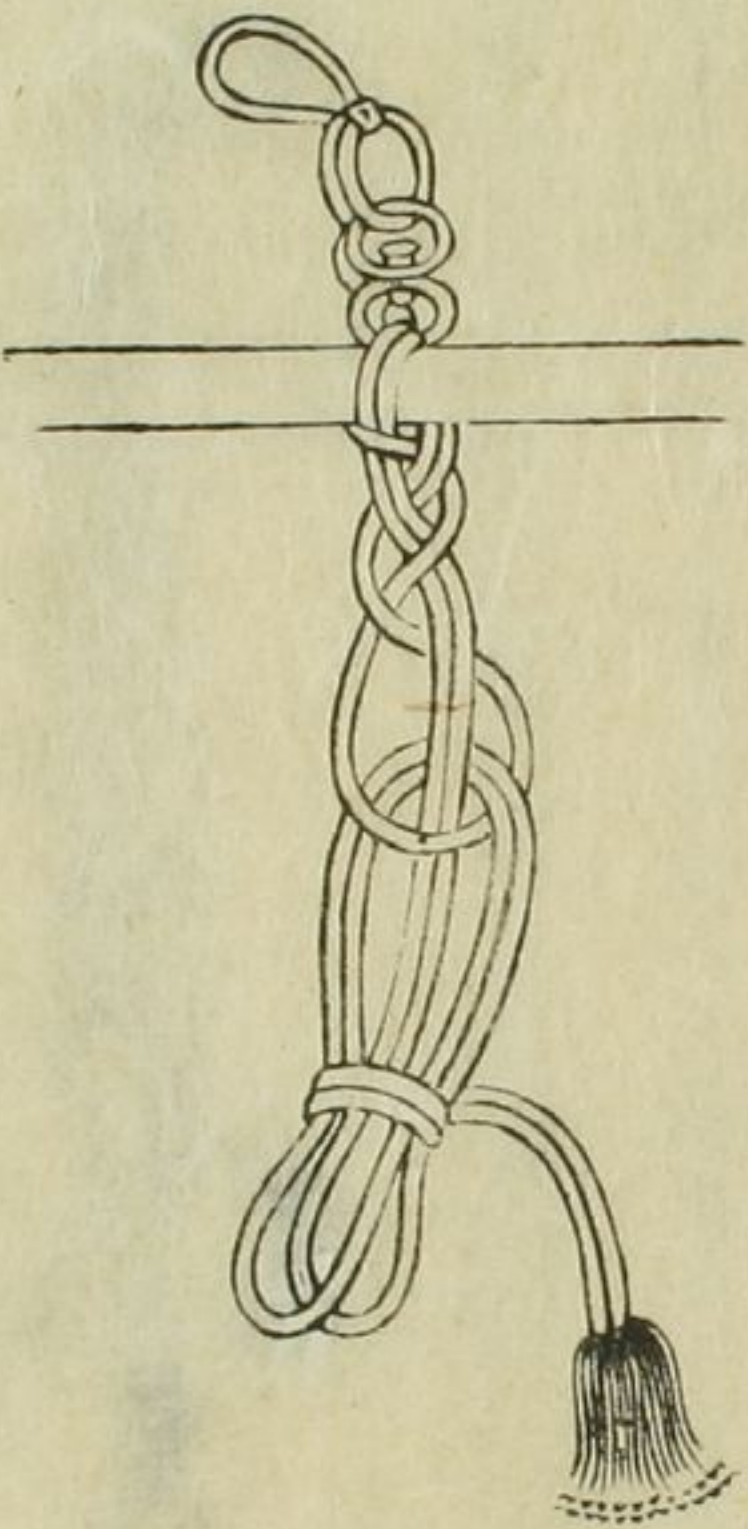
意 匠 考



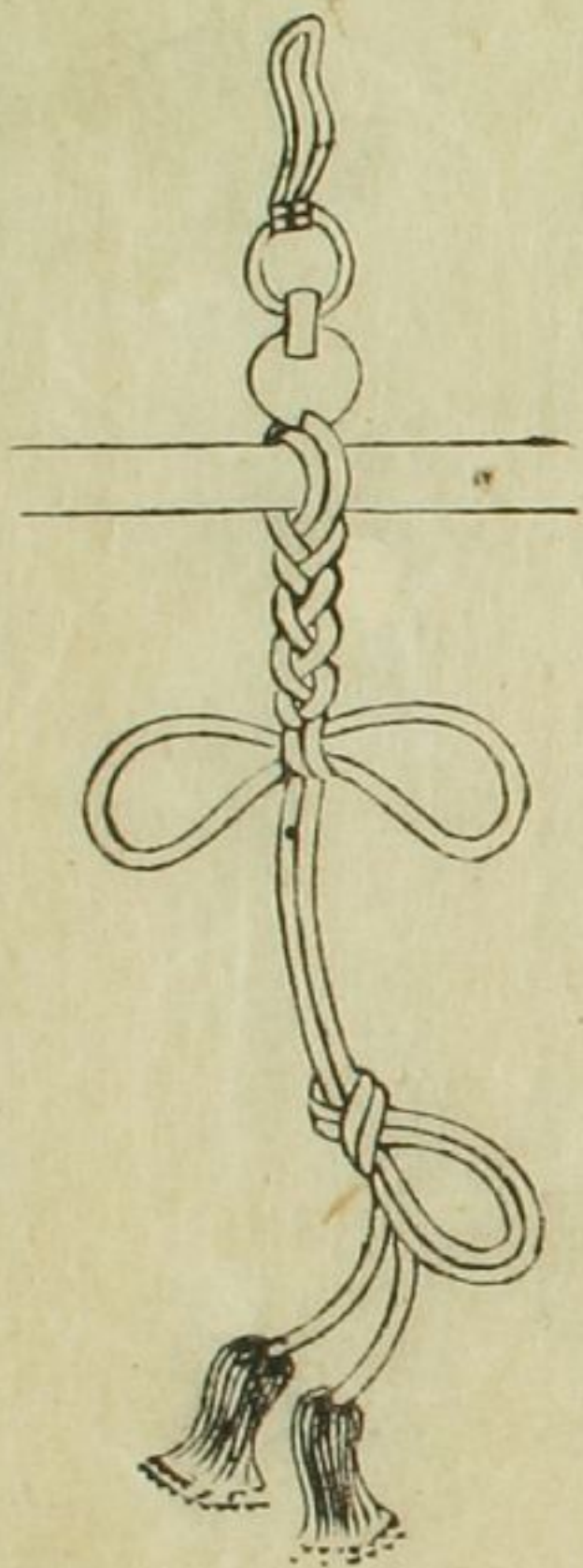
考 匠 匠 匠 匠 三 品 考

考 匠 匠 匠 匠 三 品 考

考 匠 匠 匠 匠 三 品 考



此 一 考 匠 匠 匠 匠 三 品 考  
 一 考 匠 匠 匠 匠 三 品 考  
 一 考 匠 匠 匠 匠 三 品 考

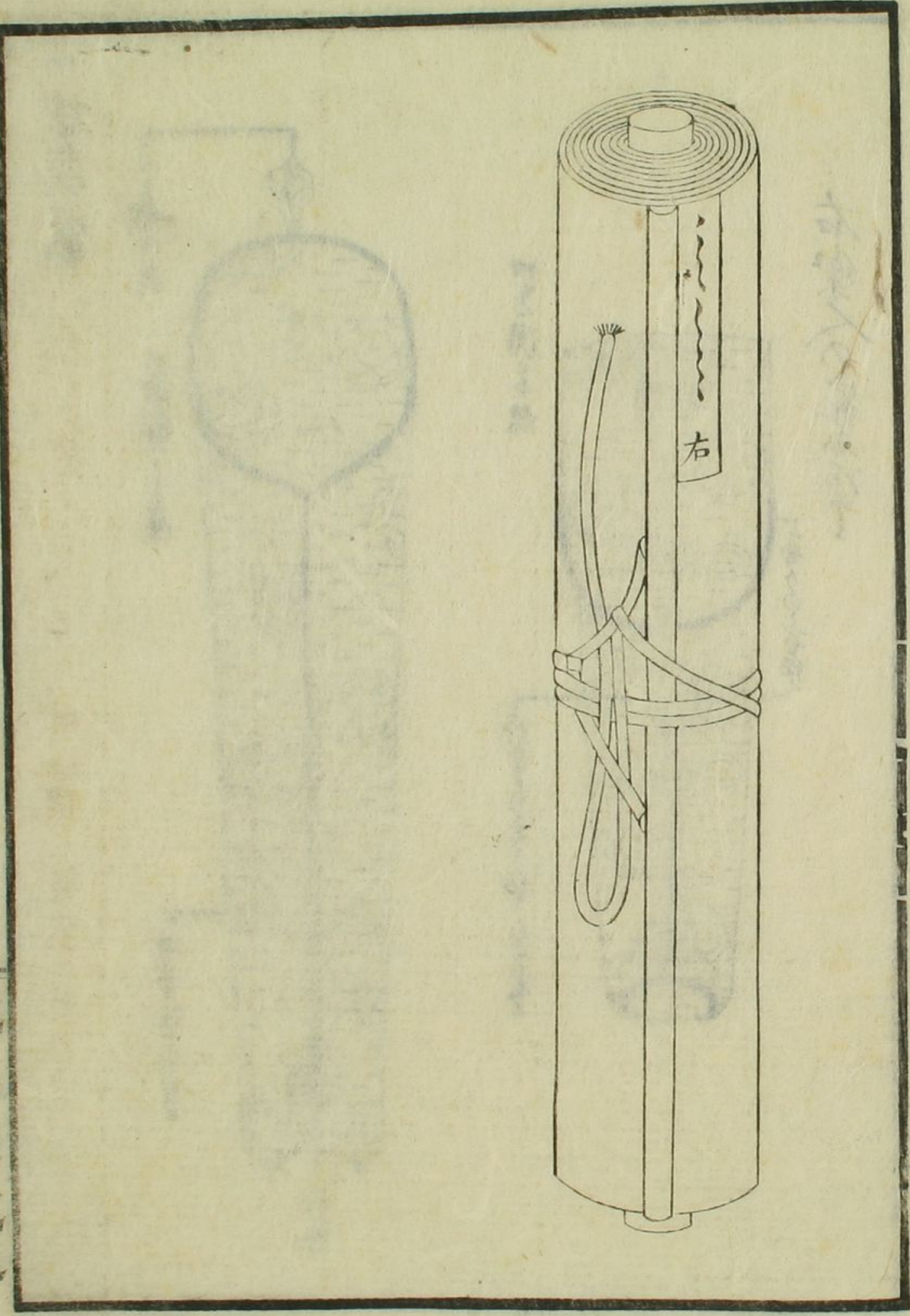
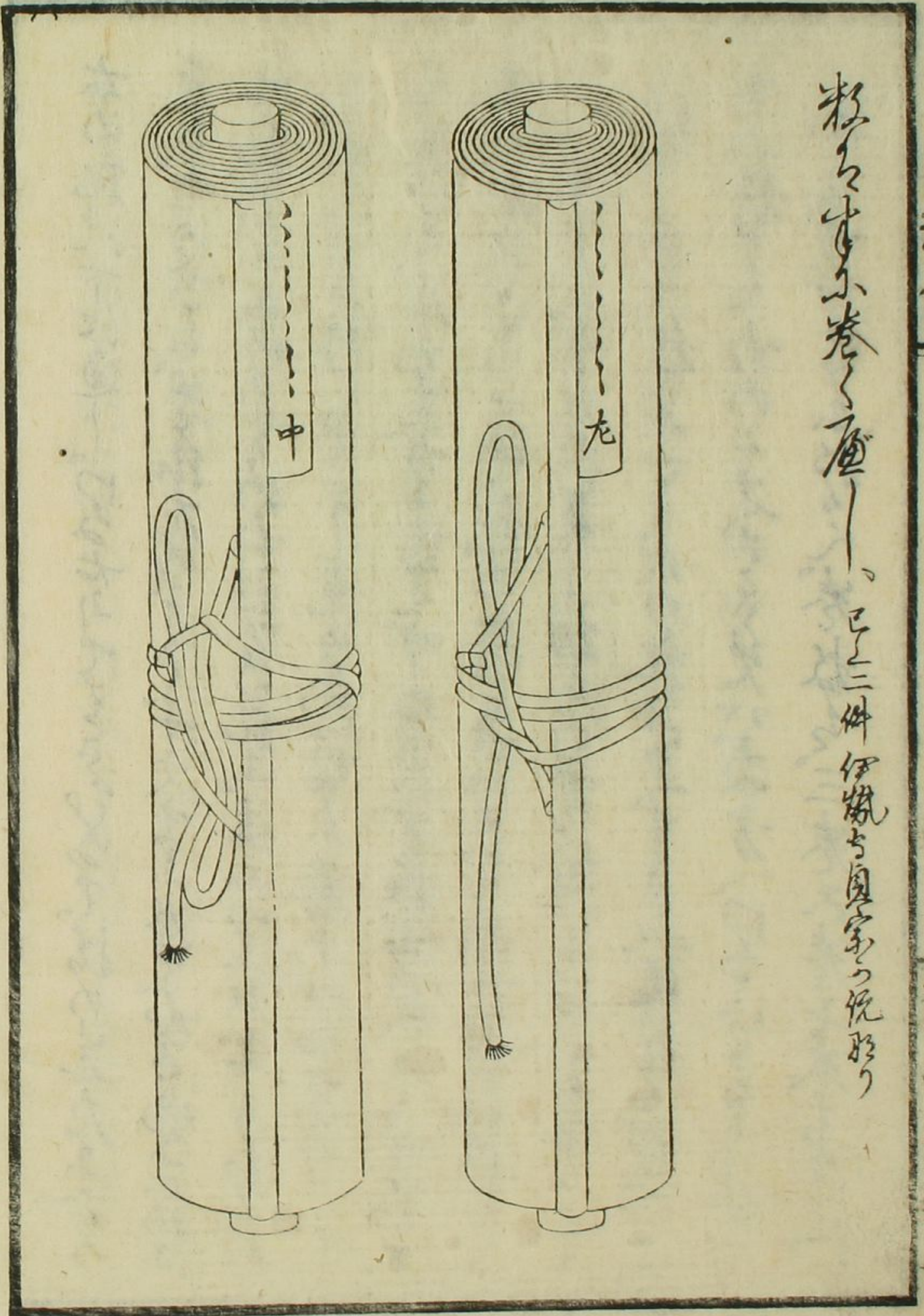


此 一 考 匠 匠 匠 匠 三 品 考  
 一 考 匠 匠 匠 匠 三 品 考  
 一 考 匠 匠 匠 匠 三 品 考





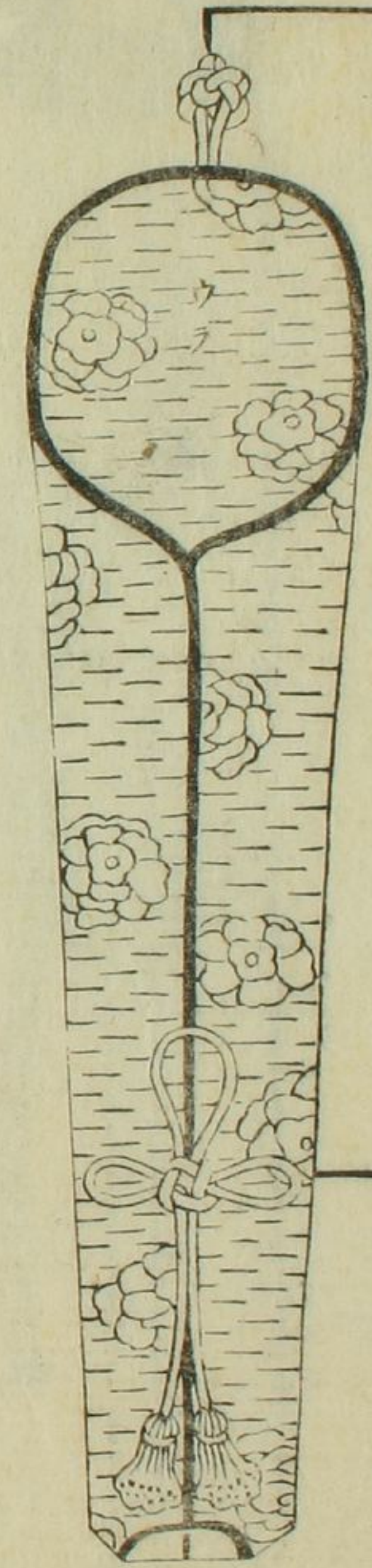
糸を巻く巻く巻く。三件伊織と圓字の尻形





一笠の袋

口を閉る紐  
口を閉る紐



口を閉る紐

袋底

口を閉る紐



口を閉る紐

右樂人の家小柄

口を閉る紐

X

